

長崎大学工学部工学科

社会環境デザイン工学コース

シラバス

2026年度

【令和8年度入学者用】

工学部 令和8(2026)年度 教務スケジュール

※第1Q・第3Q定期試験期間に、セメスター科目の8回目の授業を行う。

	日	月	火	水	木	金	土
令和8年				1	2	3	4
	5	6	⑦	8	9	10	11
4月	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
5月	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						
		1	2	3	4	5	6
	7	8	⑨	10	11	12	13
6月	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
7月	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
							1
	2	3	4	5	6	7	8
8月	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
9月	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	⑳	29	30			
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
10月	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
11月	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	⑳	27	28
	29	30					
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
12月	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
令和9年						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
1月	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
2月	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28						
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
3月	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

総合型選抜 I 実施

金曜日の試験実施

<前期行事予定等>

入学式	4月2日(木)
学部・コースオリエンテーション	4月1日(水)～6日(月) ※詳細はコースから通知
前期・第1Q科目授業開始	4月7日(火)
前期・第1Q・第2Q科目履修登録期間	3月23日(月)～4月20日(月)
開学記念日	5月31日(日)
第1Q科目15回目の授業・定期試験 (セメスター科目は8回目の授業)	6月2日(火),4日(木)～8日(月),10日(水)
第2Q科目授業開始	6月9日(火)
前期科目15回目の授業	7月23日(木)～29日(水)
第2Q科目15回目の授業	7月31日(金)～8月6日(木)
前期・第2Q科目定期試験	7月31日(金)～8月6日(木)
前期・第2Q科目定期試験予備日	8月7日(金)
夏季休業	8月10日(月)～9月25日(金)
《教養教育関係事項》	
前期・第1Q科目授業開始	4月7日(火)
第1Q科目定期試験日 (セメスター科目は8回目の授業)	6月2日(火),4日(木)～8日(月),10日(水)
第1Q科目追試験日	6月12日(金)
第2Q科目授業開始	6月9日(火)
前期・第2Q科目定期試験日	7月31日(金)～8月6日(木)
前期・第2Q科目追試験日	8月10日(月)

○ 授業開始日

■ 土曜・日曜・祝日・祭日

■ 第1Q・3Q定期試験期間及びセメスター科目授業日

■ 第2Q・4Q・セメスター科目定期試験期間

■ 春・夏・冬季ほか休業日

■ 予備日

■ 授業振替日:7/21(火)は月曜日の授業を実施

<後期行事予定等>

後期・第3Q科目授業開始	9月28日(月)
後期・第3Q・第4Q科目履修登録期間	9月19日(土)～10月9日(金)
総合型選抜入試 I 実施に伴う休講	10月16日(金)
長大祭	10月31日(土)～11月1日(日)
第3Q科目15回目の授業・定期試験 (セメスター科目は8回目の授業)	11月19日(木),24日(火),25日(水),27日(金),30日(月)
第4Q科目授業開始	11月26日(木)
冬季休業	12月24日(木)～1月1日(金)
1月授業開始	1月4日(月)
後期科目15回目の授業	1月20日(水),21日(木),26日(火),2月1日(月),5日(金)
第4Q科目15回目の授業	2月2日(火)～4日(木),8日(月),9日(火)
後期・第4Q科目定期試験	2月2日(火)～4日(木),8日(月),9日(火)
後期・第4Q科目定期試験予備日	2月10日(木)
卒業判定資料提出締切	2月22日(月)※未定
教授会(卒業判定)	3月3日(水)※未定
卒業式	3月25日(木)
春季休業	3月23日(火)～31日(水)
大学入学共通テスト(1/16～17)に伴う休講	1月15日(金)、19日(火)
一般選抜(前期日程)入学試験(2/25)準備日	2月24日(水)
一般選抜(後期日程)入学試験(3/12)準備日	3月11日(木)
《教養教育関係事項》	
後期・第3Q科目授業開始	9月28日(月)
第3Q科目定期試験日 (セメスター科目は8回目の授業)	11月19日(木),20日(金),24日(火),25日(水),30日(月)
第3Q科目追試験日	12月2日(水)
第4Q科目授業開始	11月26日(木)
後期・第4Q科目定期試験日	2月2日(火)～8日(月)
後期・第4Q科目追試験日	2月10日(木)

社会環境デザイン工学とは

社会環境デザイン工学とは、「社会環境」を「デザイン」することで、低炭素・循環型社会の実現を目指す総合工学である。「社会環境」とは、人を中心として、それを取り囲む自然的環境（地形や気候等の非生物的要因も含む）や社会基盤施設等による人工的環境から構成される場のことであり、都市部に限らず、人が生活を営むすべての地域（例えば、離島や中山間地域）を含んでいる。「デザイン」とは、機械、建築物、橋梁等の意匠や構造を決める「設計」のみを指す概念ではなく、社会環境の質をどのレベルまで向上させるかという理念づくりから、その具現化の方法（計画、設計、施工、維持管理）までを含んでいる。

したがって、社会環境デザイン工学の目的は、その地域の状況に適した社会基盤の整備、環境修復、そのための仕組みづくりなどにより、「安全で豊かな社会」および「持続可能な環境」を創造するとともに、それを適切に維持することである。

社会環境デザイン工学コースの教育理念

われわれの生活に不可欠な道路や橋、港湾、ライフライン施設（上下水道、電気、都市ガス）、公園などの社会基盤施設を対象に、各施設の計画・設計・施工・維持管理に関する専門的知識を身につけ、都市域のみに限定せず、島嶼域や中山間地域などにおいても、人間活動と自然環境との調和に配慮しながら、「安全で豊かな社会」と「持続可能な環境」のデザインに技術者として貢献できる人材を養成することを理念とする。

日本技術者教育認定機構（JABEE）対応
「社会環境デザイン工学コースプログラム」の学習・教育到達目標
（2015年度入学者から適用）

[A] 多面的視点からの思考力

人文・社会科学、人間科学および自然科学などに関する幅広い教養を身につけるとともに、いかなるときでも物事を多面的な視点から把握し分析する能力を身につける。

[B] 土木技術者としての倫理観

土木事業が社会や自然に及ぼす影響・効果を十分に理解し、同時に土木技術者としての責任感と倫理的判断能力を身につける。

[C] 基礎工学力に関する知識の習得とその応用

工学および土木工学の基礎となる数学、物理学および自然科学に関する知識を習得し、それらを応用する能力を身につける。

[D] 専門的基礎知識の習得とその応用

土木工学の主要分野に関する基礎的な知識を習得し、それらを実務に応用する能力を身につける。さらに、測量・構造・土質・水理・計画分野の実験・演習・実習を計画・遂行し、データを理論的に解析して工学的に考察する能力を身につける。

[E] 各種情報処理ツールを活用する能力

インターネット、Emailによる情報通信、パソコンを用いたデータ処理など情報技術を使いこなせることを基本とし、さらに空間情報処理システム、シミュレーション解析システムなどを問題解決に利用する能力を身につける。

[F] 課題解決に向けたデザイン能力

習得した基礎知識や専門的な技術・情報を駆使して、実際の課題を解決するためのデザイン能力を身につける。

[G] コミュニケーション能力

自分の考えを論理的にまとめるとともに、日本語で正確にわかりやすく説明し、討議する能力を身につける。さらに、国際人として英語を用いてコミュニケーションするための基礎的能力を身につける。

[H] 実務遂行のための基礎的能力

インターンシップやキャリアセミナーをはじめとする実験・実習科目を通して、土木技術者が経験する実務的問題を的確に把握するための基礎的能力を身につけ、さらに、制約条件および進捗状況に配慮しながら問題解決を図る実務遂行のための基礎的能力を身につける。また、実務遂行のための個々の役割を的確に判断し、周囲と協調して行動できる能力を身につける。

[I] 自主的な自己研鑽能力

新しい土木工学の周辺分野に積極的に取り組み、生涯にわたって知識・技術を向上させていく自己研鑽能力を身につける。

JABEE 基準 1 (2) の要求する学習・教育到達目標

プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものであり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習・教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。なお、学習・教育到達目標を設定する際には、(a)～(i)に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解
- (c) 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力
- (d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
- (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
- (g) 自主的、継続的に学習する能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- (i) チームで仕事をするための能力

社会環境デザイン工学コースの各学習・教育到達目標 と JABEE 基準 1 (2) の(a)～(i)との対応

社会環境デザイン工学プログラムの各学習・教育到達目標[A]～[I]が、JABEE 基準 1 (2) の(a)～(i)を主体的に含んでいる場合には◎印、付随的に含んでいる場合には○印で示している。

基準 1 (1) の 知識・能力 学習・教育 到達目標・能力	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)
[A]	◎								
[B]		◎		○					
[C]			◎	◎					
[D]				◎					
[E]			◎	○	○		○		
[F]				◎	◎			○	
[G]						◎			
[H]								◎	◎
[I]				○			◎		

【社会環境デザイン工学コース】

		社会環境デザイン工学コース 学習・教育到達目標 (JABEE)										
		[A]	[B]	[C]	[D]	[E]	[F]	[G]	[H]	[I]		
工学部 ディプロマ・ポリシー	DP-①			○								
	DP-②	○										
	DP-③				○	○						
	DP-④	○							○			
	DP-⑤		○									
	DP-⑥	a	○	○								
		b			○							
		c				○						
		d	○				○	○	○			
		e									○	○

工学部ディプロマ・ポリシー

DP-①	自然科学の基礎体系と発展を理解するための基礎学力を身につけている。
DP-②	それぞれの工学専門分野の基礎的な知識・技能を修得し、それらを活用することができる。
DP-③	科学技術(工学技術)に広く関心をもち、それらを理解するため主体的に行動する志向を身につけている。
DP-④	科学技術に関する事項を的確に伝えることができるコミュニケーション能力を身につけている。
DP-⑤	高い倫理観と安全意識、工学と社会との関わりを考慮しつつ人類社会の維持・持続的発展に寄与する志向を身につけている。
DP-⑥	a 多面的視点からの思考力および土木技術者としての倫理観を身につけている。
	b 基礎工学力に関する知識を修得し、それらを活用する能力を身につけている。
	c 専門的基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につけている。
	d 各種情報処理ツールを活用する能力、課題解決に向けたデザイン能力、コミュニケーション能力を身につけている。
	e 実務遂行のための基礎的能力、自主的な自己研鑽能力を身につけている。

社会環境デザイン工学コース 学習・教育到達目標 (JABEE)

[A] 多面的視点からの思考力 人文・社会科学、人間科学および自然科学などに関する幅広い教養を身につけるとともに、いかなるときでも物事を多面的な視点から把握し分析する能力を身につける。
[B] 土木技術者としての倫理観 土木事業が社会や自然に及ぼす影響・効果を十分に理解し、同時に土木技術者としての責任感と倫理的判断能力を身につける。
[C] 基礎工学力に関する知識の習得とその応用 工学および土木工学の基礎となる数学、物理学および自然科学に関する知識を習得し、それらを活用する能力を身につける。
[D] 専門的基礎知識の習得とその応用 土木工学の主要分野に関する基礎的な知識を習得し、それらを実務に応用する能力を身につける。さらに、測量・構造・土質・水理・計画分野の実験・演習・実習を計画・遂行し、データを理論的に解析して工学的に考察する能力を身につける。
[E] 各種情報処理ツールを活用する能力 インターネット、Emailによる情報通信、パソコンを用いたデータ処理など情報技術を使いこなせることを基本とし、さらに空間情報処理システム、シミュレーション解析システムなどを問題解決に利用する能力を身につける。
[F] 課題解決に向けたデザイン能力 習得した基礎知識や専門的な技術・情報を駆使して、実際の課題を解決するためのデザイン能力を身につける。
[G] コミュニケーション能力 自分の考えを論理的にまとめるとともに、日本語で正確にわかりやすく説明し、討議する能力を身につける。さらに、国際人として英語を用いてコミュニケーションするための基礎的能力を身につける。
[H] 実務遂行のための基礎的能力 インターンシップやキャリアセミナーをはじめとする実験・実習科目を通して、土木技術者が経験する実務の問題を的確に把握するための基礎的能力を身につけ、さらに、制約条件および進捗状況に配慮しながら問題解決を図る実務遂行のための基礎的能力を身につける。また、実務遂行のための個々の役割を的確に判断し、周囲と協調して行動できる能力を身につける。
[I] 自主的な自己研鑽能力 新しい土木工学の周辺分野に積極的に取り組み、生涯にわたって知識・技術を向上させていく自己研鑽能力を身につける。

社会環境デザイン工学コース カリキュラム設計フロー(令和3年度以降入学者)

	1年		2年		3年		4年	
	第1・2Q	第3・4Q	第1・2Q	第3・4Q	第1・2Q	第3・4Q	第1・2Q	第3・4Q
(A)	○ 初年次セミナー(教)	△ 全学モジュールI科目(教)	△ 全学モジュールII科目(教)					
	△ 情報科学概論							
	○ 基礎実験	○ 基礎物理A			△ 生命科学			
		△ 基礎物理C	△ 基礎物理B		△ 基礎化学			
	○ 英語コミュニケーションI(教)	○ 英語コミュニケーションII(教)	○ 英語コミュニケーションIII(教)					
	○ 総合英語I(教)	○ 総合英語II(教)	○ 総合英語III(教)	○ 技術英語I	○ 技術英語II	○ 技術英語III		
	△ 初習外国語I(教)	△ 初習外国語II(教)						
(B)				○ 土木技術の歴史	○ 学外実習及び見学		△ 経営管理	
				○ 工学倫理		△ 建設マネジメント	△ 産業経済学	
				○ 安全工学			△ 数値流出解析	
				△ 環境計画学		△ 環境計量学		
						△ 環境修復学		
						△ 環境生態学		
(C)	○ 線形代数I		○ 応用数学B					
	○ 微分積分学I	○ 微分積分学II	○ 応用数学A					
		○ 微分積分学III						
		○ 確率	○ 計画学数理					
		○ 統計						
	△ 情報科学概論		○ コンピュータ情報処理					
		○ 連続体力学入門			△ 水文学	△ 環境生態学		
		○ 基礎物理A	△ 基礎物理B		△ 生命科学			
	○ 基礎実験				△ 基礎化学			
		△ 基礎物理C						

○:必修科目
 △:選択科目
 (教):教養教育科目
 [青線]:特に重要な位置づけの科目(◎相当)

社会環境デザイン工学コース カリキュラム設計フロー(令和3年度以降入学者)

	1年		2年		3年		4年	
	第1・2Q	第3・4Q	第1・2Q	第3・4Q	第1・2Q	第3・4Q	第1・2Q	第3・4Q
(D)		○ 社会環境デザイン製図	○ 構造力学Ⅰ ○ 地盤力学Ⅰ ○ 水理学Ⅰ ○ 測量学	△ 建設材料学 ○ 構造力学Ⅱ ○ 土木技術の歴史 ○ 地盤力学Ⅱ ○ 土木技術の歴史 ○ 水理学Ⅱ ○ 土木技術の歴史 ○ 測量学実習 ○ 都市・交通計画 ○ 土木技術の歴史 △ 環境計画学	○ 社会環境デザイン工学実験・演習B △ コンクリート構造工学 △ 構造振動学 ○ 社会環境デザイン工学実験・演習A ○ 応用地盤工学 △ 水文学 △ 応用水理学 ○ 社会環境デザイン工学実験・演習A ○ 水圏工学 △ 景観デザイン △ 空間情報処理学 ○ 社会環境デザイン工学実験・演習B	△ 維持管理工学 ○ 防災工学 △ 構造物設計工学 △ 環境地質学 △ 地圏環境工学 ○ 防災工学 △ 水環境工学 ○ 防災工学 △ 環境生態学 △ 環境計量学 △ 環境修復学 △ 建設マネジメント	○: 必修科目 △: 選択科目 (教): 教養教育科目 □: 特に重要な位置づけの科目(◎相当)	△ 数値構造解析 △ 工業爆薬学 △ 数値流出解析 △ 産業経済学 △ 経営管理
(E)	○ 情報基礎(教)		○ コンピュータ情報処理		△ 空間情報処理学		△ 数値流出解析 △ 数値構造解析	○ 卒業研究
(F)			○ 測量学実習 ○ プロジェクト演習Ⅱ	○ 測量学実習 ○ プロジェクト演習Ⅱ	△ 景観デザイン ○ キャリアセミナー	△ 環境地質学 △ 地圏環境工学 ○ プロジェクト演習Ⅲ	△ 数値構造解析	○ 卒業研究
(G)	○ 英語コミュニケーションⅠ(教) ○ 総合英語Ⅰ(教) △ 初習外国語Ⅰ(教) ○ プロジェクト演習Ⅰ	○ 英語コミュニケーションⅡ(教) ○ 総合英語Ⅱ(教) △ 初習外国語Ⅱ(教)	○ 英語コミュニケーションⅢ(教) ○ 総合英語Ⅲ(教)	○ 技術英語Ⅰ ○ プロジェクト演習Ⅱ	○ 技術英語Ⅱ ○ キャリアセミナー	○ 技術英語Ⅲ ○ プロジェクト演習Ⅲ		○ 卒業研究
(H)	○ プロジェクト演習Ⅰ			○ 測量学実習 ○ プロジェクト演習Ⅱ	○ キャリアセミナー ○ 学外実習及び見学	○ プロジェクト演習Ⅲ △ 建設マネジメント		
(I)					△ 維持管理工学	△ 地圏環境工学 △ 環境計量学 △ 環境修復学		○ 卒業研究

目次

[工学基礎科目]

微分積分学Ⅰ	1
微分積分学Ⅱ	2
微分積分学Ⅲ	3
線形代数学Ⅰ	4
確率	5
統計	6
応用数学A	7
応用数学B	8
基礎物理A	9
基礎物理B	10
基礎物理C	11
基礎化学	12
生命科学	13
基礎実験	14
情報科学概論	15
技術英語Ⅰ	16
技術英語Ⅱ	17
技術英語Ⅲ	18
創成プロジェクト	19
工学倫理	20
安全工学	21
経営管理	22
産業経済学	23

[専門科目]

プロジェクト演習Ⅰ	24
プロジェクト演習Ⅱ	25
プロジェクト演習Ⅲ	26
社会環境デザイン製図	27
連続体力学入門	28
構造力学Ⅰ	29
構造力学Ⅱ	30
地盤力学Ⅰ	31
地盤力学Ⅱ	32
水理学Ⅰ	33
水理学Ⅱ	34
土木技術の歴史	35
測量学	36
測量学実習	37
都市・交通計画	38
計画学数理	39
応用地盤工学	40

水圏工学.....	41
防災工学.....	42
コンピュータ情報処理.....	43
社会環境デザイン工学実験・演習 A.....	44
社会環境デザイン工学実験・演習 B.....	45
キャリアセミナー.....	46
学外実習及び見学.....	47
構造振動学.....	48
建設材料学.....	49
コンクリート構造工学.....	50
水文学.....	51
応用水理学.....	52
環境地質学.....	53
地圏環境工学.....	54
環境計画学.....	55
空間情報処理学.....	56
建設マネジメント.....	57
景観デザイン.....	58
維持管理工学.....	59
構造物設計工学.....	60
数値構造解析.....	61
環境生態学.....	62
水環境工学.....	63
数値流出解析.....	64
環境修復学.....	65
環境計量学.....	66
工業爆薬学.....	67
[卒業研究]	
卒業研究.....	68

年度	2026	学期	1Q	曜日・校時	月2、火2	必修選択	必修	単位数	1
授業科目	微分積分学 I (社会)				担当教員 (科目責任者)	山口 朝彦			
(英語名)	Calculus I				E-mail アドレス	tomo@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	1年	対象学生	社会		研究室	工学部 機械工学コース ME ラボ E301			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目		TEL	2531			
教室	[工学]1号館2F第1講義室				オフィスアワー	随時、LACS で質問を受け付ける。対面の場合：火曜日 5 限目			
担当教員 (オムニバス等)	山口 朝彦								
授業の概要 及び位置づけ	工学上の種々の理論や物理現象を理解する上で必要不可欠な微分積分学を体系的に学び、数学的思考の基礎を固める。本講義では、高校数学で学んだ知識を発展させるとともに、1変数関数の微分積分学を理解する。								
授業到達目標	自然科学の基礎体系と発展を理解するための基礎的な数学を身に着け、それらの応用が可能となるために、1変数関数の微積分の定義や意味を理解するとともに、平易な問題については確実に演算できるようになる。(DP-①、⑥-b)								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第1回 ガイダンス、極限と連続(数列と級数を理解し、様々な例題が解ける)</p> <p>第2回 極限と連続(関数の極限を理解し、関数の連続性を判定できる)</p> <p>第3回 微分法の公式(基本的な微分公式や合成関数と逆関数の微分法を理解し、それらを利用できる)</p> <p>第4回 指数関数と対数関数の微分法(指数関数と対数関数の微分法を理解し、さらに対数微分法を利用できる)</p> <p>第5回 三角関数の微分法(三角関数の微分法を理解し、それらを応用できる)</p> <p>第6回 逆三角関数の微分法とn次導関数(逆三角関数の微分法を理解し、n次導関数の求め方を理解する)</p> <p>第7回 ライプニッツの定理、平均値の定理と不定形の極限值(ライプニッツの定理、平均値の定理を理解し、不定形の極限値の導出ができる)</p> <p>第8回 テイラーの定理と展開、関数の値の変化と曲線(テイラーの定理と展開を理解し、様々な関数のマクローリン展開ができる。関数の増減と極値や凹凸判定を理解し、関数の概形を描ける)</p> <p>第9回 積分法の基礎(定積分と不定積分の定義を理解し、不定積分の基本公式を利用できる)</p> <p>第10回 置換積分法(置換積分の公式を理解し、それを利用できる)</p> <p>第11回 部分積分法(部分積分の公式を理解し、それを利用できる)</p> <p>第12回 有理関数と無理関数の積分(一般の有理関数、三角関数の有理式、無理関数の積分法を理解し、それらを利用できる)</p> <p>第13回 定積分の計算(定積分の計算法を理解し、置換積分法と部分積分法も利用できる)</p> <p>第14回 面積・体積(定積分を応用し、面積や体積、曲線の長さを求めることができる)</p> <p>第15回 演習問題と総復習(微分積分学Iで学習した全範囲の演習問題を解くことができる)</p>								
キーワード	微分、積分、関数、連続、極限、級数								
教科書・教材・参考書	教科書：石原繁、浅野重初、工学系の基礎 微分積分 増補版、裳華房 参考書：ロバート・アッシュ、キャロル・アッシュ、微分積分学教程、森北出版株式会社								
成績評価の方法 ・基準等	授業毎のミニテスト：20点、定期試験：80点において、計60点以上を合格。ただし、定期試験で達成度を評価するため、定期試験で60%(48点)以上が必要。								
受講要件(履修条件)	全回出席を前提とする。やむをえず(正当な理由で)欠席する場合は、指定された課題を提出すること。単位取得には授業の2/3以上の出席(実際の出席で、欠席課題による見做出席は含まない)が必要。遅刻2回で欠席1回に換算する。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(C)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	2Q	曜日・校時	月2、火2	必修選択	必修	単位数	2
授業科目	微分積分学Ⅱ(社会)				担当教員 (科目責任者)	大嶺 聖			
(英語名)	Calculus II				E-mail アドレス	omine@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	1年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館 3階			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目		TEL	095-819-2621			
教室	[総合]総合教育研究棟 1F109 講義室				オフィスアワー	月曜日 5校時			
担当教員 (オムニバス等)	大嶺 聖								
授業の概要 及び位置づけ	工学上の種々の理論や物理現象を理解する上で必要不可欠な微分積分学を体系的に学び、数学的思考方の基礎を固める。本講義では、主として2変数関数の微分積分学を理解し、多変数関数への応用のための基礎を身につける。								
授業到達目標	2変数関数の微分、積分を理解し、簡単な偏微分ができること、2重積分ができることを目標とする。【コースの学習・教育到達目標】...(C)を達成するための科目である。【JABEE基準】...(c)、(d)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>(第1~4回:積分法を理解する)</p> <p>第1回 社会環境デザイン工学と微分積分学 第5章 積分法の基礎, 第6章 不定積分(微分積分学Ⅰの復習)</p> <p>第2回 第7章 定積分 S30-31 広義の積分</p> <p>第3回 S32 面積・体積</p> <p>第4回 S33 曲線の長さ</p> <p>(第5~9回:偏微分法を理解する)</p> <p>第5回 第8章 偏微分方 S34-36 偏導関数</p> <p>第6回 S37-38 高次偏導関数, 合成関数の微分法</p> <p>第7回 前半のまとめ(演習)</p> <p>第8回 中間テスト(予定): 第7~8章</p> <p>第9回 パソコンの利用</p> <p>(第13~15回:重積分を理解する)</p> <p>第10回 第9章 S39-41 陰関数、平均値、テイラーの定理</p> <p>第11回 S42-43 テイラー展開、極大・極小</p> <p>第12回 第10章 重積分 S44-45 2重積分の定義、累次積分</p> <p>第13回 S46-47 極座標による2重積分、拡張</p> <p>第14回 S48-49 体積、曲面積</p> <p>第15回 後半のまとめ(演習)</p> <p>第16回 評価(試験も含む)と指導</p>								
キーワード	積分/極座標/偏微分/重積分								
教科書・教材・参考書	教科書:石原繁・浅野重初 共著「理工系の基礎 微分積分学 増補版」(裳華房) 教材:適宜、印刷資料を配布する 参考書:水田義弘 著「入門微分積分学」(サイエンス社) 及川正行、永井敦、矢嶋徹 共著「工学基礎 微分積分」(サイエンス社) 池辺信範、神崎正則、中村幹雄、緒方明夫 共著「微分積分学概説 改訂版」(培風館) 石村園子 著「すぐわかる微分積分」(東京図書) 水本久夫 著「微分積分学の基礎 改訂版」(培風館)								
成績評価の方法・ 基準等	授業への積極的参加状況(10点満点)、レポート課題(10点満点)、中間試験・定期試験(80点満点)、を総合評価して成績判定を行う。ただし、試験の正答率が60%未満の場合は不合格とする。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 /JABEE基準	【コースの学習・教育到達目標】...(C)を達成するための科目である。【JABEE基準】...(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	後期	曜日・校時	月 3	必修選択	必修	単位数	3
授業科目	微分積分学Ⅲ(社会)				担当教員 (科目責任者)	森村 隆夫			
(英語名)	Calculus Ⅲ				E-mail アドレス	tmori@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	1年	対象学生	社会		研究室	総研棟 507 号室			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目		TEL	095-819-2633			
教室					オフィスアワー	金曜日 5 校時			
担当教員 (オムニバス等)	森村 隆夫								
授業の概要 及び位置づけ	本科目では、微分方程式の解法を学ぶ。工学部の多くの専門科目の中で扱う様々な現象の原理は微分方程式で表現される。その現象の詳細を知るためには微分方程式を解かなければならない。よって、多くの専門科目の内容を理解するためには、常微分方程式や偏微分方程式を解く技術は必須であり、そのための基礎学力を養う。								
授業到達目標	自然科学の基礎体系と発展を理解するための基礎学力として、以下を到達目標とする。1変数関数の1階常微分方程式を解くことができる。2階常線形常微分方程式を解くことができる。1階の連立常微分方程式を解くことができる。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第 1 回 モデル化と微分方程式、直接積分形と変数分離形(直接微分形や変数分離形により微分方程式を解くことができる。) 第 2 回 1階線形微分方程式①(定数変化法を用いて1階線形微分方程式を解くことができる。) 第 3 回 1階線形微分方程式②(積分因子を用いて1階線形微分方程式を解くことができる。) 第 4 回 完全微分方程式(完全微分方程式の条件を理解し、これを解くことができる。) 第 5 回 1階高次微分方程式(1階高次微分方程式を解くことができる。) 第 6 回 1階の微分方程式の復習 第 7 回 定係数同次方程式①(定係数同次方程式の解の構造を理解する。) 第 8 回 定係数同次方程式②(ロンスキー行列を用いた解の誘導法を説明できる。) 第 9 回 定係数同次方程式③(定係数2階同次方程式を解くことができる。) 第 10 回 定係数非同次方程式①(定係数非同次方程式の解の構造を理解する。) 第 11 回 定係数非同次方程式②(定数変化法を用いて定係数 2 階非同次方程式を解くことができる。) 第 12 回 定係数非同次方程式③(未定係数法を用いて定係数2階非同次方程式を解くことができる。) 第 13 回 連立微分方程式の解法(同次方程式) 第 14 回 連立微分方程式の解法(非同次方程式) 第 15 回 2階の微分方程式の復習								
キーワード									
教科書・教材・参考書	教科書:石村園子 著「改訂新版 すぐわかる微分方程式」東京図書								
成績評価の方法・ 基準等	演習問題のレポート課題 40 点。 期末試験 60 点。ただし、期末試験で 60%以下は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	全回講義への出席を求める。ただし、やむを得ず欠席する場合は、別途指導(個別指導)を行なう。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(C)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	前期	曜日・校時	月 3	必修選択	必修	単位数	4
授業科目	線形代数学 I (社会)				担当教員 (科目責任者)	奥松 俊博			
(英語名)	Linear Algebra I				E-mail アドレス	okumatsu@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	1 年	対象学生	社会		研究室	工学部 1 号館 3 階 302			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目		TEL				
教室	[工学]1号館4F第11講義室				オフィスアワー	木曜日 5 校時			
担当教員 (オムニバス等)	奥松 俊博								
授業の概要 及び位置づけ	線形代数学は、微分積分学と同様、自然科学のみならず社会科学など多方面において基礎となる科目である。本講義では、高校で学んだ数学(ベクトル、行列など)を復習しながら、工学上の種々の理論や物理現象を理解するうえで必要不可欠な線形代数学の基礎と考え方について、計算問題を通して理解する。								
授業到達目標	ベクトル、行列、行列式など、線形代数学に関する基本的な概念および計算方法を学び、構造工学コースの専門科目において、必要に応じて利用できるようになることを目標とする。【工学部の DP】①【社会環境デザイン工学コースの学修到達目標】⑥-b【コースの学習・教育到達目標】(C)を達成するための科目である。【JABEE】(c)、(d)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第 1 回 線形代数学の概念およびベクトルによる表現(ベクトルを用いた平面上の直線を表現できる)</p> <p>第 2 回 行列・ベクトルの演算、さまざまな行列(ベクトルと行列の基本概念および演算法を理解し、関連した計算ができる)</p> <p>第 3 回 逆行列と行列式(逆行列の定義を理解する)</p> <p>第 4 回 連立一次方程式(1)(掃き出し法(基本変形)による連立 1 次方程式の解法と解の構造・行列のランクについて理解し、関連した計算ができる)</p> <p>第 5 回 連立一次方程式(2)(同次連立 1 次方程式の解の構造、正則行列の性質について理解し、掃き出し法による逆行列の計算ができる)</p> <p>第 6 回 1 次独立・1 次従属(ベクトルの 1 次従属・独立を理解し、その判別ができる)</p> <p>第 7 回 ベクトル空間・基底ベクトル(ベクトル空間の次元と基底を理解し、空間の表現ができる)</p> <p>第 8 回 線形変換と行列の関係(1)(線形写像の表現法を理解し、表現行列を求めることができる)</p> <p>第 9 回 線形変換と行列の関係(2)(線形変換と行列に関する計算ができる)</p> <p>第 10 回 固有値と固有ベクトル(1)(固有値・固有ベクトル・固有空間の定義と演算法、行列の対角化の条件を理解する)</p> <p>第 11 回 固有値と固有ベクトル(2)(行列の対角化を理解し、関連した計算ができる)</p> <p>第 12 回 工学問題における固有値と固有ベクトル(連立微分方程式)(工学分野の諸問題への適用およびモデリングについて理解する)</p> <p>第 13 回 内積と正規直交化(内積を理解し、正規直交化ができる)</p> <p>第 14 回 対称行列の直交化(対称行列の直交化法を理解し、2 次形式を標準化できる)</p> <p>第 15 回 線形代数学 I のまとめ</p> <p>第 16 回 定期試験(講義実施内容の全範囲が対象。60%以上の問題を解くことができる)</p>								
キーワード	ベクトル、行列、行列式、連立 1 次方程式、線形空間、固有値、固有ベクトル								
教科書・教材・参考書	教科書:工学基礎 はじめての線形代数学、佐藤和也 只野裕一 下本陽一、講談社 参考書:石村園子「やさしく学べる線形代数」共立出版/薩摩順吉・四ツ谷晶二「キーポイント 線形代数」岩波書店など								
成績評価の方法 ・基準等	定期試験(70%)、平素の学習状況(30%: LACS による演習、小テスト等)を総合して成績評価を行う。ただし、定期試験(100 点満点)は 60 点以上の得点を得た場合に合格とする。								
受講要件(履修条件)	原則として全回出席を前提とする。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】... (C)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】... (c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	3Q	曜日・校時	火 4	必修選択	必修	単位数	20
授業科目	確率(社会)				担当教員 (科目責任者)	片山 健介			
(英語名)	Probability				E-mail アドレス	kenkata@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	1年	対象学生	社会		研究室	環境科学部棟 4 階環 424 号室			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目		TEL	095-819-2737			
教室					オフィスアワー	面会を希望する場合は、事前にメール で問い合わせてください。			
担当教員 (オムニバス等)	片山 健介								
授業の概要 及び位置づけ	統計的なものの考え方と統計手法の基礎を身に付ける。								
授業到達目標	与えられたデータの特徴を捉え、効果的に説明することができる。代表的な確率分布、特に正規分布についてその特徴を説明することができる。(DP-①)								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第 1 回 イントロダクション 統計学について概観し、紹介された利用例を元に考察する。</p> <p>第 2 回 1 次元のデータについての記述統計学の基礎を身に付ける。代表値の意味と計算法。</p> <p>第 3 回 2 次元のデータについての記述統計学の基礎を身に付ける。相関、直線や平面へのあてはめ。</p> <p>第 4 回 統計的推測に必要な、確率と標本空間に関する基本的な知識を身に付ける。</p> <p>第 5 回 確率変数と確率分布について、期待値や分散、標準偏差のような代表値の計算法や変数変換の方法を身に付ける。</p> <p>第 6 回 離散型および連続型の確率分布(代表的な確率分布の知識を身に付ける)</p> <p>第 7 回 多次元の確率分布を扱い、事象や確率変数の関係式を理解する。</p> <p>第 8 回 定期試験</p>								
キーワード	期待値、分散、標準偏差、正規分布								
教科書・教材・参考書	以下の内、教科書を用意しておくこと。教科書:基礎統計学I 統計学入門、東京大学教養学部統計学教室編、東京大学出版、1991 参考書:実験制度と誤差 測定の確からしさとは何か 第2版、N. C. Barford、丸善株式会社、1997 参考書:確率・統計のしくみがわかる本、長谷川勝也、技術評論社、2000								
成績評価の方法 ・基準等	授業内容に関する問題による定期試験で評価し、60 点以上を合格とする。								
受講要件(履修条件)	全回出席が前提である。出席回数が講義回数の 3 分の 2 に達しない者(3 回以上欠席した者)は失格とする。忌引き、病気その他やむを得ない理由のため欠席する場合は事前に担当教員に連絡し、後日学務係で発行された欠席届を提出すること(自己申告のみは認めない)。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(C)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	4Q	曜日・校時	火 4	必修選択	必修	単位数	21
授業科目	統計(社会)				担当教員 (科目責任者)	片山 健介			
(英語名)	Statistics				E-mail アドレス	kenkata@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	1年	対象学生	社会		研究室	環境科学部棟 4 階環 424 号室			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目		TEL	095-819-2737			
教室					オフィスアワー	面会を希望する場合は、事前にメール で問い合わせてください。			
担当教員 (オムニバス等)	片山 健介								
授業の概要 及び位置づけ	統計的なものの考え方と統計手法の基礎を身に付ける。								
授業到達目標	与えられたデータの特徴を捉え、効果的に説明することができる。代表的な確率分布、特に正規分布についてその特徴を説明することができる。簡単な例について、標本から母集団の推測ができるようになる。(DP-①)								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第 1 回 大数の法則と中心極限定理について、その意味と利用法について考え、まとめる。 第 2 回 標本の抽出、統計量の計算を行ない、統計量やその標本分布の役割を理解する。 第 3 回 正規分布からの標本について理解する。 第 4 回 区間推定(正規母集団を仮定して、標本分布から母集団の分散や期待値を推測する) 第 5 回 検定の考え方と方法を理解する。 第 6 回 検定の考え方と方法を理解する。 第 7 回 回帰分析の考え方と方法を理解する。 第 8 回 定期試験								
キーワード	期待値、分散、標準偏差、正規分布								
教科書・教材・参考書	以下の内、教科書を用意しておくこと。教科書:基礎統計学I 統計学入門、東京大学教養学部統計学教室編、東京大学出版、1991 参考書:実験制度と誤差 測定の確からしさとは何か 第2版、N. C. Barford、丸善株式会社、1997 参考書:確率・統計のしくみがわかる本、長谷川勝也、技術評論社、2000								
成績評価の方法 ・基準等	授業内容に関する問題による定期試験で評価し、60 点以上を合格とする。								
受講要件(履修条件)	全回出席が前提である。出席回数が講義回数 $\frac{3}{2}$ に達しない者(3 回以上欠席の者)は失格とする。忌引き、病気その他やむを得ない理由のため欠席する場合は事前に担当教員に連絡し、後日学務係で発行された欠席届を提出すること。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(C)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	1Q	曜日・校時	水2、金2	必修選択	必修	単位数	5
授業科目	応用数学 A(社会)				担当教員 (科目責任者)	西川 貴文			
(英語名)	Applied Mathematics A				E-mail アドレス	nishikawa@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館 教員・ゼミ室 311			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目		TEL	095-819-2625			
教室	[工学]1号館2F第5講義室				オフィスアワー	月曜日 5校時			
担当教員 (オムニバス等)	西川 貴文								
授業の概要 及び位置づけ	複素数の基礎および複素関数、ベクトル解析の基礎を理解し、現象の解析に対応できる基礎力をつける。								
授業到達目標	複素解析やベクトル解析が現象の解析や理解に有用な道具であり、実現象の如何なる部分に用いられているかを理解し、簡単な問題には自ら応用できるようになること。(DP-6b)【学科・コースの学習・教育到達目標】(C)を達成するための科目である。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>(第1～7回:複素関数の基礎を理解する)</p> <p>第1回 ガイダンス、複素関数の基礎、複素平面</p> <p>第2回 複素関数</p> <p>第3回 複素関数の微分①</p> <p>第4回 複素関数の微分②</p> <p>第5回 複素関数の積分①</p> <p>第6回 複素関数の積分②</p> <p>第7回 テイラー展開、ローラン展開</p> <p>(第8～15回:ベクトル関数の基礎を理解する)</p> <p>第8回 ベクトルの内積・外積</p> <p>第9回 ベクトル関数の微分</p> <p>第10回 勾配</p> <p>第11回 発散、回転</p> <p>第12回 曲線、線積分</p> <p>第13回 曲面、面積分</p> <p>第14回 ガウスの発散定理、ストークスの定理①</p> <p>第15回 ガウスの発散定理、ストークスの定理②</p> <p>第16回 評価(試験も含む)と指導</p>								
キーワード	複素関数/ベクトル関数								
教科書・教材・参考書	教科書:指定しない 教材:適宜、印刷資料を配布する。参考書:指定しない								
成績評価の方法 ・基準等	最終試験(80点満点)、授業への積極的参加状況(20点満点)で評価する。ただし、試験の正答率が60%未満の場合は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	微分積分と線形代数の内容を復習しておくことが望ましい。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(C)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	2Q	曜日・校時	木 2、金 4	必修選択	必修	単位数	6
授業科目	応用数学 B(社会)				担当教員 (科目責任者)	瀬戸 心太			
(英語名)	Applied Mathematics B				E-mail アドレス	seto@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2 年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3階 教員・ゼミ室 303			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目		TEL	095-819-2610			
教室	[工学]1号館2F第5講義室				オフィスアワー	Eメールで質問を受け付けます。			
担当教員 (オムニバス等)	瀬戸 心太								
授業の概要 及び位置づけ	偏微分方程式の基礎を理解し、現象の解析に対応できる基礎力をつける。また、現象の解析に必要なフーリエ解析の基礎を理解する。								
授業到達目標	偏微分方程式は、現象の解析や理解に有用な道具であり、実現象の如何なる部分に用いられているかを理解し、簡単な問題には自ら応用できること。フーリエ展開ができるようになること。工学部の DP⑥-b に対応する コースの学習・教育到達目標(C)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第 1 回 常微分方程式の復習(1階の常微分方程式を解くことができる) 第 2 回 常微分方程式の復習(2階の常微分方程式を解くことができる) 第 3 回 偏微分方程式の導入(偏微分方程式の定義や種類を説明することができる) 第 4 回 1 階の偏微分方程式(簡単な1階の偏微分方程式を解くことができる) 第 5 回 ラグランジュの偏微分方程式(ラグランジュの偏微分方程式を解くことができる) 第 6 回 波動方程式①(波動方程式の初期値問題を解くことができる) 第 7 回 波動方程式②(波動方程式の混合問題を変数分離法で解くことができる) 第 8 回 拡散方程式①(拡散方程式を導出することができる) 第 9 回 拡散方程式②(拡散方程式の混合問題を変数分離法で解くことができる) 第 10 回 ラプラス方程式(ラプラス方程式を変数分離法で解くことができる) 第 11 回 フーリエ級数展開①(フーリエ級数展開について説明することができる) 第 12 回 フーリエ級数展開②(基礎的な関数についてフーリエ級数展開を行うことができる) 第 13 回 フーリエ級数展開と偏微分方程式①(フーリエ級数展開を用いて拡散方程式を解くことができる) 第 14 回 フーリエ級数展開と偏微分方程式②(フーリエ級数展開を用いて波動方程式を解くことができる) 第 15 回 フーリエ級数展開と偏微分方程式③(フーリエ級数展開を用いてラプラス方程式を解くことができる) 第 16 回 評価と指導								
キーワード	偏微分方程式／フーリエ解析								
教科書・教材・参考書	教科書: 指定しない 教材: 講義資料を適宜配布する(LACS に掲載予定) 参考書: 指定しない								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(15 点満点)、課題(35 点満点)、期末試験(50 点満点)で評価する。ただし、期末試験の得点率が 60%未満の場合は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	微分積分学 I・II・III を履修していることを前提として講義を行う。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(C)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	後期	曜日・校時	火 3	必修選択	必修	単位数	7
授業科目	基礎物理 A(社会)				担当教員 (科目責任者)	奥松 俊博			
(英語名)	Fundamental Physics A				E-mail アドレス	okumatsu@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	1 年	対象学生	社会		研究室	工学部 1 号館 3 階 302 号室			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目、工学副専攻プログラム		TEL				
教室					オフィスアワー	木曜日 5 校時(事前にアポイントを取ること)			
担当教員 (オムニバス等)	奥松 俊博								
授業の概要 及び位置づけ	基礎物理 A では工学の基礎として重要な力学について学ぶ。高校における力学とは異なり、運動方程式をたてて、それを数学的に解くことにより、物体の挙動を求めるといった流れを理解させる。								
授業到達目標	「自然科学の基礎体系と発展を理解するための基礎学力を身につける」に対応する科目であり、力やモーメントと運動の概念を理解し、それを数学的に記述できるようになる。【工学部の DP】①【社会環境デザイン工学コースの学修到達目標】⑥-a、⑥-b【JABEE 基準】...(c)(d)を達成するための科目。【学習・教育到達目標】...(C)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第 1 回 物理量と単位、次元(科目の位置づけ、到達目標等を認識する。数値や記号の取扱い方および書き方、次元と単位について理解する) 第 2 回 ベクトルとその成分(ベクトルを用いた力の表し方について理解する) 第 3 回 運動—速度と加速度—(1)(速さの概念について理解する) 第 4 回 運動—速度と加速度—(2)(直線運動する物体の位置と速度と導関数について理解する) 第 5 回 運動—速度と加速度—(3)(直線運動する物体の加速度と2次導関数について理解する) 第 6 回 力と運動の法則 (ニュートンの運動の 3 法則を理解する) 第 7 回 力と運動—微分方程式を解く—(1) (不定積分による解法を理解する) 第 8 回 力と運動—微分方程式を解く—(2) (非せい次の定係数線形微分方程式による解法を理解する) 第 9 回 等速円運動する物体の速度、加速度と運動方程式(平面運動に基づき 等速円運動する物体の速度、加速度と運動方程式について理解する) 第 10 回 振動(単振動)(単振動_やや複雑な運動について運動の法則を利用して解くことができる) 第 11 回 振動_単振動と線形微分方程式の解法(減衰振動・強制振動_少し複雑な運動について運動の法則から微分方程式を解いて運動を記述する方法を理解する) 第 12 回 仕事とエネルギー_仕事 (仕事と運動エネルギーについて理解する) 第 13 回 仕事とエネルギー_エネルギー保存則 (力学的エネルギー保存則、運動量と力積について理解する) 第 14 回 質点の回転運動(中心力と角運動量、万有引力とケプラーの法則について理解する) 第 15 回 剛体の力学(剛体に作用する力がつりあうための条件およびベクトル積で表した回転運動の法則を理解する)								
キーワード	力、運動、エネルギー保存則、力のモーメント、角運動量								
教科書・教材・参考書	教科書:「数学といっしょに学ぶ力学」原康夫著 学術図書出版社 参考書:「物理学基礎」原康夫著 学術図書出版社、「視覚でとらえるフォトサイエンス物理図録」数研出版など								
成績評価の方法 ・基準等	演習課題 30 点、最終試験 70 点。ただし、最終試験で 60%未満は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	全回出席を前提とする。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(A)、(C)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(a)、(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	前期	曜日・校時	火 3	必修選択	選択	単位数	8
授業科目	基礎物理 B(社会)				担当教員 (科目責任者)	山口 朝彦			
(英語名)	Fundamental Physics B				E-mail アドレス	tomo@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3 年	対象学生	社会		研究室	工学部 機械工学コース ME ラボ E301			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目、コース専門科目		TEL	2531			
教室	[工学]1号館2F第5講義室				オフィスアワー	随時、LACS で質問を受け付ける。対面の場合：火曜日 5 限目			
担当教員 (オムニバス等)	山口 朝彦								
授業の概要 及び位置づけ	気体、液体、および熱の流れに関連した諸現象を的確に理解し、先端技術を理解するための基礎力をつける。								
授業到達目標	1. 熱力学および流体力学の基本概念について説明できる。2. 熱および流体に関する身近な自然現象や工学技術について基本法則を用いた計算ができる。(DP-①、⑥a、b)								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>【1～10 回は熱力学の基礎】</p> <p>第 1 回 序論：身近な熱の諸問題(熱が関係する実際の諸現象を具体的に理解する)</p> <p>第 2 回 熱平衡と温度(1)</p> <p>第 3 回 熱平衡と温度(2)</p> <p>第 4 回 熱力学の第一法則(1)</p> <p>第 5 回 熱力学の第一法則(2)</p> <p>第 6 回 熱力学の第二法則</p> <p>第 7 回 エントロピー(1)</p> <p>第 8 回 エントロピー(2)</p> <p>第 9 回 熱力学関数と変化の方向(1)</p> <p>第 10 回 熱力学関数と変化の方向(2)</p> <p>【11～15 回は流体力学の基礎】</p> <p>第 11 回 序論：身近な流れの諸問題</p> <p>第 12 回 流体の粘性の役割：層流と乱流、流れの剥離</p> <p>第 13 回 流体に働く力(1)：圧力、浮力(圧力の性質、浮力の発生原理)</p> <p>第 14 回 流体に働く力(2)：摩擦力、抗力(流れの中にある物体に働く力、流体抵抗の予測)</p> <p>第 15 回 流体運動の基本法則(ベルヌーイの式の物理的意味とその応用)</p> <p>第 16 回 定期試験</p>								
キーワード	熱力学の第1法則、熱力学の第2法則、エントロピー、層流と乱流、流れの剥離、圧力・浮力								
教科書・教材・参考書	講義は、配布資料等を液晶プロジェクターでスクリーンに写しながら解説する。参考書：(1)日本機械学会、JSME テキストシリーズ 流体力学/熱力学、(2)基礎物理学 2 熱学、小出昭一郎、東京大学出版会								
成績評価の方法 ・基準等	最終試験で評価する。ただし、最終試験で 60%未滿は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	全開出席を前提とする。やむをえず(正当な理由で)欠席する場合は、指定された課題を提出すること。単位取得には授業の 2/3 以上の出席(実際の出席で、欠席課題による見做出席は含まない)が必要。遅刻 2 回で欠席 1 回と換算する。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(A)、(C)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(a)、(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	後期	曜日・校時	火 5	必修選択	選択	単位数	9
授業科目	基礎物理 C(社会)				担当教員 (科目責任者)	清水 健一			
(英語名)	Fundamental Physics C				E-mail アドレス	kshimizu@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	1 年	対象学生	社会		研究室	水産学部本館 3 階 A94 室			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目		TEL	095-819-2805			
教室					オフィスアワー	随時可能。乗船等で不在の場合があるの のであらかじめメールにて来室日時 をご相談ください。			
担当教員 (オムニバス等)	清水 健一								
授業の概要 及び位置づけ	電気電子工学全般の理解に必要な電磁気学の基礎知識を養う。								
授業到達目標	電磁気学の全体像を大局的に把握し、基本的な原理と概念を理解することにより、関連する現象を定性的に説明し、簡単な計算ができるようになる(工学 DP①, ⑥a, ⑥b)。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第 1 回 ガイダンス、静電界1(電荷、クーロンの法則) 第 2 回 静電界2(重ね合わせの原理、電場・電界) 第 3 回 静電界3(電気力線、面積分) 第 4 回 静電界4(ガウスの法則、様々な形状の電荷のまわりの電場) 第 5 回 電位1(電位、電位差、等電位面) 第 6 回 電位2(導体、静電遮蔽、導体球) 第 7 回 コンデンサー(コンデンサー、電気容量、誘電体) 第 8 回 電流(キルヒホッフの法則、ブリッジ回路) 第 9 回 小テスト(電気・電気回路) 第 10 回 磁場1(磁場、磁力線、アンペールの法則、ビオ・サバールの法則) 第 11 回 磁場2(磁束密度、ローレンツ力、サイクロトロン運動、磁場に関するガウスの法則) 第 12 回 電磁誘導(ファラデーの法則、自己誘導、相互誘導、変圧器) 第 13 回 交流回路1(実効値、RLC 直列回路、電圧ベクトル図、インピーダンス図) 第 14 回 交流回路2(RLC 並列回路、電流ベクトル図、インピーダンス図、電気共振、電気振動) 第 15 回 電磁波(電磁波の発生原理、種類、電磁波の利用) 第 16 回 期末(定期)試験								
キーワード	電荷、静電気力、電場、ガウスの法則、電位、磁場、磁束、ローレンツ力、電磁誘導、交流								
教科書・教材・参考書	教科書:西浦宏幸, 他「入門 工系の電磁気学」共立出版								
成績評価の方法 ・基準等	講義中に行う演習課題 10 点、小テスト 40 点、最終試験 50 点。講義中に演習課題を行いますので全回出席してください。ただし、最終試験で 60%未満は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	全回出席を前提とする。出席回数が 2/3 に満たない場合は失格とする。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(A)、(C)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(a)、(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	前期	曜日・校時	火 4	必修選択	選択	単位数	10
授業科目	基礎化学(電・構・社)				担当教員 (科目責任者)	村上 裕人			
(英語名)	Basic Chemistry				E-mail アドレス	hiroto@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3 年	対象学生	社会		研究室	総合教育研究 0909 室			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目、工学副専攻プログラム		TEL	095-819-2866			
教室	[工学]1号館4F第10講義室				オフィスアワー	メールで質問を受け付ける。対面を希望する場合はメールでアポイントをとること。			
担当教員 (オムニバス等)	村上 裕人								
授業の概要 及び位置づけ	化学物質の性質は分子の構造を正しく理解することでわかってくる。講義全般を通じて、高校で習得した化学の知識について復習するとともに、高校で得た誤った知識と正しい知識の違いをわかりやすく講義する。前半では、主に原子軌道や分子軌道を意識した原子や分子の形について講義し、分子の形から分子間相互作用を理解させる。後半では、主に物理化学の基礎的な内容について講義し、専門科目の理解への橋渡しとする。								
授業到達目標	一般化学および物理化学の基礎的知識を習得する(目標①②)、幅広い工学技術について関心を持つ(目標③)、習得したの内容を他者に説明できる能力を身につけることを目標とする(目標④)。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	1回目 大学で化学を学ぶ準備(原子の構成, 統一原子質量, 分子量, 式量, 物質質量, 放射性同位体) 2回目 原子(量子数, 原子軌道, 電子配置, 周期表) 3回目 化学結合(分子軌道, σ 結合, π 結合) 4回目 分子の形(原子価殻電子対反発則, 混成軌道) 5回目 分極(極性, 双極子モーメント, 誘起効果, メゾメリー効果, 共鳴, 共役, 超共役) 6回目 分子間相互作用(静電相互作用, 分散力, 水素結合, π スタッキング, 疎水性相互作用) 7回目 化学熱力学1(単原子理想気体の圧力と温度, 内部エネルギー) 8回目 化学熱力学2(エンタルピー, エントロピー) 9回目 化学熱力学3(ギブスエネルギー, 純物質の化学ポテンシャル) 10回目 化学熱力学4(多成分の化学ポテンシャル, 平衡) 11回目 化学熱力学5(活性化エネルギー, 反応速度) 12回目 酸化と還元(酸化数, 電池, 起電力, 電位差) 13回目 半導体(導電性, p型半導体, n型半導体, p-n接合, ダイオード) 14回目 高分子化学(高分子とは, 高分子らしい性質, 機能性高分子, 成形加工, マイクロプラスチック) 15回目 液晶(分子構造, 表面境界効果, 誘電異方性, 複屈折, デバイス) 16回目 期末テストと指導								
キーワード	原子の形、化学結合、分子軌道、分子間相互作用、化学熱力学、反応速度、酸化還元、半導体、液晶、高分子								
教科書・教材・参考書	参考書: Primary 大学テキスト「これだけはおさえておきたい化学」、大野公一ほか著, 実教出版 参考書: 「理工系の大学基礎化学」、相楽隆正・海野雅司共著, 培風館								
成績評価の方法 ・基準等	期末テスト(100 点満点)で 60 点以上を合格とする。試験には関数電卓が必須である。なお、15 回の講義で 6 回以上欠席した者は、いかなる理由があっても失格とする。遅刻限度は 10 分であり、これ以降の遅刻は欠席扱いとなる。出席に関し 1 回でも不正行為を行った者は即失格とする。								
受講要件(履修条件)	高校の化学基礎の内容について、復習しておくことが望ましい。また、高校の物理の気体分子の熱運動、気体の状態変化を復習しておくことが望ましい。								
学習・教育到達目標 / JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(A)、(C)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(a)、(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	前期	曜日・校時	水 2	必修選択	選択	単位数	11
授業科目	生命科学(電・社)				担当教員 (科目責任者)	谷山 茂人			
(英語名)	Life Science				E-mail アドレス	tshigeto@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3 年	対象学生	社会		研究室	水産学部新々館 3F			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目、工学副専攻プログラム		TEL	095-819-2842			
教室	[情報]中庭第12番教室				オフィスアワー	事前にメールで問い合わせること。			
担当教員 (オムニバス等)	谷山 茂人								
授業の概要 及び位置づけ	近年著しい発展を続けているバイオテクノロジーの基礎を理解するために、生物学、細胞生物学、生化学など、関連分野についての基礎知識を修得する。								
授業到達目標	細胞とその構成成分の基本的な構造と機能、ならびに生体分子間の相互作用について説明することができるようになる。また、遺伝情報の発現機構を理解し、生命現象についての基本的概念を身につけることを目標とする。(DP6a, DP1)								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 生命科学の基礎 第2回 細胞の基本構造(1) 第3回 細胞の基本構造(2) 第4回 細胞の基本構造(3) 第5回 生体を構成している物質(1) 第6回 生体を構成している物質(2) 第7回 生体を構成している物質(3) 第8回 生体を構成している物質(4) 第9回 生体を構成している物質(5) 第10回 タンパク質の構造と機能(1) 第11回 タンパク質の構造と機能(2) 第12回 エネルギー代謝(1) 第13回 エネルギー代謝(2) 第14回 遺伝情報の流れ(1) 第15回 遺伝情報の流れ(2) 第16回 期末テストと指導								
キーワード	生物, 細胞, 生体成分, エネルギー代謝, 遺伝								
教科書・教材・参考書	教科書: はじめて学ぶ 生命科学の基礎(畠山智充・小田達也 編著), 化学同人								
成績評価の方法 ・基準等	試験および授業への積極的参加状況を考慮して成績評価を行う。成績評価方法: 試験 80%, 授業への積極的参加状況 20%。本授業では、授業に出席した時間数が、授業を行った時間数の3分の2に達しない場合は、定期試験の受験資格が認められないので注意してください。ただし、これはやむを得ない事情による欠席に対するもので、授業を行った時間数の3分の1までは欠席していいというわけではなく、毎回出席が原則です。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 / JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(A)、(C)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(a)、(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	前期	曜日・校時	月4、月5	必修選択	必修	単位数	12
授業科目	基礎実験(機械・社会)				担当教員 (科目責任者)	本村 文孝			
(英語名)	Fundamental Experiments for Engineering				E-mail アドレス	本村文孝:motomura@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	1年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館5階 ME-ラボ N501			
講義形態	実験	科目分類	工学基礎科目		TEL	095-819-2523(本村)			
教室	[工学]2号館3F第24講義室、[工学]サイエンス&テクノラボ棟2Fセミナー室1、セミナー室2、サイエンスラボ(物理)、サイエンスラボ(化学)				オフィスアワー	Eメールで質問を受付ける。各実験に関する質問は、実験内容に書かれているテーマ担当者に連絡すること。			
担当教員 (オムニバス等)	本村 文孝、中越 修、蔭 宇静、佐野 秀明、石塚 洋一、佐々木 壮一、杉本 知史、山本 将貴、盛永 明啓								
授業の概要 及び位置づけ	【概要】大学で修得する基礎的な物理や化学およびIoTの一部を、実験を通して理解する。【位置づけ】教育目標の「工学科の学生に共通して必要な教養と基礎知識を身につける」ための科目である。								
授業到達目標	物理学の基礎的な実験ができるようになる(①②)。化学の基礎的な実験ができるようになる(①②)。IoTの基礎的な実験ができるようになる(①②)。グループ内でのコミュニケーションがとれるようになる(④)。実験内容を的確に伝えることができるようになる(④)。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	1 回目【全体ガイダンス】基礎実験に関するガイダンスを行い、レポート提出についての諸注意、データ処理方法、実験中の安全の基本などについて講義する。 【物理実験/化学実験/IoT実験ガイダンス】 物理実験/化学実験/IoT実験に関するガイダンスを行い、物理実験/化学実験/IoT実験で使用する測定機器の使い方、実際の計測方法などについて講義する。 2 回目～15 回目 【物理実験】①～③:サイエンステクノラボ(物理実験室)、④:サイエンステクノラボ・セミナー室1 ① ボルダ振子による重力加速度の測定:ボルダの振子を用いた実験を行い、振子の周期から重力加速度を求める。 ② 運動量、力学的エネルギー保存の実験:力学台車の衝突と振り子の運動から、運動量保存の法則と力学的エネルギー保存の法則を確認、理解する。 ③ 温度計の校正実験(熱力学):原理の異なる温度計の較正、温度計測の原理について学び、最小二乗法による温度の推定法を理解する。 ④ コンピュータを用いた数値積分:コンピュータを用いて、台形公式とシンプソンの公式による数値積分を行い、計算結果の比較、分割数と計算精度を吟味する。 【化学実験】①～④:サイエンステクノラボ(化学実験室) ① 中和滴定:分析化学の基礎として、中和滴定の原理と基本操作について学ぶ。 ② 吸光度法による鉄(II)イオンの定量:水溶液中の2価の鉄イオンは、1、10-フェナントロリンと反応して赤色のキレート錯体を形成するため、吸光度法により定量できる。本実験では、その測定原理や実際の定量方法を理解する。 ③ アセトアニリドの合成:アニリンと無水酢酸は容易に反応しアセトアニリドを生成する。本実験では、合成実験を通して、実験器具の操作法および有機化学反応について理解する。 ④ 水の電気分解と燃料電池:水の電気分解で生成した水素と酸素を利用して「燃料電池」として発電できることを確認するとともに、その原理を理解する。 【IoT実験】①～④:工学部2号棟21番講義室、24番講義室 Internet of Things (IoT)とは何かを実験を通して学び、所属分野との関連性や、IoTによって得られたデータの活用について理解する。また、はんだづけや専用機器を使った電気計測なども行う。								
キーワード	加速度、運動量とエネルギー保存則、温度校正、数値積分、滴定、蒸留、合成、電気分解、吸光度、分子、センサー、通信、電子回路								
教科書・教材・参考書	物理実験、化学実験、IoT実験共に、教科書、参考書を購入する必要はありません。IoT実験では学習キット(長崎大学生協にて販売)を購入する必要があります。但し、学習キットの購入方法については、初回ガイダンス時に説明します。・化学実験では参考資料として、「新版-実験を安全に行うために(赤本)」「新版-続 実験を安全に行うために(青本)」(化学同人編集部編集)を紹介するが、図書館で借りることができます。・物理実験授業資料、レポート用紙は実験当日に配布、もしくはLACSから入手できるよう準備する。実験								
成績評価の方法 ・基準等	全回出席し、9項目の実験(物理実験:4テーマ、化学実験:4テーマ、IoT実験:1テーマ4コマ)を行い、そのレポートの提出、もしくはプレゼンすることが合格の必要条件となる。予習状況(20%)、実験中の取り組み姿勢(30%~60%:各実験テーマによって変動あり)およびレポートもしくはプレゼンの内容(20%~50%:各実験テーマによって変動あり)によって総合的に評価する。								
受講要件(履修条件)	物理実験(テーマ④:コンピュータを用いた数値積分)では、Officeソフトがインストールされたモバイルパソコンが必要となる。								
学習・教育到達目標 /JABEE基準	【コースの学習・教育到達目標】...(A)、(C)を達成するための科目である。 【JABEE基準】...(a)、(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	3Q	曜日・校時	月2、火2	必修選択	選択	単位数	13
授業科目	情報科学概論(社会)				担当教員 (科目責任者)	瀬戸 心太			
(英語名)	Introduction to Computer Science				E-mail アドレス	seto@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	1年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3階 教員・ゼミ室303			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目		TEL				
教室					オフィスアワー	Eメールで質問を受け付けます。			
担当教員 (オムニバス等)	瀬戸 心太								
授業の概要 及び位置づけ	コンピュータにおけるデータの取り扱い・プログラミングについて理解し、Linuxの使い方を習得する。								
授業到達目標	情報科学の基礎的な事項を理解したうえで、Linuxを用いたプログラミングやデータ処理を実行できるようにする。工学部のDP①、⑥-aに対応するコースの学習・教育到達目標(C)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 序論(コンピュータに関する基礎的な事項を理解する) 第2回 サーバーへの接続(大学の共有サーバーに接続できる) 第3回 高校の情報科目の復習(高校の情報科目の内容を理解する) 第4回 Linux入門①(Linuxとは何かを理解する) 第5回 Linux入門②(Linuxの基本的なコマンドを利用できる) 第6回 情報の表現(整数と実数の表現方法を理解する) 第7回 Linux入門③(Linuxの複数のコマンドを組み合わせて利用することができる) 第8回 ハードウェアとソフトウェア(ハードウェアとソフトウェアについての基礎的な事項を理解する) 第9回 プログラミング①(viを使って簡単なプログラムを書き、コンパイルおよび実行できる) 第10回 システムとネットワーク(システムとネットワークについての基礎的な事項を理解する) 第11回 セキュリティ(セキュリティについての基礎的な事項を理解する) 第12回 プログラミング②(並び替えなどの初歩的なプログラムを書くことができる) 第13回 まとめ(情報科学についての基礎的な事項を一通り理解する) 第14回 プログラミング③(テキストデータを処理するプログラムを書くことができる) 第15回 プログラミング④(サブルーチンを利用したプログラムを書くことができる)								
キーワード	Linux/プログラミング/データ処理								
教科書・教材・参考書	教科書:Linux 標準教科書 ver.4.0.0(LPI-Japan) ※PDFを無償ダウンロード可能 参考書:かやのき先生の基本情報技術者教室(栢木厚・著、技術評論社)								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(15点満点)、課題(85点満点)で評価する。課題の得点率が60%以上であることを合格の条件とする。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 /JABEE基準	【コースの学習・教育到達目標】...(A)、(C)を達成するための科目である。 【JABEE基準】...(a)、(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	後期	曜日・校時	金 4	必修選択	必修	単位数	14
授業科目	技術英語 I (社会)				担当教員 (科目責任者)	吉川 沙耶花			
(英語名)	Technical English I				E-mail アドレス	sayaka_yoshikawa@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2 年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館 教員・ゼミ室 305			
講義形態	演習	科目分類	工学基礎科目		TEL				
教室					オフィスアワー	Eメールで質問を受け付けます。			
担当教員 (オムニバス等)	吉川 沙耶花								
授業の概要 及び位置づけ	国際社会で活躍するためには、専門知識のみならず、それらを英語で表現できる力が必要となる。シリーズとして展開される技術英語の主な目的は、技術英語能力・コミュニケーション能力の涵養であり、コースの入門科目として位置付けられている。								
授業到達目標	技術英語 I では、高校物理の英語テキストに記載される英語表現の理解をとおして、理数系に必要な基礎的な技術英語能力を身につけることができる。また、英語で書かれた記事などに触れることで社会環境デザイン工学に関連する情報の概要を理解できる。【DP、学習到達目標】工学部の DP④に対応する【コースの学習・教育到達目標】(G)を達成するための科目である【JABEE 基準】(f)に対応する								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第 1 回 ガイダンス及び実力テスト 第 2 回 技術英語とは？(技術英語の 4C、文章構成の特徴等) 第 3 回 数式の読み方①(大きい数、小数、分数、四則演算) 第 4 回 数式の読み方②(べき乗とべき乗根、等式・不等式、三角関数) 第 5 回 数式の読み方③(数列、微分、積分) 第 6 回 数式の読み方④(確率)、図表の読み方①(線、図形) 第 7 回 図表の読み方②(グラフ)、統計用語 第 8 回 単位、物理用語 第 9 回 中間試験 第 10 回 長文読解①(力と運動) 第 11 回 長文読解②(幾何) 第 12 回 長文読解③(統計と確率) 第 13 回 長文読解④(波動) 第 14 回 長文読解⑤(リモートセンシング) 第 15 回 長文読解⑥(地球温暖化)								
キーワード	英文法／英文読解								
教科書・教材・参考書	参考書：「Fundamentals of Physics」Resnick et al.、Willy「理数系のための技術英語練習帳」、金谷健一、共立出版「英語で学ぶやさしい科学」、荒木英彦、Asahi press「BASIC SCIENCE & MATH」、Sanshusha「英語で説明する科学技術、植田一三、語研」「はじめての技術英語、宮野晃、ペレ出版」								
成績評価の方法・ 基準等	授業への積極的参加(10%)・課題提出状況(10%)、中間試験(20%)及び定期試験(60%)で評価する。定期試験の合計の得点率が 60%未満の場合、また総合点が 60%未満の学生は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	なし								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(A)、(G)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(a)、(f)に対応する。								

年度	2026	学期	前期	曜日・校時	月 3	必修選択	必修	単位数	15
授業科目	技術英語Ⅱ(社会)				担当教員 (科目責任者)	中村 聖三			
(英語名)	Technical English II				E-mail アドレス	shozo@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3階 教員・ゼミ室309			
講義形態	演習	科目分類	工学基礎科目		TEL	095-819-2613			
教室	[工学]1号館2F第4講義室				オフィスアワー	月曜日5校時. それ以外も対応しますが、できるだけ事前にメール等で連絡してください。			
担当教員 (オムニバス等)	中村 聖三								
授業の概要 及び位置づけ	国際社会で活躍するためには、専門知識のみならず、それらを英語で表現できる力が必要となる。技術英語Ⅱでは、技術英語Ⅰで修得した内容を基礎として、さらに専門的な英語能力(リーディング、ライティング能力)を修得する。技術英語Ⅰに引き続き、英語で書かれた科学技術に関する文章を読む。また、社会環境デザイン工学の基礎科目である構造力学、地盤力学、水理学に関する専門用語を学ぶとともに、教科書レベルの文章を読む能力を身に着ける。さらに、技術的な英文を書くための基礎知識を修得する。								
授業到達目標	卒業研究等で必要とする英語学術論文を正確に読解・翻訳できるようになること。【コースの学習・教育到達目標】...(G)を達成するための科目である。【JABEE 基準】...(f)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 ガイダンス, 読解力の確認 第2回 読解演習1:原子、混合物と化合物 第3回 読解演習2:力, 仕事・仕事率・効率 第4回 読解演習3:エネルギー源, 圧力 第5回 読解演習4:構造力学の文章 第6回 読解演習5:地盤力学の文章 第7回 読解演習6:水理学の文章 第8回 ライティング演習1:ライティングの基本 第9回 ライティング演習2:名詞の取り扱い 第10回 ライティング演習3:主語と動詞, 文型 第11回 ライティング演習4:時制, 能動態と受動態 第12回 ライティング演習5:助動詞 第13回 ライティング演習6:前置詞 第14回 ライティング演習7:to不定詞と動名詞, 現在分詞と過去分詞 第15回 ライティング演習8:比較, 関係代名詞と関係副詞 第16回 定期試験								
キーワード	リーディング/ライティング/土木専門用語/英語表現								
教科書・教材・参考書	テキスト 資料を配布する。参考書 畠山雄二, 科学英語読本一例文で学ぶ読解のコツ, 丸善。井合進・R. Scotto Steedman, 土木・環境系の国際人英語, コロナ社。								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(10点満点)、小テスト(20点満点)、定期試験(70点満点)で評価する。総合点が60%以上でも、定期試験の合計の得点率が60%未満の場合には不合格とする。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(A)、(G)を達成するための科目である。【JABEE 基準】...(a)、(f)に対応する。								

年度	2026	学期	後期	曜日・校時	水 1	必修選択	必修	単位数	16
授業科目	技術英語Ⅲ(社会)				担当教員 (科目責任者)	大嶺 聖			
(英語名)	Technical English Ⅲ				E-mail アドレス	omine@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3 年	対象学生	社会		研究室	工学部 1 号館 3 階教員・ゼミ室 306			
講義形態	演習	科目分類	工学基礎科目		TEL	095-819-2612			
教室					オフィスアワー	水曜日 5 校時			
担当教員 (オムニバス等)	大嶺 聖								
授業の概要 及び位置づけ	技術英語Ⅰ、Ⅱに引き続き英語で社会環境デザイン工学に関わる基礎事項を学習することによって、専門的な英文文献の読み方および簡単な技術英文の書き方を身につけることである。								
授業到達目標	卒業研究等で必要とする英語学術論文を正確に読解・翻訳できるようになること。【コースの学習・教育到達目標】...(G)を達成するための科目である。【JABEE 基準】...(f)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第1回～第2回 科学技術論文に必要な英文の基本的な書き方を理解することができる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の構成に必要な型と文例 2. 科学技術英文を書く時の注意点 <p>第3回～第6回 時間, 距離, 量, 数学的な記述に必要な表現を理解することができる</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 時及び時間に関する表現 4. 位置、方向、距離に関する表現 5. 量に関する表現 6. 数学的記述に必要な表現 <p>第7回 中間試験</p> <p>第8回～第9回 社会環境デザイン工学に関わる英語の専門用語を理解することができる</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 専門用語の演習①(日本語から英語) 9. 専門用語の演習②(英語から日本語) <p>第10回～第11回 専門の技術英語論文を読むことができる</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 読解演習(レベル1) 11. 読解演習(レベル2) <p>第12回～第13回 専門の技術英語論文の概要を書くことができる</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 英文概要作成演習(レベル1) 13. 英文概要作成演習(レベル2) <p>第14回～第15回 専門の技術英語概要の発表をすることができる</p> <ol style="list-style-type: none"> 14. 英文概要の発表(1) 15. 英文概要の発表(2) <p>第16回 評価(試験も含む)と指導</p>								
キーワード	技術英語／英文文献／科学英文の書き方								
教科書・教材・参考書	教科書:ジョン・スウェイルズ「すぐに役立つ科学英語の書き方」日経サイエンス社 参考書:適宜指定する。								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(20 点)、レポート(30 点)、中間試験・定期試験(50 点)。ただし、試験の正答率が 60%未満の場合と総合点が 60 点未満は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	技術英語Ⅰ、Ⅱを履修していること。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(A)、(G)を達成するための科目である。【JABEE 基準】...(a)、(f)に対応する。								

年度	2026	学期	前期	曜日・校時	他	必修選択	選択	単位数	17
授業科目	創成プロジェクト				担当教員 (科目責任者)	原田 晃			
(英語名)	Engineering Design and Practice				E-mail アドレス	a-harada@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	1年、2年、3年、4年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館4F 教員・ゼミ室503			
講義形態	実習	科目分類	工学基礎科目		TEL	095-819-2608			
教室	[工学]1号館2F第3講義室				オフィスアワー	特に指定しない(事前に連絡してください)			
担当教員 (オムニバス等)	原田 晃								
授業の概要 及び位置づけ	課題を探究する能力及び種々の学問・技術を統合して課題を解決する能力(エンジニアリングデザイン能力)を身に付ける。(本科目では、受講生が主体的な取り組みを通して技術の実践(ものづくり)には幅広い知識や深い専門知識が要求されることを認識すると共にどうすればそれらの知識を獲得できるかその糸口を見出すことをねらっている。)								
授業到達目標	[1] 課題を探究する手法を理解し、課題を解決する手法を提案・実践できる。(DP-③) [2] 論理的なプレゼンテーションを行うことができる(考えていることが正確に相手へ伝わる)。(DP-④) [3] チームのメンバーとのコミュニケーションを図り、協働作業を進めることができる。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回～ ・テーマ説明会(第1回:共通) ・知財に関する知識(第2回:共通) ・テーマ別個別検討(個別実施) ・「アイデア発表会」(共通) ・「中間発表会」(共通) ・「最終成果発表会」(共通) ・「3 大学ものづくりアイデア展」(共通)								
キーワード	主体性, 創造性, ものづくり, エンジニアリングデザイン能力, 知的財産, 協働作業, プレゼンテーション								
教科書・教材・参考書	必要に応じてプリント等を配布する。								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(課題探究への積極性, 実践力, 協調性, リーダーシップ性で評価する)40点, 出展作品30点, プレゼンテーション20点, レポート10点 全回対面による出席を原則とする。やむを得ず欠席する場合は, 特別指導を行うので担当教員に連絡すること。								
受講要件(履修条件)	本科目はコース, 学年を問わず受講できる。								
学習・教育到達目標 / JABEE 基準									

年度	2026	学期	3Q	曜日・校時	月 2	必修選択	必修	単位数	22
授業科目	工学倫理(社会)				担当教員 (科目責任者)	杉本 知史			
(英語名)	Engineering Ethics				E-mail アドレス	s-sugi@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館4階401号			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目		TEL	095-819-2618			
教室					オフィスアワー	水曜 5 校時、メールで事前にアポイントを取って下さい。			
担当教員 (オムニバス等)	杉本 知史								
授業の概要 及び位置づけ	工学的解決法が社会と自然環境に及ぼす影響、価値について考え、技術者としての社会に対する責任を自覚する。								
授業到達目標	技術者としての倫理観を考え、重大事故や過失を防ぐための配慮や方策について自分の意見を示すことができるようになる。【コースの学習・教育到達目標】(B)を達成するための科目である。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第 1 回 工学倫理の定義① 日本における技術者倫理の現状、技術者倫理とは何か(倫理教育の社会的背景を理解し、「なぜ土木技術者に倫理教育が必要なのか」を自分の言葉で説明できる。)</p> <p>第 2 回 技術者倫理の定義② 技術者の社会的責任と倫理、行動規範とその機能、研究倫理(倫理教育の社会的背景を理解し、「なぜ土木技術者に倫理教育が必要なのか」を自分の言葉で説明できる。)</p> <p>第 3 回 技術者倫理の定義③ 技術者倫理の特殊性、技術者のプロフェッショナルとしての責任、技術者の説明責任(倫理教育の社会的背景を理解し、「なぜ土木技術者に倫理教育が必要なのか」を自分の言葉で説明できる。)</p> <p>第 4 回 技術者の行動指針 技術者としての主張、社会問題化した事故事例と技術的考察、(技術者倫理を実践していくために必要な行動や考え方について、自分の言葉で説明できる。)</p> <p>第 5 回 技術者倫理問題とその考え方(技術者倫理を実践していくための具体的な行動について考え、自分の言葉で説明できる。)</p> <p>第 6 回 土木技術者が遭遇する倫理問題①(将来、直面するであろう様々な局面を想定し、その事態における技術者の判断・行動について「技術者倫理」の観点から考え、自分の意見を述べることができる。)</p> <p>第 7 回 土木技術者が遭遇する倫理問題②(将来、直面するであろう様々な局面を想定し、その事態における技術者の判断・行動について「技術者倫理」の観点から考え、自分の意見を述べることができる。)</p> <p>第 8 回 評価と指導(最終レポート課題の作成)</p>								
キーワード	技術者倫理／公衆の健康／安全及び福利／土木技術者								
教科書・教材・参考書	教科書:土木教育委員会倫理教育小委員会編「土木技術者の倫理 事例分析を中心として」土木学会、参考書:柴山智也「建設技術者の倫理と実践」丸善								
成績評価の方法・ 基準等	・各講義のレポート課題(9課題)75% ・最終レポート課題 25% の割合で成績評価を行い、合計が満点の60%未満の場合は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	全回出席を原則とする。ただし、やむを得ず欠席する場合は個別指導を行うので担当教員に連絡すること。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(B)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(b)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	4Q	曜日・校時	火 3	必修選択	必修	単位数	23
授業科目	安全工学(社会)				担当教員 (科目責任者)	杉本 知史			
(英語名)	Safety Engineering				E-mail アドレス	s-sugi@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館4階401号			
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目		TEL	095-819-2618			
教室					オフィスアワー	水曜 5 校時、メールで事前にアポイントを取って下さい。			
担当教員 (オムニバス等)	杉本 知史								
授業の概要 及び位置づけ	工学的解決法が社会と自然環境に及ぼす影響、価値について考え、技術者としての社会に対する責任を自覚する。								
授業到達目標	技術者としての倫理観を考え、重大事故や過失を防ぐための配慮や方策について自分の意見を示すことができるようになる。【コースの学習・教育到達目標】(B)を達成するための科目である。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第 1 回 安全工学を学ぶ目的;安全工学の重要性、労働安全衛生関連の法令ならびに指針、労働災害の実態(安全工学の社会的背景を理解し、「なぜ安全工学を学ぶ必要があるのか」を自分の言葉で説明できる。)</p> <p>第 2 回 安全管理の基本①:安全管理の基本的な考え方、安全の 4M(技術者に関わる安全管理の考え方を理解し、自分の言葉で説明できる。)</p> <p>第 3 回 安全管理の基本②:リスク対策の 4E、ハード対策とソフト対策、危険予知(技術者に関わるリスクを理解し、リスク対策の考え方を自分の言葉で説明できる。)</p> <p>第 4 回 リスクアセスメント:リスクアセスメントの基本手順、リスク評価と低減措置(リスクアセスメントの必要性や考え方、その効果について理解し、自分の言葉で説明できる。)</p> <p>第 5 回 ルール遵守と変更管理①:不適切行動、ルール遵守の必要性、変更管理(ルール遵守の必要性や変更管理の意味を理解し、自分の言葉で説明できる。)</p> <p>第 6 回 ルール遵守と変更管理②:変更管理の仕組み、変更の重要度の判定、ヒューマンエラー対策(変更管理の仕組みやヒューマンエラー対策について理解し、自分の言葉で説明できる。)</p> <p>第 7 回 技術者が遭遇する安全に関わる問題への対応:建設事業における安全工学的問題への対応(労働に関わる危険性を理解し、安全確保のための対応について自分の言葉で説明できる。また、将来直面するであろう様々な状況を想定し、その事態における技術者の判断・行動について「安全工学」の観点から考え、自分の意見を述べることができる。)</p> <p>第 8 回 評価と指導</p>								
キーワード	技術者倫理/公衆の健康/安全及び福利/土木技術者								
教科書・教材・参考書	教科書:土木教育委員会倫理教育小委員会編「土木技術者の倫理 事例分析を中心として」土木学会、参考書:柴山智也「建設技術者の倫理と実践」丸善								
成績評価の方法 ・基準等	・各講義のレポート課題(6課題)75% ・最終レポート課題 25% の割合で成績評価を行い、合計が満点の 60%未満の場合は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	全回出席を原則とする。ただし、やむを得ず欠席する場合は個別指導を行うので担当教員に連絡すること。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(B)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(b)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	2Q	曜日・校時	火 5、火 6	必修選択	選択	単位数	18
授業科目	経営管理(情・構・社)				担当教員 (科目責任者)	山口 啓樹			
(英語名)	Business Administration				E-mail アドレス	E-mail: eng_gakumu@ml.nagasaki-u.ac.jp]			
対象年次	4 年	対象学生	社会		研究室				
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目		TEL				
教室	[総合]総合教育研究棟 3F 大講義室				オフィスアワー				
担当教員 (オムニバス等)	山口 啓樹								
授業の概要 及び位置づけ	主として製造業の企業活動の内容を理解することにより、企業の価値観を理解し、企業における技術者の活動についての理解を深める。								
授業到達目標	社会における企業の存在を理解し、仕事に対する責任感と達成への強い執念を持った技術者に育つために、企業活動を理解する。情報 DP-、構造 DP①、社会 DP⑥a								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第 1 回「講義の主眼」と「講師の自己紹介」本講義の全体概要、企業にてもものづくりに携わった講師の自己紹介及び技術者としての経験を紹介する。「著作権について」著作権の基礎知識と文献の引用方法について理解する。</p> <p>第 2 回「技術者倫理について」関連文献から技術者のあり方、仕事を進める上での心構え等を紹介し、技術者倫理の重要性を考える。「失敗から学ぶ」世の中の失敗事例から、なぜ失敗したのか、失敗しないためには何をすべきであったかを考え、教訓として活かす。「ヒューマンエラーと事故」ヒューマンエラーと事故の関係やその防止方法について理解する。</p> <p>第 3 回「エネルギーについて」エネルギーの種類、エネルギー利用の歴史、各種発電方式、日本のエネルギー事情等について述べ、将来のエネルギーについて考える。</p> <p>第 4 回「地球環境保全について(温室効果ガス削減)」温室効果ガス(GHG)排出の実情、GHG 排出削減の動き、削減対策の概要、再生可能エネルギーなどについて述べ、日本・世界の動きを理解する。</p> <p>第 5 回「ボイラについて(1)(ボイラの基礎知識)」発電用ボイラの種類、設備構成、各機器の機能、材料、制御などについて述べ、ボイラ技術を理解する。</p> <p>第 6 回「ボイラについて(2)(設計手順、設計技術)」発電用ボイラの設計がどのように為されているかや最新技術を紹介し、大学で学ぶことがどのような形で活かされているか理解する。</p> <p>第 7 回「検査・測定・試験技術について」主として発電用ボイラに適用されている最新の検査・測定・試験技術について紹介する。</p> <p>第 8 回「最新の発電技術について」石炭ガス化複合発電や燃料電池等最新の発電技術について紹介する。</p> <p>第 9 回「技術開発について(1)~PCB 水熱分解技術の開発」講師が関わった技術開発の実例を題材に、新しいことに取り組むことの困難さとそれを乗り越えるためにどうすべきかを紹介する。</p> <p>第 10 回「技術開発について(2)~バイオマスガス化技術」同上</p> <p>第 11 回「AI・IoTについて」近年話題の AI・IoT について、実際の製品への適用例等を紹介する。</p> <p>第 12 回「技術系資格について」技術士等取得すべき技術系の資格について、試験制度、受験要件や取得のメリット等を紹介する。大学時代に何をすべきかひとつのヒントを提供する。</p> <p>第 13 回「知財のはなし」特許の概要、出願の方法、具体的な出願例などを紹介する。</p> <p>第 14 回「品質管理と小集団活動」企業における品質管理(ISO9000s)の概要と品質向上に向けた小集団活動を理解する。</p> <p>第 15 回「社会人・技術者の心得」諸先輩の心に響く言葉や文献等を通して、今後社会人となる人の参考となる言葉を紹介する。</p>								
キーワード	企業活動、企業は人なり、技術者倫理、活力、やる気、開発は戦略、技術経営、環境管理、品質管理、知財								
教科書・教材・参考書	毎回の講義資料を LACS にアップロードする。また、必要に応じて参考書や文献を紹介する。								
成績評価の方法 ・基準等	授業への取り組み度と小レポート数回(合計 50 点満点)、及び期末レポート(50 点満点)の合計点で評価し、60 点以上を合格とする。								
受講要件(履修条件)	物理学・数学、熱力学、流体力学の履修が望ましいが、未履修者も受講可能。								
学習・教育到達目標 / JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(B)、(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(b)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	3Q	曜日・校時	金 1、金 2	必修選択	選択	単位数	19
授業科目	産業経済学(情・構・社)				担当教員 (科目責任者)	中村 春雄			
(英語名)	Industrial economics				E-mail アドレス	halnuac@yahoo.co.jp			
対象年次	4 年	対象学生	社会		研究室				
講義形態	講義	科目分類	工学基礎科目		TEL	halnuac@yahoo.co.jp			
教室					オフィスアワー	授業後 30 分			
担当教員 (オムニバス等)	中村 春雄								
授業の概要 及び位置づけ	ビジネスのことがわかる工学技術者をめし、マイクロ経済学及び経営学の基礎的知識と理論を習得する。本科目は理工系のための経済・経営学としての Management of Technology (MOT)、イノベーションの経済・経営学および組織・戦略の経済学への展望を図るための基礎を修得することを企図する。								
授業到達目標	マイクロ経済学及び経営学を学ぶためのいくつかの重要な概念と基礎理論を理解し、それを基に簡単な経済・経営問題を解くことができる。 情報 DP、構造 DP①、社会 DP⑥a								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	1 回目 ガイダンス(経済学・経営学とは何か、技術者が学ぶことの意義とポイントを理解する) 2 回目 ミクロ経済学の基礎 I (生産者理論:生産者の行動原理を理解する) 3 回目 ミクロ経済学の基礎 II (消費者理論:消費者の行動原理を理解する) 4 回目 ミクロ経済学の基礎 III (市場の理論:完全競争市場と市場均衡を理解する) 5 回目 経営学の基礎(伝統的管理論、人間関係論、行動科学的管理論、近代管理論の概要を理解する) 6 回目 市場構造の分析枠組みと需要の特性(産業組織論と経営戦略論による分析手法及び需要を規定する要因を理解する) 7 回目 費用の規定要因(コストとは何か、コスト優位とその要因について理解する) 8 回目 まとめと中間試験 9 回目 中間試験の解答と復習 10 回目 超高齢・人口減少社会と産業構造の転換(これからの「ものづくり」と「地方創生」を考える) 11 回目 市場支配力(不完全競争市場、独占とその要因を理解する) 12 回目 寡占と競争(産業組織論の代表的なモデルであるクールノーモデルを理解する) 13 回目 ゲームと戦略(意思決定の相互作用とゲーム理論を理解する) 14 回目 競争戦略の分類、価格戦略、製品戦略(企業の戦略的行動と市場細分化について理解する) 15 回目 総まとめと演習(第1回から第14回までの総復習と演習) 16 回目 試験								
キーワード									
教科書・教材・参考書	教科書:丸山雅祥(2017)「経営の経済学」(第3版)有斐閣 参考書及び教材:以下の参考書を授業の中で適宜紹介する。また、必要に応じ、ハンドアウトを配付する。・安藤至大(2021)『マイクロ経済学の第一歩』(新版)有斐閣ストウディア ・入山章栄(2019)『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的な参加及び中間試験(又はレポート)・期末試験により総合的に成績を評価する。なお、配分は、期末試験 50%、中間試験(又はレポート)30%、授業への積極的参加 20%とする。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(B)、(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(b)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	前期	曜日・校時	火 3	必修選択	必修	単位数	52
授業科目	プロジェクト演習 I				担当教員 (科目責任者)	田中 亘			
(英語名)	Project Practicum I				E-mail アドレス	w.tanaka@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	1 年	対象学生	社会		研究室	工学部 1 号館 3 階 教員・ゼミ室			
講義形態	演習	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2626(コース事務局)			
教室	[総合]総合教育研究棟 1F109 講義室				オフィスアワー	別途指示します			
担当教員 (オムニバス等)	田中 亘、大嶺 聖、吉川 沙耶花								
授業の概要 及び位置づけ	大学における基本的なスタディスキルを修得するとともに、社会環境デザイン工学とは何かを理解し、今後の学習に対するモチベーションを高める。								
授業到達目標	大学での学修方法について、基本的なスキルを修得する。社会環境デザイン工学の内容を理解する。【学科・コースの学習・教育到達目標】主として(G)、付随的に(H)対応する。【JABEE 基準】(f)、(h)、(i)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第 1 回 養成される技術者像・教育プログラム・PBL 科目の位置づけ、ポートフォリオ 第 2 回 安全で豊かな社会のデザイン① 社会基盤施設の整備と維持管理 第 3 回 安全で豊かな社会のデザイン② 社会基盤施設の整備と維持管理 第 4 回 安全で豊かな社会のデザイン③ 地盤災害(土砂災害・液状化) 第 5 回 安全で豊かな社会のデザイン④ 水害(洪水・津波) 第 6 回 持続可能な環境のデザイン① 地圏環境(現状・変化メカニズム、修復) 第 7 回 持続可能な環境のデザイン② 地圏環境(現状・変化メカニズム、修復) 第 8 回 持続可能な環境のデザイン③ 遠隔モニタリング技術(空から見た日本) 第 9 回 持続可能な環境のデザイン④ 都市・地域の計画(歴史・文化的視点からのまちづくり) 第 10 回 持続可能な環境のデザイン⑤ 水圏環境(治水・利水・環境) 第 11 回～第 16 回 第 2 部 見学会およびレポート作成見学会ルートおよびスケジュールの策定、見学会、レポートの書き方、レポートのための班別討議、レポートの評価と指導								
キーワード	学修方法、社会環境デザイン工学、レポート作成方法								
教科書・教材・参考書	必要に応じて、適宜資料を配布する。								
成績評価の方法 ・基準等	見学会 40 点満点(学習・教育到達目標 G)、第 1～10 回の授業に対する振り返りシート・課題 60 点満点(学習・教育到達目標 G)。合計が満点の 60%以上を合格とする。ただし、授業に 2/3 以上出席しなければ学習・教育到達目標を達成していないものと判断し、単位を認めない。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(G)、(H)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(f)、(h)、(i)に対応する。								

年度	2026	学期	後期	曜日・校時	金 3	必修選択	必修	単位数	53
授業科目	プロジェクト演習Ⅱ				担当教員 (科目責任者)	田中 亘			
(英語名)	Project Practicum II				E-mail アドレス	w.tanaka@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2年	対象学生	社会		研究室	工学部 1号館 3階 教員・ゼミ室			
講義形態	演習	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2626(コース事務局)			
教室					オフィスアワー	別途指示します			
担当教員 (オムニバス等)	田中 亘								
授業の概要 及び位置づけ	長崎県内の社会環境デザイン工学に関する事象について課題を抽出し、「多面的視点からの思考力」「コミュニケーション能力」「各種情報処理ツールを活用する能力」を習得する。								
授業到達目標	長崎県における土木・建設の課題を理解する。ポスタープレゼンテーション技術を養成する。【学科・コースの学習・教育到達目標】主として(H)、付随的に(F)、(G)を達成するための科目である。【JABEE 基準】... (d), (e), (f), (h), (i)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 社会基盤施設の整備と維持管理の課題 第2回 地盤災害(土砂災害・液状化)の課題 第3回 水圏環境(治水・利水・環境)の課題 第4回 遠隔モニタリング技術の課題 第5回 都市・地域の計画の課題 第6回 日本の土木・建設の課題(長崎県建設業) 第7回 日本の土木・建設の課題(河川国道事務所) 第8回 長崎県・長崎市の土木・建設の関する課題(長崎県・長崎市) 第9回-第12回 第2部 長崎県における土木・建設の課題抽出課題抽出手法、長崎県における土木・建設の課題抽出、長崎県における土木・建設の課題抽出第13回-第15回第3部 ポスタープレゼンテーション技術の養成ポスターの作り方、図、表の作り方、プレゼンの心得、ポスター作製、発表会								
キーワード	社会環境デザイン工学、課題抽出、プレゼンテーション技能								
教科書・教材・参考書	必要に応じて、適宜資料を配布する。								
成績評価の方法 ・基準等	レポート50点満点(個別評価;学習・教育到達目標H)、ポスター発表50点満点(グループ別評価;学習・教育到達目標H)。合計が、満点の60%以上を合格とする。ただし、授業に2/3以上出席しなければ学習・教育到達目標を達成していないものと判断し、単位を認めない。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(F)、(G)、(H)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)、(e)、(f)、(h)、(i)に対応する。								

年度	2026	学期	後期	曜日・校時	月 5	必修選択	必修	単位数	54
授業科目	プロジェクト演習Ⅲ				担当教員 (科目責任者)	田中 亘			
(英語名)	Project Practicum Ⅲ				E-mail アドレス	w.tanaka@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部 1号館 202号			
講義形態	演習	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2624			
教室					オフィスアワー	別途指示する			
担当教員 (オムニバス等)	田中 亘								
授業の概要 及び位置づけ	長崎県内の社会環境デザイン工学に関する事象について課題の解決方法を提案し、「課題解決に向けたデザイン能力」「実務遂行のための基礎的能力」「自主的な自己研鑽能力」を習得する。								
授業到達目標	長崎県における土木・建設の課題解決方法を提案する。口頭発表技術を養成する。【学科・コースの学習・教育到達目標】主として(F)、付随的に(G)、(H)に対応する。【JABEE 基準】...(d), (e), (f), (h), (i)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 ガイダンス、課題(テーマ)説明 第2回 講義:問題分析・解決手法、プロジェクト分析・管理手法 第3~5回 水圏, 構造, 地盤, 環境計画分野における課題解決事例 第6~14回 グループ別演習 第15回 最終発表会:口頭発表								
キーワード									
教科書・教材・参考書	別途指示する。								
成績評価の方法 ・基準等	レポート 50 点満点(個別評価:学習・教育到達目標 F), 口頭発表 50 点満点(グループ別評価:学習・教育到達目標 F)。合計が満点の 60%以上を合格とする。ただし, 授業に 2/3 以上出席しなければ学習・教育到達目標を達成していないものと判断し, 単位を認めない。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(F)、(G)、(H)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)、(e)、(f)、(h)、(i)に対応する。								

年度	2026	学期	後期	曜日・校時	月 4	必修選択	必修	単位数	24
授業科目	社会環境デザイン製図				担当教員 (科目責任者)	西川 貴文			
(英語名)	Fundamentals of Drawing for Civil and Environmental Engineering				E-mail アドレス	nishikawa@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	1 年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館 教員・ゼミ室 311			
講義形態	演習	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2625			
教室					オフィスアワー	月曜日 5 校時および随時メール受付			
担当教員 (オムニバス等)	西川 貴文								
授業の概要 及び位置づけ	社会基盤施設の設計には、力学をはじめとして測量・計画・施工などに関する総合的な知識が必要であり、計画図面は設計の意図を図面使用者に正確に伝達する必要がある。この科目では、計画対象施設を二次元的な考えをもって平面上に図示する知識と技術を習得することを目的とし、また、製図に関する規格、図面の表し方、設計製図を正しく読み、図面を正しく描く能力を育てる。								
授業到達目標	社会環境に関連した施設の具体的な事例を対象に、設計製図の基本的な方法を理解し、CAD による基礎的な製図ができる。基本的な設計製図を正しく読みとれる。(DP-6e)【学科・コースの学習・教育到達目標】(D)を達成するための科目である。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第 1～5 回 図法幾何学の基礎を理解し、基本的な投影処理手法を身につける 第 1 回 図法幾何学の基礎 第 2 回 正投影: 投影面と投影図 第 3 回 正投影: 平面と直線・2 平面 第 4 回 立体の正投影: 切断・相貫 第 5 回 立体の正投影: 展開・陰影 第 6～11 回 製図に必要な CAD の基礎を理解し、基本的な処理方法を身につける 第 6 回 CAD の基礎 第 7 回 製図の規約 第 8 回 基本製図: 写図・読図 第 9 回 CAD による製図演習: 基本操作 第 10 回 CAD による作図の方法 第 11 回 CAD による文字入力、線種 第 12～16 回 CAD による構造物の基礎的な製図方法を身につける 第 12 回 CAD による製図演習: 鋼構造模写 第 13 回 CAD による製図演習: 鋼構造模写 第 14 回 CAD による製図演習: コンクリート構造模写 第 15 回 CAD による製図演習: コンクリート構造模写 第 16 回 総合演習(評価と指導)								
キーワード	製図／投影法／CAD								
教科書・教材・参考書	教科書: とくに指定しない。教材: 適宜、印刷資料を配布する。参考書: 土木製図(実教出版)など。								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(30 点満点)、課題レポート(70 点満点)で評価する。ただし、全ての課題を提出することと、課題レポートの得点が 60%以上であることを合格の要件とする。								
受講要件(履修条件)	後半では CAD を使用するため、PC の基礎操作ができることを前提にする。講義に全回出席することを原則とする。ただし、やむを得ず欠席せねばならないと認められた場合は個別に指導するので、担当教員に欠席する日より前に連絡すること。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	4Q	曜日・校時	月2、火2	必修選択	必修	単位数	25
授業科目	連続体力学入門				担当教員 (科目責任者)	中村 聖三			
(英語名)	Elemental Continuum Mechanics				E-mail アドレス	shozo@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	1年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3階 教員・ゼミ室309			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2613			
教室					オフィスアワー	月曜日4校時. それ以外も対応しますが、できるだけ事前にメール等で連絡してください。			
担当教員 (オムニバス等)	中村 聖三								
授業の概要 及び位置づけ	連続体力学の基本概念と原理, 特に応力とひずみの概念を理解する。								
授業到達目標	連続体における応力, ひずみおよび構成式の概念を明確に説明できるとともに, 与えられた応力場・ひずみ場に対して, 主応力・主ひずみ等が求められるようになること。【学科・コースの学習教育到達目標】(C)を達成するための科目である。【JABEE 基準】(c), (d)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 ガイダンス／ベクトル1(基本的なベクトル演算ができる) 第2回 ベクトル2(基本的なベクトル演算ができる) 第3回 行列1(基本的な行列の演算ができる) 第4回 行列2(基本的な行列の演算ができる) 第5回 座標系の並進と回転/一般の座標変換(座標系の並進, 回転による座標の変化を計算できる) 第6回 中間試験(問題の60%以上を正しく解ける) 第7回 応力の考え方/応力成分の記号(応力の考え方・表現方法が説明できる) 第8回 Cauchyの公式(Cauchyの公式を用いた計算ができる) 第9回 平衡方程式(平衡方程式の誘導とそれを用いた平衡状態の判定ができる) 第10回 座標変換による応力成分の変化(座標変換による応力成分変化が計算できる) 第11回 平面応力状態①(平面応力状態に対して座標変換による応力成分の変化が計算できる) 第12回 平面応力状態②(平面応力状態における主応力・最大せん断応力の大きさと方向が計算できる) 第13回 3次元応力状態における主応力(3次元応力状態における主応力の大きさと方向が計算できる) 第14回 ひずみとは/ひずみ-変位関係式(縦ひずみ)(ひずみの考え方が説明でき, 縦ひずみ-変位関係式が誘導, 活用できる) 第15回 ひずみ-変位関係式(せん断ひずみ)/ひずみの適合条件式(縦ひずみ-変位関係式, ひずみの適合条件式が誘導, 活用できる) 第16回 定期試験(問題の60%以上を正しく解ける)								
キーワード	連続体／ベクトル／行列／応力／ひずみ								
教科書・教材・参考書	参考書: Y.C ファン著／大橋義夫他 共訳「連続体の力学入門(改訂版)」培風館 教材: 必要に応じて, プリント資料を配布する。								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(15点満点)、試験(85点満点)。ただし, 試験の正答率より低い評価を与えることはなく, 総合評価が60点を超えても試験の正答率が60%未満の場合は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	「基礎物理A」の講義内容を復習しておくこと。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(C)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(c), (d)に対応する。								

年度	2026	学期	1Q	曜日・校時	水 1、木 1、 木 2	必修選択	必修	単位数	63
授業科目	構造力学 I (社会)				担当教員 (科目責任者)	中村 聖三			
(英語名)	Structural Mechanics I				E-mail アドレス	shozo@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2 年	対象学生	社会		研究室	工学部 1 号館 3 階 教員・ゼミ室 309			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2613			
教室	[工学]1号館2F第5講義室				オフィスアワー	木曜日 4 校時。それ以外も対応しますが、できるだけ事前にメール等で連絡してください。			
担当教員 (オムニバス等)	中村 聖三								
授業の概要 及び位置づけ	構造物は、自重、風圧、水圧、衝撃力、地震力などの様々な外力を安全に支え止めることができるように設計される。本講義では、そのために必要となる基礎知識のうち、主に静定ばかりにかかわる事項について解説する。								
授業到達目標	静定ばかりの反力、断面力、応力、変形の解析法を修得し、基本的な問題が解けるようになること。【学科・コースの学習教育到達目標】(D)を達成するための科目である。【JABEE 基準】(d)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>1 回 ガイダンス／構造力学とは／平面静力学の基礎Ⅰ：力の合成・分解(構造力学がどのような学問かを説明できる。また、力の合成・分解ができる)</p> <p>2 回 平面静力学の基礎Ⅱ：モーメント、隅力、分布荷重の集中荷重への置き換え(モーメント、隅力について説明でき、分布荷重の集中荷重への置き換えができる)</p> <p>3 回 平面静力学の基礎Ⅲ：力のつり合いと自由物体図、支点条件(力のつり合い式が立てられ、構造物の支え方の種類とその概要が説明できる)</p> <p>4 回 演習 1: 平面静力学の基礎</p> <p>5 回 静定ばかりの反力Ⅱ：静定と不静定、反力の求め方(静定・不静定が判定でき、静定ばかりの反力が算定できる)</p> <p>6 回 演習 2: 静定ばかりの反力</p> <p>7 回 静定ばかりの断面力Ⅰ：断面力の定義と求め方、単純ばり・片持ちばりの断面力Ⅰ(断面力の定義が説明でき、単純ばり・片持ちばりの断面力が算定できる)</p> <p>8 回 静定ばかりの断面力Ⅱ：張り出しばり・ゲルバーばりの断面力、間接荷重(張り出しばり・ゲルバーばりの断面力、間接荷重載荷時の断面力が算定できる)</p> <p>9 回 演習 3: 静定ばかりの断面力</p> <p>10 回 中間試験(問題の 60%以上を正しく解ける)</p> <p>11 回 断面の形の幾何学的性質: 断面 1 次モーメント、図心、断面 2 次モーメント(断面一次モーメント、断面の図心、断面二次モーメントが算定できる)</p> <p>12 回 演習 4: 断面の形の幾何学的性質</p> <p>13 回 静定ばかりの応力Ⅰ：応力とは、軸方向力による応力、曲げ応力(応力とは何かが説明でき、軸方向力による応力、曲げ応力が算定できる)</p> <p>14 回 静定ばかりの応力Ⅱ：せん断応力(はりの曲げによるせん断応力が算定できる)</p> <p>15 回 演習 5: 静定ばかりの応力</p> <p>16 回 静定ばかりのたわみⅠ：微分方程式による解法(微分方程式による解法でたわみが算定できる)</p> <p>17 回 静定ばかりのたわみⅡ：弾性荷重法(弾性荷重法によりたわみが算定できる)</p> <p>18 回 演習 6: 静定ばかりのたわみ</p> <p>19 回 静定ばかりの影響線Ⅰ：影響線の定義と求め方(影響線とは何かが説明でき、影響線が求められる)</p> <p>20 回 静定ばかりの影響線Ⅱ：影響線の利用方法(断面力の算定等に影響線を利用できる)</p> <p>21 回 演習 7: 静定ばかりの影響線</p> <p>22 回 総合演習</p> <p>23 回 定期試験(問題の 60%以上を正しく解ける)</p>								
キーワード	構造物／反力／断面力／応力／たわみ／影響線								
教科書・教材・参考書	教科書：米田昌弘 著「構造力学を学ぶ(基礎からエネルギー法まで)」森北出版 教材：必要に応じて、プリント資料を配布する。参考書：彦坂・崎山・大塚著「構造力学演習」共立出版、鈴木基行著「構造力学徹底演習」森北出版								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(10 点満点)、レポート課題(20 点満点)、試験(70 点満点)。ただし、最終試験の正答率より低い評価を与えることはなく、総合評価が 60 点を超えても試験の正答率が 60%未満の場合は不合格とする。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	3Q	曜日・校時	月 3、木 1、 木 2	必修選択	必修	単位数	64
授業科目	構造力学Ⅱ(社会)				担当教員 (科目責任者)	中村 聖三			
(英語名)	Structural Mechanics II				E-mail アドレス	shozo@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3階 教員・ゼミ室309			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2613			
教室					オフィスアワー	月曜日4校時。それ以外も対応しますが、できるだけ事前にメール等で連絡してください。			
担当教員 (オムニバス等)	中村 聖三								
授業の概要 及び位置づけ	構造物は、自重、風圧、水圧、衝撃力、地震力などの様々な外力を安全に支え止めることができるように設計される。本講義では、そのために必要となる基礎知識のうち、静定トラスおよび構造物の弾性変形にかかわる事項について解説する。								
授業到達目標	静定トラスの部材力とその影響線、長柱のオイラー座屈荷重、偏心荷重を受ける短柱の応力と断面の核が求められ、構造物の弾性変形に関する各種定理を用いて、簡単な不静定構造物の断面力や変形が解析できるようになること。【学科・コースの学習教育到達目標】(D)を達成するための科目である。【JABEE 基準】(d)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	1回 ガイダンス/トラス概説(トラスとは何かが説明でき、安定・不安定、静定・不静定を判定できる) 2回 静定トラスの部材力算定法:格点(節点)法(格点法を用いて静定トラスの部材力が算定できる) 3回 静定トラスの部材力算定法:断面法(断面法を用いて静定トラスの部材力が算定できる) 4回 演習1:静定トラスの部材力算定法 5回 静定トラスの部材力影響線(静定トラスの部材力影響線が求められる) 6回 静定トラスの部材力影響線の利用方法(静定トラスの部材力影響線を適切に利用できる) 7回 演習2:静定トラスの部材力影響線 8回 中間試験①(問題の60%以上を正しく解ける) 9回 偏心荷重を受ける短柱と断面の核(偏心荷重を受ける短柱の応力、断面の核が算定できる) 10回 長柱の座屈とオイラーの座屈(座屈とは何かが説明でき、オイラーの座屈荷重が算定できる) 11回 演習3:短柱と長柱 12回 部材に蓄えられる内部エネルギー(柱部材、はり部材等に蓄えられるひずみエネルギーを算定できる) 13回 演習4:部材に蓄えられる内部エネルギー 14回 カスティリャーノの定理(カスティリャーノの定理について説明でき、適切に利用できる) 15回 最小仕事の原理(最小仕事の原理について説明でき、適切に利用できる) 16回 演習5:カスティリャーノの定理、最小仕事の原理 17回 仮想仕事の原理(仮想仕事の原理について説明でき、適切に利用できる) 18回 単位荷重法(単位荷重法の原理について説明でき、それを利用して構造物の変形が解析できる) 19回 演習6:仮想仕事の原理、単位荷重法 20回 ベットーの法則、相反作用の定理、ミュラー・プレスロウの原理と影響線(ベットーの法則、相反作用の定理について説明でき、ミュラー・プレスロウの原理を用いて影響線の概形を求められる) 21回 演習7:相反作用の定理、ミュラー・プレスロウの原理 22回 中間試験②(問題の60%以上を正しく解ける) 23回 定期試験(問題の60%以上を正しく解ける)								
キーワード	トラス/座屈/短柱/カスティリャーノの定理/最小仕事の原理/相反作用の定理								
教科書・教材・参考書	教科書:米田昌弘 著「構造力学を学ぶ(基礎からエネルギー法まで)」森北出版 教材:必要に応じて、プリント資料を配布する。参考書:彦坂・崎山・大塚著「構造力学演習」共立出版、鈴木基行著「構造力学徹底演習」森北出版								
成績評価の方法・ 基準等	授業への積極的参加状況(10点満点)、レポート課題(20点満点)、試験(70点満点)。ただし、最終試験の正答率より低い評価を与えることはなく、総合評価が60点を超えても試験の正答率が60%未満の場合は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	「構造力学Ⅰ」を履修済みであること。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	2Q	曜日・校時	水 1、木 3、 木 4	必修選択	必修	単位数	26
授業科目	地盤力学 I				担当教員 (科目責任者)	蔣 宇静			
(英語名)	Geomechanics I				E-mail アドレス	jiang@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2 年	対象学生	社会		研究室	工学部 1 号館 3 階 308 号			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2612			
教室	[工学]1号館2F第5講義室				オフィスアワー	木曜日 5 校時			
担当教員 (オムニバス等)	蔣 宇静								
授業の概要 及び位置づけ	土木・建築構造物のいずれを例に取り上げても、地盤に係わりのないものは皆無といってよい。地盤を構成する土の物理的性質や工学的分類、土中の水理現象や土の圧密など工学的性質を理解し、現代建設産業での種々の課題に対応するための基礎力をつける。								
授業到達目標	土の物理的性質や工学的分類、土中の水理現象や土の圧密などの基本が説明できる。また、これら基本を理解し、実験データを解析し、自分の意見を発表できる。【コースの学習・教育到達目標】...(DP③)を達成するための科目である。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第 1 回 受講要領の説明概論(「土質力学」とは何か、何のために学ぶ)</p> <p>第 2 回 土の物理的性質 1(土粒子の大きさ、構造、基本量を説明できる)</p> <p>第 3 回 土の基本的性質 2(土のコンシステンシーを説明できる) 土の工学的分類 1(粒度・コンシステンシーによる分類を説明できる)</p> <p>第 4 回 土の工学的分類 2(工学的分類と土の性質との相関を説明できる)</p> <p>第 5 回 土の締固め 1(締固めの目的、締固め試験を説明できる)</p> <p>第 6 回 土の締固め 2(締固め曲線を描くことができる。締固め曲線に及ぼす影響因子を判断できる)</p> <p>第 7 回 土の締固め 3(現場での締固め試験と施工管理方法を理解できる)</p> <p>第 8 回 中間テスト</p> <p>第 9 回 土中の水理 1 地下水(土中水の形態、地下水の流れ、透水係数を説明できる)</p> <p>第 10 回 土中の水理 2 透水係数(透水係数が測定できる。成層土の透水係数、地下水の基礎方程式を説明できる)</p> <p>第 11 回 土中の水理 3 流線網(流線網を説明できる。流線網が描ける)</p> <p>第 12 回 土中の水理 4 浸透流量(浸透流量と揚圧力の計算ができる)</p> <p>第 13 回 地盤の圧密 1 圧密モデル(土の圧縮特性、正規圧密と過圧密の概念、圧密モデルを説明できる)</p> <p>第 14 回 地盤の圧密 2 一次元圧密理論(テルツァギの一次元圧密方程式を誘導できる)</p> <p>第 15 回 地盤の圧密 3 地盤沈下(圧密による地盤の沈下量、沈下に要する時間が計算できる)</p> <p>第 16 回 評価(試験も含む)と指導</p>								
キーワード	土の物理的性質／土の工学的分類／浸透／地盤内応力／圧密								
教科書・教材・参考書	教科書:編集者 安福規之、著者 石蔵良平他「土質力学」理工図書 参考書:常田賢一他「理解を深める土質力学 320 問」理工図書								
成績評価の方法・ 基準等	授業への積極的参加状況 30 点満点、最終試験 70 点満点。ただし、最終試験で 60%未満は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	全回出席を原則とする。やむを得ず欠席した場合は個別指導等を行う。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	4Q	曜日・校時	木3、木4、 金2	必修選択	必修	単位数	27
授業科目	地盤力学Ⅱ				担当教員 (科目責任者)	杉本 知史			
(英語名)	Geomechanics Ⅱ				E-mail アドレス	s-sugi@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館4階401号			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2612			
教室					オフィスアワー	水曜5校時。			
担当教員 (オムニバス等)	杉本 知史								
授業の概要 及び位置づけ	土木・建築構造物のいずれを例に取り上げても、地盤に係わりのないものは皆無といってよい。地盤を構成する土および地盤の力学強度と土圧・水圧を受ける構造物の設計法、斜面の安定解析などを理解し、現代建設産業での種々の課題に対応するための基礎学力をつける。								
授業到達目標	土および地盤の力学強度と土圧・水圧を受ける構造物の設計法、斜面の安定解析などの基本が説明できる。また、これら基本を理解し、実際の課題に応用でき、自分なりに課題を解決できる。【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第1回 受講ガイダンス概論土の破壊とそのメカニズムとは何か、何のために学ぶ、何ができるかを理解し、学習のモチベーションを高める</p> <p>第2回 土のせん断強さ1 応力の概念とせん断強さ(主応力の概念、モールの応力円を用いて応力成分とせん断強さについて説明できる)</p> <p>第3回 土のせん断強さ1に関する演習(土のせん断強さに関する演習問題を解くことができる)</p> <p>第4回 土のせん断強さ2 せん断試験①(土質試験の各種室内せん断試験について説明できる)</p> <p>第5回 土のせん断強さ3 せん断試験②(土質試験の各種室内せん断試験について説明できる)</p> <p>第6回 土のせん断強さ2/3に関する演習(土のせん断強さに関する室内試験の演習問題を解くことができる)</p> <p>第7回 土のせん断強さ4 せん断試験③(土質試験の各種室内せん断試験について説明できる)</p> <p>第8回 土のせん断強さ5 砂質土・粘性土のせん断特性(粘性土と砂質土のせん断特性の特徴を説明できる)</p> <p>第9回 土のせん断強さ4/5に関する演習(土のせん断強さに関する演習問題を解くことができる)</p> <p>第10回 土の繰り返しせん断と液状化(土の繰り返しせん断と液状化について説明できる)</p> <p>第11回 土のせん断に関する演習(土のせん断に関する演習問題を解くことができる)</p> <p>第12回 中間試験 出題範囲は1～11回目の講義の内容</p> <p>第13回 土圧1 土圧の概念と分類(土圧の概念と静止土圧・主動土圧・受働土圧について説明できる)</p> <p>第14回 土圧2 ランキン土圧理論(ランキン土圧による土圧式を導ける)</p> <p>第15回 土圧1/2に関する演習(ランキン土圧に関する演習問題を解くことができる)</p> <p>第16回 土圧3 クーロン土圧理論(クーロン土圧による土圧式を導ける)</p> <p>第17回 土圧4 複雑な条件における土圧の計算(複雑な条件における土圧が計算できる)</p> <p>第18回 土圧3/4に関する演習(クーロン土圧に関する演習問題を解くことができる)</p> <p>第19回 斜面の安定1 斜面安定の基礎(斜面の分類、安定解析の概念を説明でき、無限斜面すべりの安定計算ができる)</p> <p>第20回 斜面の安定2 円弧すべりの安定計(円弧すべりに対する斜面安定計算ができる)</p> <p>第21回 斜面の安定3 図解法・複合すべり斜面での安定計算(図解法・複合すべり斜面の安全率が計算できる)</p> <p>第22回 斜面の安定に関する演習(斜面の安定に関する演習問題を解くことができる)</p> <p>第23回 地盤力学Ⅱに関する演習(地盤力学Ⅱ全範囲に関する演習問題を解くことができる)</p> <p>第24回 評価(試験も含む)と指導</p>								
キーワード	土のせん断強さ／土圧／斜面安定								
教科書・教材・参考書	教科書：安福規之編著「土質力学」理工図書 参考書：常田賢一他「理解を深める土質力学 320 問」理工図書								
成績評価の方法 ・基準等	中間試験ならびに期末試験の評価点 80 点満点、演習課題の評価点 20 点満点として、合計 100 点満点で評価する。ただし、中間試験・期末試験の合計得点が、満点に対し 60%未満の場合は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	地盤力学Ⅰを受講していること。全回出席を原則とする。ただし、やむを得ず欠席した場合は個別指導等を行う。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	2Q	曜日・校時	水 2、金 1、 金 2	必修選択	必修	単位数	28
授業科目	水理学 I				担当教員 (科目責任者)	鈴木 誠二			
(英語名)	Hydraulics I				E-mail アドレス	ssuzuki@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2 年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3階 教員・ゼミ室310			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2622			
教室	[工学]1号館2F第5講義室				オフィスアワー	金曜日 VI 校時			
担当教員 (オムニバス等)	鈴木 誠二								
授業の概要 及び位置づけ	水理学 I は、社会環境デザイン工学(土木工学)分野のうち、河川工学、水資源工学、海岸工学、上下水道工学および発電水力などすべての水工学の数理的基礎を形成する学問である。流体とその運動を数理的に取り扱うことができるような基礎力を養う。								
授業到達目標	流体の数理的取扱いを十分に理解し、とくに静水圧とベルヌーイ式・運動量の定理を用いた各種計算ができるようになること、および現場の簡単な問題には自ら応用できるようになること。【コースの学習・教育達成目標】(D)に対応する。【JABEE 基準】(d)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第 1 回 水理学序論(水理学の全体像と土木工学分野における位置付けを理解する。)</p> <p>第 2 回 流体の物理的性質、次元と単位(流体の各種物理量の定義と単位が説明できる。)</p> <p>第 3 回 流体の物理的性質、次元と単位の演習</p> <p>第 4 回 静水圧 1(静水圧分布式が誘導でき、平面に作用する合圧力とその作用点を求めることができる。)</p> <p>第 5 回 静水圧 2(静水圧分布式が誘導でき、平面に作用する合圧力とその作用点を求めることができる。)</p> <p>第 6 回 静水圧 2・演習(曲面に作用する圧力とその作用点を求めることができる。)</p> <p>第 7 回 静水圧関係の問題演習(課題を解くことができる。)</p> <p>第 8 回 浮力と浮体の安定(静水圧と浮力の関係を理解し浮体の安定を計算できる。)</p> <p>第 9 回 静水圧関係の問題演習(課題を解くことができる。)</p> <p>第 10 回 運動量の定理(運動量保存則の誘導と物理的意味を説明できる。)</p> <p>第 11 回 運動量の定理の応用①(定理を用いて各種流れの力の計算ができる。)</p> <p>第 12 回 運動量の定理の応用②(定理を用いて各種流れの力の計算ができる。)</p> <p>第 13 回 運動量の定理に関する問題演習(課題を解くことができる。)</p> <p>第 14 回 中間試験(試験出題は前半の範囲。60%以上の問題を解くことができる。)</p> <p>第 15 回 演習</p> <p>第 16 回 Bernoulli の定理(定理の誘導と物理的意味が説明できる。)</p> <p>第 17 回 Bernoulli の定理の応用①(定理の応用計算ができる。)</p> <p>第 18 回 Bernoulli の定理の応用②(定理の応用計算ができる。)</p> <p>第 19 回 Bernoulli の定理の応用③(定理の応用計算ができる。)</p> <p>第 20 回 Bernoulli の定理に関する演習(課題を解くことができる。)</p> <p>第 21 回 静水圧・運動量の演習</p> <p>第 22 回 Bernoulli の定理に関する演習</p> <p>第 23 回 評価(試験も含む)と指導</p>								
キーワード	次元と単位／静水圧／連続式(質量の保存則)／ベルヌーイの定理(エネルギーの保存則)／運動量の保存則								
教科書・教材・参考書	小松利光・矢野真一郎 監修、「新編 水理学」、理工図書 鈴木幸一著、「水理学演習」、森北出版								
成績評価の方法・ 基準等	授業への積極的参加状況(10 点満点)、中間試験(45 点満点)および最終試験(45 点満点)の成績の合計が 60%以上を合格とする。なお、中間試験および最終試験の成績が 60%(26 点)以下は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	単位取得には、全回出席を原則とする。やむをえず欠席する場合には個別指導等を行うので担当教員に連絡すること。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	3Q	曜日・校時	火 1、火 2、 金 1	必修選択	必修	単位数	29
授業科目	水理学Ⅱ				担当教員 (科目責任者)	鈴木 誠二			
(英語名)	Hydraulics II				E-mail アドレス	ssuzuki@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2 年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3階 教員・ゼミ室 310			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2623			
教室					オフィスアワー	月曜日 VI 校時			
担当教員 (オムニバス等)	鈴木 誠二								
授業の概要 及び位置づけ	水理学Ⅱは、社会環境デザイン工学(土木工学)分野のうち、河川工学、水資源工学、海岸工学、上下水道工学および発電水力などすべての水工学の数理的基礎を形成する学問である。流体とその運動を数理的に取り扱うことができるような基礎力を養う。								
授業到達目標	流体の数理的取扱いを十分に理解し、とくに水理学Ⅰで学んだ静水圧、ベルヌーイ式、運動量保存の定理を用いて、土木工学の分野で重要な管路および開水路の各種計算ができること、および現場の簡単な問題には自ら応用できること。【コースの学習・教育達成目標】(D)に対応する。【JABEE 基準】(d)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第 1 回 流れと抵抗(形状抵抗と摩擦抵抗)(各種抵抗の表示法を理解する。)</p> <p>第 2 回 管路の流れ(各種抵抗の管路流れへの導入を理解する。)</p> <p>第 3 回 水理学Ⅰ範囲の復習演習</p> <p>第 4 回 単線管路の計算(単線管路の各種量を求めることができる。)</p> <p>第 5 回 サイフォン・水車・ポンプを含む流れ(各種計算ができる。)</p> <p>第 6 回 管路の演習第 7 回開水路の流れの分類と比エネルギー、常流、射流(流れの分類が理解できる。)</p> <p>第 8 回 開水路の流れの分類と比エネルギー、常流、射流(流れの分類が理解できる。)</p> <p>第 9 回 水面形の基礎方程式(基礎方程式の誘導と物理的意味を説明できる。)</p> <p>第 10 回 演習</p> <p>第 11 回 中間試験(試験出題は前半の範囲。60%以上の問題を解くことができる。)</p> <p>第 12 回 平均流速公式とその利用(平均流速公式の理解と利用ができる。)</p> <p>第 13 回 水面形の各種解析法(解析法を説明できる。)</p> <p>第 14 回 水面形の各種解析法(解析法を説明できる。)</p> <p>第 15 回 水面形の各種解析法に関する演習</p> <p>第 16 回 各種水路における水面形(緩勾配水路や急勾配水路、水平水路等の各種水路における水面形を理解できる。)</p> <p>第 17 回 各種水路における水面形(緩勾配水路や急勾配水路、水平水路等の各種水路における水面形を理解できる。)</p> <p>第 18 回 開水路流れに関する演習①(各種計算ができる。)</p> <p>第 19 回 開水路流れに関する演習②(各種計算ができる。)</p> <p>第 20 回 次元解析と相似則(次元解析を理解し、関数形を求めることができる。)</p> <p>第 21 回 次元解析その他の演習(課題を解くことができる。)</p> <p>第 22 回 水理学Ⅱ全体の演習(課題を解くことができる。)</p> <p>第 23 回 評価(試験も含む)と指導</p>								
キーワード	管路の流れ／摩擦損失水頭／開水路流れ／水面形／比エネルギー／相似則								
教科書・教材・参考書	小松利光・矢野真一郎 監修、「新編 水理学」、理工図書 鈴木幸一著「水理学演習」森北出版刊								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(10 点満点)、中間試験(45 点満点)および最終試験(45 点満点)の成績の合計が 60%以上を合格とする。なお、中間試験および最終試験の成績が 60%(26 点)未満は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	単位取得には、全回出席を原則とする。やむをえず欠席する場合は個別指導等を行うので担当教員に連絡すること。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】... (D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】... (d)に対応する。								

年度	2026	学期	後期	曜日・校時	水 2	必修選択	必修	単位数	55
授業科目	土木技術の歴史				担当教員 (科目責任者)	石橋 知也			
(英語名)	Civil Engineering History				E-mail アドレス	itomoya@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2 年	対象学生	社会		研究室	1 号館 3 階 教員・ゼミ室 304			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2611			
教室					オフィスアワー	別途指示する。			
担当教員 (オムニバス等)	石橋 知也、西川 貴文、杉本 知史、田中 亘								
授業の概要 及び位置づけ	社会環境を構成する社会基盤施設、その設計や計画にかかわる技術をここでは土木技術とよぶ。その土木技術を学ぶにあたり、その背景について一定の理解を得るための基礎的な講義である。多岐にわたる社会基盤施設の技術面の歴史を概観する。具体的には、①土木技術の長い歴史について、とくに近代以降について大局的に理解する目を養い、②我が国の近代化を支えた社会基盤施設の図面に触れ、③社会基盤の近代化や戦後の復興に貢献した技術者の思想に触れる。加えて④歴史的な視点で検討する際の方法論の基礎を学ぶ。								
授業到達目標	・土木技術(社会基盤施設)の範疇を把握し、その技術の成立背景が理解できる。・土木技術と社会の動きとの関係を歴史的に把握できる。・歴史的に物事を捉える視点や基礎的な方法論が理解できる。【コースの学習・教育到達目標】(D)に対応する								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	1 回目 イントロダクション・土木技術の歴史を学ぶ意義(本講義を学ぶ意義を説明できる) 2 回目 歴史的検討のための方法論(1)(資料(史料)の見方が理解できる) 3 回目 歴史的検討のための方法論(2)(資料(史料)の探し方が説明できる) 4 回目 歴史的検討のための方法論(3)(資料(史料)の活用方法が理解できる) 5 回目 現地視察(1) 6 回目 現地視察(2) 7 回目 土木構造系の土木技術の歴史(近世まで)(土木技術の各論の歴史が理解できる) 8 回目 土木構造系の土木技術の歴史(近代以降)(土木技術の各論の歴史が理解できる) 9 回目 水環境系の土木技術の歴史(近世まで)(土木技術の各論の歴史が理解できる) 10 回目 水環境系の土木技術の歴史(近代以降)(土木技術の各論の歴史が理解できる) 11 回目 地盤環境系の土木技術の歴史(近世まで)(土木技術の各論の歴史が理解できる) 12 回目 地盤環境系の土木技術の歴史(近代以降)(土木技術の各論の歴史が理解できる) 13 回目 長崎市の都市形成の歴史(上下水道なども含む)(土木技術の各論の歴史が理解できる) 14 回目 最終レポート作成(1)/現地視察(3) 15 回目 最終レポート作成(2)/現地視察(4) 16 回目 まとめ(本講義全体を振り返り、その全体像について説明できる)								
キーワード	土木技術/歴史/近代化/思想/資料(史料)								
教科書・教材・参考書	教科書: 指定しない 教材: 資料を適宜配布する 参考書: ・高橋裕著「現代日本土木史 第二版」彰国社 ・土木学会土木史研究委員会著「図説 近代日本土木史」鹿島出版会 ・田村喜子著「土木のこころ 復刻版 夢追いびとたちの系譜」現代書林 ・高橋裕著「土木技術者の気概」鹿島出版会								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(講義中に作成するワークシートによる評価)50%、レポート 50%。ただし、ワークシートならびにレポートの全提出を合格のための必須条件とする。								
受講要件(履修条件)	全回出席を原則とする。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(B)、(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(b)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	1Q	曜日・校時	水3、木3	必修選択	必修	単位数	30
授業科目	測量学				担当教員 (科目責任者)	奥松 俊博			
(英語名)	Surveying				E-mail アドレス	okumatsu@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3階 教員・ゼミ室302			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL				
教室	[工学]1号館2F第5講義室				オフィスアワー	木曜日 5校時(事前にアポイントを取ること)			
担当教員 (オムニバス等)	奥松 俊博								
授業の概要 及び位置づけ	測量は、国土に関する計画や建設工事の計画・設計・施工及び検査の基礎となる作業である。本講義は土木工学の基本となるものでありコースの専門基礎科目として位置付けられている。								
授業到達目標	測量に関する理論や測定結果の計算方法について身につけることができる。また GNSS を利用した測量や写真測量など最新技術を修得できるようになる。本講義の内容を修得することで測量学実習(後期科目)の実践に生かすことができる。【工学部の DP】③【社会環境デザイン工学コースの学修到達目標】⑥-c【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。【JABEE 基準】...(d)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 測量とは(測量の分類、基準、関係法令について説明できる) 第2回 観測値の処理(誤差伝播の法則、最小二乗法、最適値とその精度について説明できる) 第3回 水準測量(直接水準測量の方法、水準測量の誤差について説明できる) 第4回 水準測量演習(水準測量の成果をもとに実際に未知点の高さを計算できる) 第5回 角測量(トランシット、角測量の方法について説明できる) 第6回 トラバース測量(トラバース測量の種類・理論・順序について説明でき、トラバース測量の計算ができる) 第7回 トラバース測量演習(多角測量の成果をもとに誤差配分およびトラバース測量の評価ができる) 第8回 三角測量と三辺測量(三角測量と三辺測量について説明できる) 第9回 写真測量(写真測量の原理について説明できる) 第10回 写真測量(写真判読について説明できる) 第11回 リモートセンシングおよび GNSS 測量(リモートセンシングと GNSS 測量の概要について説明できる) 第12回 写真測量実践実習(DX への適用について説明できる) 第13回 GNSS 測量(単独測位、相対測位について説明できる) 第14回 GNSS 測位演習(GNSS 測量の成果をもとに測位データを活用できる) 第15回 路線測量・読図(緩和曲線の意味、クロソイド曲線の設置について説明できる) 第16回 評価(試験も含む)と指導								
キーワード	誤差／水準測量／トラバース測量／写真測量／リモートセンシング／GNSS 測量／ドローン／i-construction								
教科書・教材・参考書	教科書：測量入門(大杉和由、実教出版) 参考書：近代測量の理論と実践(岩下圭之、コロナ社)、最新測量学(森北出版)、空間情報工学(日本測量協会)								
成績評価の方法・基準等	講義への積極的参加状況(15点満点)、レポート課題(15点満点)、最終試験(70点満点)で評価する。ただし試験の正答率が60%未満の場合は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	「測量学実習」に先行して履修すること。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	後期	曜日・校時	水3、水4、水5	必修選択	必修	単位数	31
授業科目	測量学実習				担当教員 (科目責任者)	田中 亘			
(英語名)	Practice of Surveying				E-mail アドレス	w.tanaka@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館4階 教員・ゼミ室202			
講義形態	実習	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2624			
教室					オフィスアワー	月曜日5校時および随時メール受付			
担当教員 (オムニバス等)	田中 亘								
授業の概要 及び位置づけ	実習を通して、先行する「測量学」において学んだ理論や考え方の確実な理解を促す。測量機器の操作およびデータ処理方法を修得し、さらに、測量結果から目的とする成果物を高精度かつ効率的に作成する能力を身につける。								
授業到達目標	測量機器の正しい使用方法と測量結果の処理方法を身につけ、精度良くかつ効率的な測量作業を実現できる。【学科・コースの学習・教育到達目標】(D)を達成するための科目である。【JABEE 基準】(d)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第1回 測量概論、観測値の処理(誤差伝播の法則、最小二乗法、最適値とその精度についての課題を正確に解くことができる)</p> <p>第2回 距離測量実習①:クロステープを用いて距離(水平距離)を測定する。(テープの検定および現場での距離測量が説明できる、精度 1/10,000 以上で測定できる)</p> <p>第3回 水準測量実習①:測量レベルの使用方法を学ぶ。(直接水準測量の手法が説明できる)</p> <p>第4回 水準測量実習②:測量レベルを用いて地盤高を測定する。(直接水準測量ができ、閉合差は3級水準測量を目標とする)</p> <p>第5回 水準測量実習③:測量レベルを用いて地盤高を測定する。(学内での水準測量を正確に実施することができる)</p> <p>第6回 平板測量①:平板測量の原理と使用方法を学ぶ。(平板測量の原理が説明できる。平板を正しく評定できる。)</p> <p>第7回 平板測量②:平板を用いた細部測量の方法を習得する。(放射法、前方交会法などを利用し学内の地形測量を正確に実施できる)</p> <p>第8回 平板測量③:平板測量の結果を成果物として仕上げる。(平板測量の成果を地形図として見やすく作図できる。)</p> <p>第9回 トラバース測量実習①:セオドライトを正しく据え付ける、測点の位置を定める。(セオドライト据え付け5分以内、閉合比 1/10,000 以上を目標とする)</p> <p>第10回 トラバース測量実習②:セオドライトを用いて水平角を測定する。(倍角法による測角を正しく行うことができる。精度は2級基準点測量を目標とする)</p> <p>第11回 トラバース測量実習③:学内の限られたエリアに対し、トラバース測量を実施する。(閉合比 1/10,000 以上を目標とする)</p> <p>第12回 トラバース測量実習④:学内の限られたエリアに対し、トラバース測量を実施する。(閉合比 1/10,000 以上を目標とする)</p> <p>第13回 応用測量①:学内の指定された基準点の座標、水平距離、水平投影面積を測定する(水準網の閉合比 $10\sqrt{L}$ 以下、トラバース網の閉合比 1/10,000 以上を目標とする)</p> <p>第14回 応用測量②:学内の指定された基準点の座標、水平距離、水平投影面積を測定する(水準網の閉合比 $10\sqrt{Lmm}$ 以下、トラバース網の閉合比 1/10,000 以上を目標とする)</p> <p>第15回 応用測量③:学内の指定された基準点の座標、水平距離、水平投影面積を GPS を用いて測定する。(GPS 機器を用いて学内エリアの位置(緯度・経度)を正しく求め、データ処理を行うことができる)</p>								
キーワード	距離測量/水準測量/角測量/トラバース測量/平板測量/地形測量/GPS								
教科書・教材・参考書	教科書:細川他「よくわかる測量実習(増補)」(コロナ社) 参考書:福本他「エース測量学」(朝倉書店)								
成績評価の方法 ・基準等	・評価方法:提出物(測量成果物、レポート)70点満点、積極的参加状況30点満点・講義に全回出席することを原則とする。ただし、やむを得ない欠席であると認められた場合は個別指導を行うので、担当教員に事前に連絡すること。・提出物は全ての提出を前提とする。(一つでも提出していないレポートがあれば「不可」とする。)								
受講要件(履修条件)	「測量学」を同時もしくは先行して履修すること。講義に全回出席することを原則とする。ただし、やむを得ない欠席であると認められた場合は個別指導を行うので、担当教員に事前に連絡すること。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)、(F)、(H)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)、(e)、(h)、(i)に対応する。								

年度	2026	学期	4Q	曜日・校時	火 2、木 2	必修選択	必修	単位数	32
授業科目	都市・交通計画				担当教員 (科目責任者)	石橋 知也			
(英語名)	Urban and Transportation Planning				E-mail アドレス	itomoya@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2年	対象学生	社会		研究室	1号館3階 教員・ゼミ室 304			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2611			
教室					オフィスアワー	別途指示する。			
担当教員 (オムニバス等)	石橋 知也								
授業の概要 及び位置づけ	都市計画及び交通計画に関する基礎的知識を習得する。								
授業到達目標	都市計画の理念や歴史、都市計画制度、都市施設計画、市街地開発手法、交通計画について説明できるようになる。【コースの学習・教育到達目標】(D)に対応する								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	1 回目 都市と都市計画(都市及び都市計画の定義を説明できる) 2 回目 都市計画の歴史と思想(1)(諸外国と日本における古代から近世までの都市計画の歴史と思想を説明できる) 3 回目 都市計画の歴史と思想(2)(諸外国における近代以降の都市計画の歴史と思想を説明できる) 4 回目 都市計画の歴史と思想(3)(日本における近代以降の都市計画の歴史と思想を説明できる) 5 回目 都市計画の理念と仕組み(近代都市計画の理念、現代日本の都市計画の仕組み、都市計画マスタープランを説明できる) 6 回目 土地利用計画(土地利用計画の基本的考え方と地域地区制度を説明できる) 7 回目 地区計画・建築協定(地区計画制度と建築協定制度を説明できる) 8 回目 都市防災計画(都市災害、防災計画の体系、地域防災計画、災害予防施策を説明できる) 9 回目 市街地開発計画(新市街地開発と都市再開発を説明できる) 10 回目 都市再生(中心市街地の活性化および郊外住宅地の再生の手法を説明できる) 11 回目 現代的都市計画課題(1)(空き家・空き地問題について説明できる) 12 回目 都市交通と道路計画(都市交通の調査方法、4段階推定法、道路計画を説明できる) 13 回目 歩行者系街路と公共交通(歩行者系街路の計画理論、公共交通の計画等を説明できる) 14 回目 現代的都市計画課題(2)(買い物弱者について説明できる) 15 回目 都市形成史・政策史(都市の歴史について多角的に説明できる) 16 回目 評価(試験も含む)と指導								
キーワード	都市計画／土地利用計画／交通計画								
教科書・教材・参考書	教科書:加藤・竹内編著「新・都市計画概論 改訂2版」共立出版 教材:資料を適宜配布する 参考書:新谷編著「都市交通計画 第3版」技報堂出版								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況 15 点満点、レポート課題 15 点満点、期末試験 70 点満点。ただし、レポート課題、期末試験の合計が 60%未満は不合格とする。また、成績評価はレポート課題の全ての提出を前提とする。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	2Q	曜日・校時	水3、金3	必修選択	必修	単位数	33
授業科目	計画学数理				担当教員 (科目責任者)	石橋 知也			
(英語名)	Engineering Mathematics for Environmental Planning				E-mail アドレス	itomoya@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2年	対象学生	社会		研究室	1号館3階 教員・ゼミ室 304			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2611			
教室	[工学]1号館2F第5講義室				オフィスアワー	別途指示する。			
担当教員 (オムニバス等)	石橋 知也								
授業の概要 及び位置づけ	計画数理学における内容を統計編と最適化編に分け、計画手順における問題の明確化、調査、分析、代替案の設計、代替案の評価、意思決定を行うための数学的基礎および分析の視点を身につける。								
授業到達目標	計画の意義・限界・手順を理解し、社会調査における統計分析と、代替案の設計・評価における最適化問題の解法を説明できる。【コースの学習・教育到達目標】(C)に対応する								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	1回目 ガイダンス、社会調査の方法(社会調査の方法について説明できる) 2回目 データの種類(量的データ・質的データの特徴を説明できる) 3回目 データの整理(データの特徴に応じた整理の方法を説明できる) 4回目 データの関連分析(1)(相関分析と回帰分析について説明できる) 5回目 データの関連分析(2)(検定と推定の考え方について説明できる) 6回目 データの関連分析(3)(カイニ乗検定・平均値の差の検定について説明できる) 7回目 データの関連分析のまとめ 8回目 中間評価(試験も含む)と指導 9回目 線形計画法(1)(シンプレックス法を説明できる) 10回目 線形計画法(2)(双対定理を説明できる) 11回目 非線形計画法(1)(非線形計画における最適解の探索方法について説明できる) 12回目 非線形計画法(2)(ラグランジュの未定乗数法を説明できる) 13回目 動的計画法(1)(最適性の原理を理解し、動的計画法による解法を説明できる) 14回目 動的計画法(2)(動的計画法の応用的適用を理解できる) 15回目 最適化問題のまとめ 16回目 期末評価(試験も含む)と指導								
キーワード	最適化／統計／検定／社会調査								
教科書・教材・参考書	教科書:指定しない 教材:資料を適宜配布する 参考書: ・和達三樹・十河清「キーポイント確率・統計」岩波書店(前半) ・天谷賢治「工学のための最適化手法入門」数理工学社(後半) ・松村暢彦編著「図説わかる土木計画」学芸出版社								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況 15点満点、課題(5点)、中間試験(40点)、期末試験(40点)の合計85点満点。ただし、課題、中間試験、期末試験の合計が60%以上を合格とする。また、課題を全て提出した者のみ、成績を評価する。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(C)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	1Q	曜日・校時	月1、金1	必修選択	必修	単位数	41
授業科目	応用地盤工学				担当教員 (科目責任者)	大嶺 聖			
(英語名)	Geotechnical Engineering				E-mail アドレス	omine@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3階教員・ゼミ室306			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2612			
教室	[工学]1号館2F第4講義室				オフィスアワー	水曜日 5校時			
担当教員 (オムニバス等)	大嶺 聖								
授業の概要 及び位置づけ	地盤調査、基礎構造物の設計技術、軟弱地盤の改良技術、道路建設について理解し、説明できる。								
授業到達目標	基礎構造物は、構造物を地盤と接続させるために、設けられる構造物の一部で、その主な部分は地盤表面上あるいは地盤中に構築される。この地盤調査、基礎構造物の設計技術、軟弱地盤の改良技術、道路建設などを教授し、土木技術者として社会で活躍するのに必要な基礎工学の基礎的な知識を身につけておくことを目的としている。【コースの学習・教育到達目標】...(D)専門的基礎知識の習得とその応用 を達成するための科目である。【JABEE 基準】...(d)当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力に対応する								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1～6回 直接基礎と杭基礎の計算法について理解する 1. 地盤工学概論 2. 地盤調査と試験法 3. 直接基礎①(プランルの支持力理論) 4. 直接基礎②(テルツァギの支持力理論) 5. 杭基礎①(杭基礎の鉛直支持力理論) 6. 杭基礎②(杭基礎の水平支持力理論) 第7～10回 地盤改良と海面埋立について理解する 7. 地盤改良①(軟弱地盤の改良工法、強度発現メカニズム) 8. 地盤改良②(周辺地盤への力学的・化学的影響) 9. 地盤改良③(液状化対策) 10. 海上埋立(工法、圧密沈下の予測) 第11～15回 道路建設、模型実験について理解する 11. 道路建設①(切・盛土の施工、落石対策、法面・斜面の維持管理) 12. 道路建設②(盛土構造物の静的・動的安定性評価法) 13. 道路建設③(路盤・路床・舗装の施工、路面の維持管理) 14. 補強土 15. 最終レポート・討議 16. 期末評価(試験も含む)と指導								
キーワード	支持力、基礎、地盤改良、道路建設、補強土								
教科書・教材・参考書	教科書:「土質力学」理工図書、追加資料を配布する 参考書:土木工学全集編集委員会編「土木工学全集 第5巻 土質力学」理工図書								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況 10点、レポート課題 20点、試験 70点。ただし、試験で60%未満は不合格とする。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

社会環境デザイン工学コース

年度	2026	学期	2Q	曜日・校時	火2、木1	必修選択	必修	単位数	56
授業科目	水圏工学				担当教員 (科目責任者)	鈴木 誠二			
(英語名)	Hydrosphere Engineering				E-mail アドレス	ssuzuki@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館 教員・ゼミ室310			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2623			
教室	[工学]1号館2F第4講義室				オフィスアワー	月曜日 5校時			
担当教員 (オムニバス等)	鈴木 誠二								
授業の概要 及び位置づけ	前半は、河川を対象に治水・利水・環境について講義を行う。具体的には、基本高水や計画高水流量の決定法や流出解析に基づく洪水追跡手法、水環境と生物生息環境の総合的管理手法を身に付ける。後半は、沿岸域を対象に、物理的な現象を理解し、物質輸送機構に関する基礎力を身に付ける。								
授業到達目標	河川域における環境管理の技術を理解し、問題点の把握を行うことにより、新しい形の西部手法を創出する基礎的な能力を身に付ける。さらに、沿岸域で発生する物理現象を説明できるようになる。【コースの学習・教育到達目標】(D)に対応する。【JABEE 基準】(d)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 水圏工学について 第2回 河川の計画(高水・低水) 第3回 法線計画 第4回 河道の断面計画 第5回 河川環境(1):生態環境の保全 第6回 河川環境(2):魚類環境 第7回 河川環境(3):植生、河川整備の将来的課題 第8回 物質輸送の基礎方程式 第9回 潮流① 第10回 潮流② 第11回 潮汐 第12回 密度流① 第13回 密度流② 第14回 吹送流① 第15回 吹送流② 第16回 評価と指導								
キーワード	河道流の解析、河川環境、沿岸海洋、物質輸送								
教科書・教材・参考書	教科書:指定しない。教材:適宜配布する。参考書:河川工学、沿岸海洋工学に関する教科書								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(20点)、講義レポート(20点)、最終レポート(60点)で評価する。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	3Q	曜日・校時	火 3、木 2	必修選択	必修	単位数	57
授業科目	防災工学				担当教員 (科目責任者)	杉本 知史			
(英語名)	Disaster Prevention Engineering				E-mail アドレス	s-sugi@nagasaki-u.ac.jp (杉本) nishikawa@nagasaki-u.ac.jp (西川) sayaka_yoshikawa@nagasaki-u.ac.jp (吉川)			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部 1号館 4F 教員・ゼミ室 401 (杉本) 工学部 1号館 3F 教員・ゼミ室 311 (西川)、教員・ゼミ室 305 (吉川)			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2618 (杉本) 095-819-2625 (西川) 095-819-2622 (吉川)			
教室					オフィスアワー	水曜 5 校時 (来室の際は、事前にメールで確認すること)			
担当教員 (オムニバス等)	杉本 知史								
授業の概要 及び位置づけ	自然災害の仕組みおよびその対策について、社会環境デザイン工学分野に関連するハード面・ソフト面の内容を学習し、主に工学的な観点から防災に対する必要最低限の知識を身に付ける。								
授業到達目標	自然災害の仕組みおよびその対策について、社会環境デザイン工学分野に関連するハード面・ソフト面の内容を理解し、将来実践的な防災に関わる活動において自律的に行動するための考え方を身に付けることを到達目標とする。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第 1 回 社会環境デザイン工学分野における防災の必要性地盤工学分野における防災工学①【杉本】(地盤災害の種類・発生メカニズムについて理解し、その内容について自身の言葉で説明ができる。)</p> <p>第 2 回 地盤工学分野における防災工学②【杉本】(過去の地盤災害の具体的事例に基づいた発生原因とその被害について理解し、その内容について自身の言葉で説明ができる。)</p> <p>第 3 回 地盤工学分野における防災工学③【杉本】(地盤災害に対する復旧手法を理解し、その内容について自身の言葉で説明ができる。)</p> <p>第 4 回 構造工学分野における防災工学①【西川】(橋梁構造物の代表的な被災事例について理解し、その内容について自身の言葉で説明ができる。)</p> <p>第 5 回 構造工学分野における防災工学②【西川】(橋梁構造物を対象として、地震の作用と構造物の応答のメカニズムを理解し、耐震設計の概要と免震・制振技術を知ることで、地震に対する構造物の防災対策の基本的な内容について自身の言葉で説明ができる。)</p> <p>第 6 回 構造工学分野における防災工学③【西川】(橋梁構造物を対象として、風の作用と構造物の応答のメカニズムを理解し、耐風設計の概要と制振対策を知ることで、風害に対する構造物の防災対策の基本的な内容について自身の言葉で説明ができる。)</p> <p>第 7 回 水圏工学分野における防災工学①【吉川】(水害の種類・発生メカニズム及び発生事例とその被害について、理解し、その内容について自身の言葉で説明ができる。)</p> <p>第 8 回 水圏工学分野における防災工学②【吉川】(干ばつの種類・発生メカニズム及び発生事例とその被害について、理解し、その内容について自身の言葉で説明ができる。)</p> <p>第 9 回 水圏工学分野における防災工学③【吉川】(水害及び干ばつに対する復旧手法及び適応策について理解し、その内容について自身の言葉で説明ができる。)</p> <p>第 10 回 総合的災害リスク管理と行政の災害対策・対応【外部講師】(総合的災害リスク管理と行政の災害対策・対応について理解し、その内容について自身の言葉で説明ができる。)</p> <p>第 11 回 災害情報の発信と入手／避難行動【外部講師】(災害情報の発信と入手の方法、避難行動の必要性について理解し、その内容について自身の言葉で説明ができる。)</p> <p>第 12 回 公的機関による予警報と被害想定・ハザードマップ・避難情報【外部講師】(公的機関による予警報、災害に伴う被害想定、ハザードマップの活用方法、避難情報について理解し、その内容について自身の言葉で説明ができる。)</p> <p>第 13 回 避難所運営について【外部講師】(避難所運営について理解し、その内容について自身の言葉で説明ができる)</p> <p>第 14 回 防災に関するハード・ソフト面の現状と課題の分析①【杉本・西川・吉川】(講義内容を踏まえた防災に関するハード・ソフト面の現状と課題の分析を行い、レポートによりその結果と考察を取りまとめることができる。)</p> <p>第 15 回 防災に関するハード・ソフト面の現状と課題の分析②【杉本・西川・吉川】(講義内容を踏まえた防災に関するハード・ソフト面の現状と課題の分析を行い、レポートによりその結果と考察を取りまとめることができる。)</p> <p>第 16 回 評価と指導</p>								
キーワード	防災・減災／地盤災害／耐震／免震・制振／耐風／洪水害／気候変動／異常気象リスク／ハザード								
教科書・教材・参考書	教科書：なし(適宜、講義時に資料を配布する) 参考書：・地盤工学・実務シリーズ 23 豪雨時における斜面崩壊のメカニズムおよび危険度予測、公益社団法人地盤工学会・防災シリーズ 4 橋梁の耐風・耐震、森北出版・風のはなし(2)、技報堂出版・防災リテラシー、森北出版・改訂防災工学、鈴木猛康ら(2022)、理工図書・自然災害科学・防災の百科事典、日本自然災害学会 編(2022)、丸善出版								
成績評価の方法・ 基準等	各講義のレポート課題 70%、第 14・15 回のレポート課題 30%の内容により、成績評価を行う。評価が 60%未満の場合は、不合格とする。								
受講要件(履修条件)	特になし。ただし、構造力学 I/II、水理学 I/II、地盤力学 I/II を受講していることを前提とする。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	1Q	曜日・校時	金 3、金 4	必修選択	必修	単位数	34
授業科目	コンピュータ情報処理				担当教員 (科目責任者)	吉川 沙耶花			
(英語名)	Computer Programming				E-mail アドレス	sayaka_yoshikawa▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)			
対象年次	2年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館 教員・ゼミ室 305			
講義形態	演習	科目分類	専門科目		TEL				
教室	[工学]1号館2F第5講義室				オフィスアワー	Eメールで質問を受け付けます。			
担当教員 (オムニバス等)	吉川 沙耶花								
授業の概要 及び位置づけ	本科目は、工学的諸問題を解決する上で必要な科学技術計算の基礎的な能力を身に付けさせることを主たる目的としており、インタープリタ型の高水準汎用プログラミング言語である Python によるプログラミングの実際について講義する。								
授業到達目標	基礎的なプログラミングができるようになる。工学部の DP⑥-d に対応する。コースの学習・教育到達目標 E に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第 1 回 Python 実行環境の整備(Jupyter Notebook による Python の実行・プログラムの出力ができる) 第 2 回 データ型、リストと辞書(基礎的なデータ型及びリスト・辞書の扱いを理解し、適切に使用できる) 第 3 回 条件分岐(if 文を使うことができる) 第 4 回 繰り返し(for・while ループを使うことができる) 第 5 回 関数(一連の処理をひとまとめにする仕組みを使うことができる) 第 6 回 ライブラリーの基礎(1)(Numpy・Pandas の基礎を理解し、適切に使用できる。) 第 7 回 ライブラリーの基礎(2)(datetime・Matplotlib の基礎を理解し、適切に使用できる。簡単な作図ができる。) 第 8 回 モジュールの基礎(os・sys・shutil などを使用できる。) 第 9 回 インプット・アウトプットファイル(テキスト及びバイナリファイルの出力・保存ができる) 第 10 回 作図(複雑な作図及び地図の作成ができる。図の保存ができる。) 第 11 回 演習(基礎的な Python プログラムを書くことができる) 第 12 回 データ整理と分析(1)(データをダウンロードし、解析可能な状態へ整備することができる。) 第 13 回 データ整理と分析(2)(仮説に従ってデータを適切に要約・整理することができる。) 第 14 回 データ整理と分析(3)(回帰直線を作成し、作図することができる。) 第 15 回 最終課題(やや高度な Python プログラムを書くことができる)								
キーワード	情報処理／Python／プログラミング／数値計算								
教科書・教材・参考書	教科書:講義資料を毎回配布する。(LACS に事前に掲載予定) 参考書:プログラミングに関する一般図書								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(15 点満点)、レポート(85 点満点)から総合評価して成績判定する。ただし、レポートの得点率が 60%未満の場合は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	受講にあたっては、キーボード操作、ポインタ操作など、PC の周辺機器について基礎的な操作ができることが望ましい。Google アカウントを使用します。講義に全回出席することを原則とする。ただし、やむを得ず欠席せねばならない場合、担当教員に連絡すること。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(C)、(E)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(c)、(d)、(e)、(g)に対応する。								

社会環境デザイン工学コース

年度	2026	学期	前期	曜日・校時	木3、木4	必修選択	必修	単位数	35
授業科目	社会環境デザイン工学実験・演習 A				担当教員 (科目責任者)	鈴木 誠二			
(英語名)	Laboratory Works in Civil and Environmental Engineering A				E-mail アドレス	(鈴木)ssuzuki@nagasaki-u.ac.jp (杉本)s-sugi@nagasaki-u.ac.jp (田中)w.tanaka@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	(鈴木)工学部1号館3階 教員・ゼミ室302 (杉本)工学部1号館4階 教員・ゼミ室401 (田中)工学部1号館2階 教員・ゼミ室202			
講義形態	実験	科目分類	専門科目		TEL	(鈴木)095-819-2623 (杉本)095-819-2618 (田中)095-819-2624			
教室	[工学]1号館2F第4講義室				オフィスアワー	木曜VI校時			
担当教員 (オムニバス等)	鈴木 誠二、杉本 知史、田中 亘、吉川 沙耶花								
授業の概要 及び位置づけ	水工学および地盤力学関係の講義の内容をより深く理解する。								
授業到達目標	全課題に出席して水工学と土質力学に馴染み、実験レポートのまとめ方と書き方に習熟する。【コースの学習・教育到達目標】(D)を達成するための科目である。【JABEE 基準】(d)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>1 ガイダンス 2,4,6,8 <水工実験> I. 管路の摩擦損失水頭...管路の摩擦損失水頭について理解する。 II. 開水路流れの流速分布...開水路流れにおける流速分布の特性を理解する。 III. 直角三角堰およびベンチュリー管の検定...流量の測定法を理解する。 IV. 常流・射流と跳水...Bernoulli の定理、比エネルギー、エネルギー損失について理解する。 V. オリフィスからの排水およびU字管振動...非正常な水の運動の取り扱いを理解する。 3,5,7 レポート指導 9,11,13,15 <土質実験> I. 土粒子の密度試験、粒度試験...土粒子の密度と、粒子径の分布について理解する。 II. 液性限界・塑性限界試験...土のコンシステンシーを理解する。 III. 締固め試験...含水比と乾燥密度の関係について理解する。 IV. 透水試験...粒度～透水性の関係について理解する。 V. 圧密試験...荷重～沈下～時間の各関係について理解する。 VI. 一面せん断試験...せん断強さとダイレイタンスについて理解する。 10,12,14,16 レポート指導</p>								
キーワード	水工学／地盤力学／実験								
教科書・教材・参考書	水工実験: 実験方法等を記した仕様書を作成し、配布する。 土質実験: 地盤工学会「土質試験 — 基本と手引き —」								
成績評価の方法・ 基準等	実験レポート 60 点、実験への積極的参加状況 40 点。								
受講要件(履修条件)	全回出席を前提とする。ただし、やむをえず欠席する場合は個別指導を行う。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	前期	曜日・校時	金 3、金 4	必修選択	必修	単位数	36
授業科目	社会環境デザイン工学実験・演習 B				担当教員 (科目責任者)	西川 貴文			
(英語名)	Laboratory Works in Civil and Environmental Engineering B				E-mail アドレス	(材料・強度試験) okumatsu@nagasaki-u.ac.jp(奥松); nishikawa@nagasaki-u.ac.jp(西川); (リモートセンシング演習) sayaka_yoshikawa@nagasaki-u.ac.jp(吉川)			
対象年次	3 年	対象学生	社会		研究室	工学部 1 号館 302(奥松);305(吉川); 311(西川)			
講義形態	実験	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2615(奥松), 2625(西川), 2622(吉川)			
教室	[工学]1号館2F第4講義室				オフィスアワー	水曜日 17:00-18:00.			
担当教員 (オムニバス等)	西川 貴文、奥松 俊博、吉川 沙耶花								
授業の概要 及び位置づけ	[授業概要]本講義は、構造実験とリモートセンシング演習の 2 項目で構成されており、それぞれの目的は以下のようである。(構造実験)社会環境デザイン工学分野で用いられる主要材料(コンクリート・鋼)の力学的性質を理解する。(リモートセンシング演習)リモートセンシングの基礎およびデータ整理の基本的方法を修得する。[スケジュール補足]内容はすべての班で同一であるが、実施順序は班によって異なる(初回の授業においてガイダンスを行う)。 [授業の位置付け] (構造実験)「建設材料学」の講義内容をより深く理解するのに役立つ								
授業到達目標	(構造実験)実験データの整理方法とレポートの纏め方・書き方を修得する。鋼とコンクリートの破壊挙動の特徴を説明できる。(リモートセンシング演習)リモートセンシングに関わるデータの基本的な整理・分析ができる。これにより応用的な問題に適用し、視覚的な資料を作成することができる。【コースの学習・教育到達目標】(D)を達成するための科目である。【JABEE 基準】(d)に対応する。(DP-6c)								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	1st ガイダンス 2nd - 3rd 材料試験Ⅰ(骨材のふるい分け試験の方法が説明でき、適切なデータ整理ができる) 材料試験Ⅱ(骨材の表面水量試験の方法が説明でき、適切なデータ整理ができる) 材料試験Ⅲ(粗骨材の比重及び吸水量・骨材の単位容積重量試験が説明でき、適切なデータ整理ができる) 4th コンクリートの配合設計(与えられた条件に対してコンクリートの配合設計ができる) 5th コンクリート打設(フレッシュコンクリートの性質に影響する要因を説明できる) 6th 実務における実験概要(実務における材料試験や強度試験の概要とポイントを説明できる) 7th コンクリート強度試験および鋼材材料試験の概論(各試験の目的と方法を説明できる) 8th - 10th コンクリート強度試験(コンクリートの圧縮および引張破壊挙動の特徴を説明できる) コンクリート強度試験(コンクリートの曲げに対する挙動の特徴を説明できる) 鋼材材料試験(鋼材の延性破壊挙動の特徴を説明できる) 11th リモートセンシング演習① 12th リモートセンシング演習② 13th リモートセンシング演習③ 14th リモートセンシング演習④ 15th リモートセンシング演習⑤								
キーワード	コンクリート/鋼構造/リモートセンシング								
教科書・教材・参考書	(構造実験)「土木材料実験指導書(基礎編)」(土木学会)。必要に応じて、適宜資料を配付する。(リモートセンシング演習)必要に応じて、適宜資料を配付する。								
成績評価の方法 ・基準等	(構造実験および GIS 演習それぞれについて)授業への積極的参加状況(30 点満点)、レポート課題(70 点満点)。								
受講要件(履修条件)	(構造実験)「建設材料学」を履修済みであることが望ましい。(リモートセンシング演習)なし。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	前期	曜日・校時	水 4	必修選択	必修	単位数	37
授業科目	キャリアセミナー				担当教員 (科目責任者)	杉本 知史			
(英語名)	Career Seminar				E-mail アドレス	s-sugi@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3 年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館 3 階 教員・ゼミ室			
講義形態	演習	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2626(コース事務室)			
教室	[工学]1号館2F第4講義室				オフィスアワー	別途指示する。			
担当教員 (オムニバス等)	杉本 知史								
授業の概要 及び位置づけ	社会環境デザイン工学の仕事が国民の生活を豊かにし、福祉を増進する、日常生活に深いかわりを持つ総合工学であること、理解を深めると共に、就職意識及び社会人としての意識を高揚させ、就職活動、とくに面接の際に自己表現できる能力を培う。								
授業到達目標	将来の土木技術者の職場について正しい認識を持つとともに、目的意識を持って専門科目の勉学に取り組むことができる。また、個々の技術者としてのビジョンを述べるができる。(DP-6e)【コースの学習・教育到達目標】(G)(H)を達成するための科目である。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 講義のガイダンス、就職・進学状況の説明 第2回～5回 関連業界の把握、プレゼンテーション能力の養成・実践(課題の調査・打ち合わせ、調査・発表資料の作成、発表) 第6回～12回 外部講師・コース教員による講演(官公庁、コンサルタント、ゼネコン、メーカー等) 第13回～15回 大学院生・4年生による就職活動体験談と進路に関する討論								
キーワード	就職意識／土木技術者の職場／国土交通白書								
教科書・教材・参考書	教科書:なし 参考書:国土交通省「国土交通白書」ぎょうせい、土木業界に関連する図書 教材:適宜、プリントを配布する。								
成績評価の方法 ・基準等	調査課題発表 20 点満点(学習教育到達目標 G)、レポート課題 50 点満点(学習教育到達目標 H)、授業への積極的参加状況 30 点満点で評価する。但し、調査課題発表とレポート課題のそれぞれが満点の60%以上を合格とする。								
受講要件(履修条件)	全回出席を前提とする。ただし、やむを得ず欠席する場合は個別指導を行うので担当教員に連絡すること。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(F)、(G)、(H)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)、(e)、(f)、(h)、(i)に対応する。								

社会環境デザイン工学コース

年度	2026	学期	後期	曜日・校時	他	必修選択	必修	単位数	68
授業科目	学外実習及び見学(社会)				担当教員 (科目責任者)	西川 貴文			
(英語名)	Internship Study and Field Trip				E-mail アドレス				
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部 1号館 3階 教員・ゼミ室			
講義形態	実習	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2626(コース事務局)			
教室					オフィスアワー	別途通知する.			
担当教員 (オムニバス等)	西川 貴文								
授業の概要 及び位置づけ	建設現場、事務所および工場等に出向き、実務的問題に直面することによって、「大学内で教わって得た知識が現実の社会ではどのように活かされているか」について理解を深める。さらに、学生が自己の職業適性および将来設計について考える機会を与えとともに、主体的な職業選択と高い職業意識の高揚を図ることが本科目のねらいである。								
授業到達目標	土木技術者が経験する実務的問題を正確に把握することができる。さらに、各種の制約条件および進捗状況に配慮しながら周囲と協調しながら問題解決を図っていくことができる。【コースの学習・教育到達目標】(H)(I)を達成するための科目である。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	現場見学や実習を行う。								
キーワード	インターンシップ／社会基盤施設／建設現場見学								
教科書・教材・参考書	特になし。								
成績評価の方法 ・基準等	学外実習受入機関からの報告書 40 点満点(学習教育到達目標 H)、学外実習報告レポート 40 点満点(学習教育到達目標 H)、現場見学会レポート 20 点満点(学習教育到達目標 I)で評価し、各項目の評価が 60% 以上の場合を合格とする。なお、学外実習と現場見学のいずれか一方でも参加できない場合は再履修する必要がある。								
受講要件(履修条件)	基本的に「構造力学」、「地盤力学」、「水理学」、「測量学」および「測量実習」の単位を修得済みであること。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(B)、(H)、(I)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(b)、(d)、(g)、(h)、(i)に対応する。								

年度	2026	学期	1Q	曜日・校時	月2、水1	必修選択	選択	単位数	65
授業科目	構造振動学				担当教員 (科目責任者)	西川 貴文			
(英語名)	Dynamics of Structures				E-mail アドレス	nishikawa@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3F302			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2625			
教室	[工学]1号館2F第4講義室				オフィスアワー	月曜日5校時			
担当教員 (オムニバス等)	西川 貴文								
授業の概要 及び位置づけ	橋や建物などの構造物の動的挙動を理解するため、振動を中心とする物理現象の理解、運動方程式とその解法、構造物の振動特性や共振現象について理解する。								
授業到達目標	構造物の振動の基本的な考え方が理解できること、構造物の振動特性(固有振動数および減衰)について正確に説明でき、また基本的な計算ができることを到達目標とする。(DP-3)【学科・コースの学習・教育到達目標】...(D)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第1回 社会基盤施設の振動現象概説動力学の基礎(物体、加速度と外力の関係について理解する)</p> <p>第2回 1自由度系の自由振動(質量-ばね系の基本について理解する)</p> <p>第3回 1自由度系の自由振動(振動の特性とエネルギーについて理解する)</p> <p>第4回 1自由度系の減衰自由振動①(減衰の考え方について理解する)</p> <p>第5回 1自由度系の減衰自由振動②(運動方程式とその解について理解する)</p> <p>第6回 1自由度系の減衰自由振動③(減衰の状態、振動の特性を理解する)</p> <p>第7回 1自由度系の減衰自由振動④(減衰の状態、振動の特性を理解する)</p> <p>第8回 中間評価(試験も含む)と指導(試験の問題を解くことができる)</p> <p>第9回 1自由度系の強制振動①(衝撃力による振動について理解する)</p> <p>第10回 1自由度系の強制振動②(規則的に変化する外力による振動について理解する)</p> <p>第11回 1自由度系の強制振動③(不規則な外力が生じた場合の定式化について理解する)</p> <p>第12回 2自由度系の減衰自由振動(2自由度系の減衰自由振動について理解する)</p> <p>第13回 マトリクス振動解析①(多自由度系の運動方程式を行列で理解する)</p> <p>第14回 マトリクス振動解析②(多自由度系の運動方程式を行列で理解する)</p> <p>第15回 2自由度系の強制振動(外力が作用する2自由度系の挙動をアニメーション等により理解する)</p> <p>第16回 期末評価(試験も含む)と指導(試験の問題を解くことができる)</p>								
キーワード	振動工学／運動方程式／自由振動／強制振動／固有振動数／減衰								
教科書・教材・参考書	平井一男、水田洋司著「耐震工学入門」(森北出版)								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況 15 点満点、中間試験 40 点満点、期末試験 45 点満点。ただし、中間試験と期末試験の合計が、満点の 60%以上を合格とする。								
受講要件(履修条件)	「構造力学Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであること。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	4Q	曜日・校時	火1、木1	必修選択	選択	単位数	38
授業科目	建設材料学				担当教員 (科目責任者)	中村 聖三			
(英語名)	Materials for Civil and Environmental Engineering				E-mail アドレス	shozo@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3階 教員・ゼミ室309			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2613			
教室					オフィスアワー	木曜日5校時。それ以外も対応しますが、できるだけ事前にメール等で連絡してください。			
担当教員 (オムニバス等)	中村 聖三								
授業の概要 及び位置づけ	基本的な土木材料の特性と利用方法を理解し、実務において適切な材料選定を行うための基礎的な知識を身に付ける。								
授業到達目標	鉄鋼、セメント・コンクリート、アスファルト材料、高分子材料、木材の基本的な性質、種類、利用方法が説明でき、コンクリートの配合設計ができること。【学科・コースの学習教育到達目標】(D)を達成するための科目である。【JABEE基準】(d)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	1回 ガイダンス／総論(材料の分類、要求される機械的・物理的性質を説明できる) 2回 コンクリート 1:セメントの製造方法、種類、水和反応(セメントの製造方法、種類、水和反応を説明できる) 3回 コンクリート 2:骨材の性質とその評価法、水、混和材料の種類と働き(混和材料の種類と働き、骨材の性質とその評価法を説明できる) 4回 コンクリート 3:フレッシュコンクリートの諸性質、配合設計(フレッシュコンクリートの諸性質とその測定法を説明でき、配合設計ができる) 5回 コンクリート 4:硬化コンクリートの特性(硬化コンクリートの特性、耐久性について説明できる) 6回 コンクリート 5:コンクリートの耐久性、レディーミクストコンクリート、特殊コンクリート、非破壊試験、リサイクル(コンクリートの非破壊試験や特殊コンクリートの種類と概要、レディーミクストコンクリートの種類と呼び方が説明できる) 7回 中間試験①(問題の60%以上を正しく解ける) 8回 鉄鋼 1:鋼材の製造プロセスおよび材質の制御(鋼材の製造方法および基本的な性質を説明できる) 9回 鉄鋼 2:加工と溶接性、性質(鋼材の性質に影響を及ぼす因子、加工と溶接性について説明できる) 10回 鉄鋼 3:鋼材の種類と用途 1(鋼材の使用量、鋼材の種類と用途について説明できる) 11回 鉄鋼 4:鋼材の種類と用途 2、鋳鉄、合金鋼、リサイクル(合金鋼、鋳鋼の種類と用途について説明できる) 12回 高分子材料(高分子材料の製造法、基本的な性質を説明できる) 13回 瀝青材料(アスファルト材料の性質や試験法を説明できる) 14回 木材(木材の種類と性質を説明できる) 15回 中間試験②(問題の60%以上を正しく解ける) 16回 定期試験(問題の60%以上を正しく解ける)								
キーワード	コンクリート／鉄鋼／高分子材料／アスファルト材料／木材／石材								
教科書・教材・参考書	教科書:中村聖三・奥松俊博 著「土木材料学」コロナ社 教材:必要に応じて、プリント資料を配布する。								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(15点満点)、レポート課題(5点満点)、試験(80点満点)。ただし、最終試験の正答率より低い評価を与えることはなく、総合評価が60点を超えても試験の正答率が60%未満の場合は不合格とする。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 ／JABEE基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	2Q	曜日・校時	水1、木2	必修選択	選択	単位数	39
授業科目	コンクリート構造工学				担当教員 (科目責任者)	奥松 俊博			
(英語名)	Concrete Engineering				E-mail アドレス	okumatsu@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3F302			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL				
教室	[工学]1号館2F第4講義室				オフィスアワー	木曜日5校時(事前にアポイントを取ること)			
担当教員 (オムニバス等)	奥松 俊博								
授業の概要 及び位置づけ	本講義は「社会基盤整備と管理」の観点においてコースの発展科目として位置付けられている。コンクリート構造物を設計する際の基本的な考え方と設計に必要な種々の設計計算式を理解すること、さらに実設計に適用できる能力を養成することが本講義のねらいである。								
授業到達目標	本講義の内容を修得することにより、コンクリート構造物の力学的性質やコンクリート構造物の設計に必要な諸条件を理解することができるようになる。また、外力により部材に発生する応力と部材断面が保有する強度の関係から設計断面の安全性を照査できるようになる。【工学部のDP】③【社会環境デザイン工学コースの学修到達目標】⑥-b、⑥-c【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。【JABEE基準】...(d-3)、(d-4)、(d-5)、(d-6)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 講義概説および材料の性質(コンクリート材料の力学的性質を理解する) 第2回 プレストレストコンクリート※(PCの概念およびPC橋の施工技術について理解する)[非常勤講師:PC建協] 第3回 曲げ耐力(曲げを受ける部材の耐力について概念を理解する) 第4回 曲げ耐力(矩形応力ブロックの考え方と安全性の照査について理解する) 第5回 曲げ耐力(曲げを受ける部材の耐力について基本的例題を解くことができる) 第6回 コンクリート構造の分類と設計法の概説(コンクリート構造の基本を理解する) 第7回 限界状態設計法(コンクリート設計法のうち限界状態設計法について理解する) 第8回 中間評価 第9回 軸方向耐力(軸圧縮力を受ける部材の耐力について理解する) 第10回 軸方向耐力(軸圧縮力を受ける部材の耐力について基本問題を解くことができる) 第11回 せん断耐力(せん断力を受ける部材の耐力について理解する) 第12回 せん断耐力(せん断力を受ける部材の耐力について基本問題を解くことができる) 第13回 一般構造細目(設計に必要な細目について理解する) 第14回 耐久設計法(中性化等を対象とした耐久設計法について理解する) 第15回 耐久設計法(塩害等を対象とした耐久設計法について理解する) 第16回 期末評価(試験も含む)と指導								
キーワード	コンクリート/鉄筋コンクリート/耐力/プレストレストコンクリート								
教科書・教材・参考書	教科書:「コンクリート構造工学」森北出版 参考書:「コンクリート構造学」コロナ社など								
成績評価の方法・ 基準等	授業への積極的参加状況(15%)、レポート課題(15%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)。ただし中間試験と期末試験の合計が60%未満の場合は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	「構造力学Ⅰ・Ⅱ」、「社会環境デザイン工学実験・実習B」を履修済みであること。また「建設材料学」を履修済みであることが望ましい。								
学習・教育到達目標 /JABEE基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	2Q	曜日・校時	月 2、金 2	必修選択	選択	単位数	40
授業科目	水文学				担当教員 (科目責任者)	瀬戸 心太			
(英語名)	Hydrology				E-mail アドレス	seto@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3 年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3階 教員・ゼミ室303			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL				
教室	[工学]1号館2F第4講義室				オフィスアワー	Eメールで質問を受け付けます。			
担当教員 (オムニバス等)	瀬戸 心太								
授業の概要 及び位置づけ	地球上の水循環について体系的に理解し、降水量や河川流量など重要な水文量の観測および推定手法を習得する。								
授業到達目標	水文学の専門的知識を修得し、また水理学の基礎的な知識を応用することで、降水量や河川流量など主要な水文量について、簡易な手法で推定を行ったり、観測データを計算機上で処理できるようになる。工学部の DP⑥-c に対応する コースの学習・教育到達目標(D)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第 1 回 水収支(降水量と河川流量から水収支の計算ができる)</p> <p>第 2 回 雨量計(雨量計による降水量の観測について説明できる)</p> <p>第 3 回 雨量の空間内挿(雨量計データを用いてティーセン法や Inverse Distance Method により雨量の領域平均を求めることができる)</p> <p>第 4 回 レーダ(レーダによる降水量の観測について説明できる)</p> <p>第 5 回 雨滴粒径分布(ディストロメータのデータを用いて降水量やレーダ反射因子を算出できる)</p> <p>第 6 回 蒸発散、流出(蒸発散量を求める複数の方法を説明できる、流出過程について説明できる)</p> <p>第 7 回 ハイドログラフ・ハイトグラフ(流量データと降水量データを基にハイドログラフとハイトグラフを描くことができる)</p> <p>第 8 回 合理式・単位図法(合理式・単位図法を用いた流量計算ができる)</p> <p>第 9 回 タンクモデル(タンクモデルを用いた流量計算ができる)</p> <p>第 10 回 防災情報と確率分布(防災情報における確率の利用について説明できる)</p> <p>第 11 回 正規分布(正規分布についての統計量を導出できる)</p> <p>第 12 回 年降水量の極値統計(年降水量データをもとに確率降水量を計算できる)</p> <p>第 13 回 対数正規分布・グンベル分布(対数正規分布・グンベル分布についての統計量を導出できる)</p> <p>第 14 回 日降水量の極値統計(年最大日降水量データをもとに確率降水量を計算できる)</p> <p>第 15 回 まとめ(水文学に関する演習問題に解答できる)</p>								
キーワード	水文学／水循環／水資源／水災害								
教科書・教材・参考書	教科書：指定しない 教材：講義資料を適宜配布する(LACS に事前掲載予定) 参考書：「雨はどのような一生を送るのか」(三隅良平・著、ベレ出版)								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(15 点満点)、レポート・小テスト(85 点満点)で評価する。レポートには、計算機を利用して実際のデータを扱う課題を含む。レポート・小テストの得点率が 60%以上であることを合格の条件とする。								
受講要件(履修条件)	「水理学Ⅰ」「水理学Ⅱ」を履修・修得していることが望ましい。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(C)、(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	1Q	曜日・校時	月4、火2	必修選択	選択	単位数	58
授業科目	応用水理学				担当教員 (科目責任者)	瀬戸 心太			
(英語名)	Applied Hydraulics				E-mail アドレス	seto@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館 教員・ゼミ室 303			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL				
教室	[工学]1号館2F第4講義室				オフィスアワー	Eメールで質問を受け付けます。			
担当教員 (オムニバス等)	瀬戸 心太								
授業の概要 及び位置づけ	流体力学の基礎を簡単に復習した後、流体運動を説明する基礎方程式(連続方程式、運動方程式)について理解する。また、水環境問題の解析に必要な移流・拡散現象等を理解する。いずれの現象についても、質量、運動量、熱量(エネルギー)の保存則が共通の性質を有していることを理解する。								
授業到達目標	流体力学に関する専門的基礎知識を習得し、それらを水環境問題に応用することができる。工学部のDP⑥-cに対応する。コースの学習・教育到達目標(D)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 連続の式①(連続の式を導くことができる) 第2回 連続の式②(様々な状況において、連続の式を応用することができる) 第3回 完全流体の運動方程式①(完全流体の運動方程式を導くことができる) 第4回 完全流体の運動方程式②(ベルヌーイの定理を導出することができる) 第5回 完全流体の運動方程式③(様々な状況において、完全流体の運動方程式を応用することができる) 第6回 粘性流体の運動方程式①(粘性流体の運動方程式を導くことができる) 第7回 粘性流体の運動方程式②(様々な状況において、粘性流体の運動方程式を応用することができる) 第8回 まとめ(連続の式と運動方程式を組み合わせることで演習問題を解くことができる) 第9回 分子拡散①(拡散現象について説明することができる) 第10回 分子拡散②(拡散方程式を導出することができる) 第11回 分子拡散③(拡散方程式を解くことができる) 第12回 分子拡散④(3次元の拡散方程式を解くことができる) 第13回 乱流拡散①(乱流における運動方程式を導出することができる) 第14回 乱流拡散②(乱流拡散方程式を導出することができる) 第15回 まとめ(拡散に関する演習問題を解くことができる) 第16回 評価と指導								
キーワード	流体運動/物質輸送								
教科書・教材・参考書	教科書:とくに指定しない。教材:講義資料を配布する。(LACSに事前掲載予定)参考書:別途指示する。								
成績評価の方法・ 基準等	授業への積極的参加状況(15点満点)、課題(85点満点)で評価する。ただし、課題の得点率が60%未満の場合は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	「水理学Ⅰ」・「水理学Ⅱ」を履修していることを前提にする。								
学習・教育到達目標 /JABEE基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	1Q	曜日・校時	木 2、金 2	必修選択	選択	単位数	67
授業科目	環境地質学				担当教員 (科目責任者)	蔣 宇静			
(英語名)	Engineering Geology				E-mail アドレス	jiang@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部 1号館 3階			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2612			
教室	[工学]1号館4F第10講義室				オフィスアワー	木曜日 5校時			
担当教員 (オムニバス等)	蔣 宇静								
授業の概要 及び位置づけ	土木構造物は自然の地盤につくられるため地盤の性質を理解しておく必要がある。そのために、諸々の物理的な測定値を得る調査と地質学的な調査がなされ、地盤状況の問題点が把握される。授業では地質時代、岩石の分類など地質分野の重要事項を解説する。また、地形と地盤の関係、プレートテクトニクス、地盤と地質構造、地質汚染などを説明する。								
授業到達目標	地質学的に地盤を知ることによって、物理的な測定データとボーリングなどの解釈、予想される自然災害、自然環境の汚染などを予測評価できる。(DP③)を達成するための科目である【コースの学習・教育到達目標】...【6-c】に対応する。【構造工学コースの学習・教育到達目標】...【6-c】に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 概論、「環境地質学」とは何？何のために学ぶ？ 第2回 基礎編(1):地質学の歴史・地質学の基本原理について説明する。 第3回 基礎編(2):地質年代、年代測定法、地層の対比などを具体的に例示する。 第4回 基礎編(3):火成岩の組織と分類、火山、火成岩の組織と産状の関係などについて説明する。 第5回 基礎編(4):堆積物の粒径区分、堆積物の分類、流れによる分級作用を解説する。 第6回 基礎編(5):変成作用、変成岩の組織と分類、日本での変成岩の分布などについて説明する。 第7回 基礎編(6):日本列島の地質学的特長について説明する。 第8回 基礎編(7):沖積層(軟弱地盤)の地質学的特長について説明する。 第9回 基礎編(8):地形と地質図の読み方と地質図の作成法を説明する。 第10回 応用編(1):プレートテクトニクスと日本列島の地震発生の仕組みについて説明する。 第11回 応用編(2):軟弱地盤、地盤の沈下、液化現象などについて実例をあげて説明する。 第12回 応用編(3):地すべりと地質との関係について長崎県下の実例を用いて説明する。 第13回 応用編(4):地震災害と地質との関係について説明する。 第14回 応用編(5):火山災害と地質の関係について長崎県下の実例を用いて説明する。 第15回 応用編(6):地質汚染・廃棄物処理を含む環境地質について実例を示して説明する。 第16回 評価(試験も含む)と指導								
キーワード	地質学/地盤/地すべり/地震/地盤災害/環境地質								
教科書・教材・参考書	教材:今井五郎・福井正治・足立勝治共著:地盤地質学、コロナ社 参考書:プリントを適宜配布する。								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況 30 点満点、最終試験 70 点満点。ただし、最終試験で 60%未満は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	やむを得ず欠席した場合は個別指導等を行う。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)、(F)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)、(e)、(h)に対応する。								

年度	2026	学期	3Q	曜日・校時	火2、木3	必修選択	選択	単位数	42
授業科目	地圏環境工学				担当教員 (科目責任者)	蔣 宇静			
(英語名)	Geosphere Environmental Engineering				E-mail アドレス	omine@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3階教員・ゼミ室306			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2621			
教室					オフィスアワー	金曜日 5校時			
担当教員 (オムニバス等)	蔣 宇静								
授業の概要 及び位置づけ	地盤工学の取り扱う範囲は工学、農学、理学の多様な領域にわたっており、建設の場だけに限定しても、「地盤環境」への影響は少なくない。一般に、地盤環境と生態環境とはしばしば対立軸で遭遇するから、両者の相関を適正に対処する手法の確立が求められる。すなわち、地盤工学で取り扱うべき「地盤環境」課題は極めて多様で、かつ多彩である。環境保全の重要性が大きく叫ばれている今日、地盤にかかわる環境問題をおろそかにできない。								
授業到達目標	地盤工学で取り扱うべき「地盤環境」課題はきわめて多様で、かつ多彩である。環境保全や循環型社会の構築において、地盤環境工学の果たす役割は大きい。授業をとおして、これらの課題を解決するための具体的方策を提案し、自分の意見を発表できる。DP③								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>(第1～5回: 土壌汚染対策と廃棄物の有効利用について理解することができる)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地盤環境のあらまし 2. 地盤汚染 3. 土壌・地下水汚染の調査方法と対策技術 4. 廃棄物の埋立処分 5. 廃棄物の埋立と廃棄物地盤の安定化 <p>(第6～8回: 建設発生土と廃棄物の有効利用について理解することができる)</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 建設発生土と廃棄物の有効利用 7. 廃棄物系地盤材料の有効利用 8. 有効利用に伴う環境への影響と対策 <p>(第9～15回: 地下空間、災害、地盤環境について理解することができる)</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 地下空間の保全と利用 10. 地震災害と対策 11. 斜面災害と対策 12. 地盤沈下・地盤振動と対策 13. 水域、水際と地盤環境 14. 生態系と地盤環境 15. 地球環境問題と地盤環境 16. 評価と指導集中講義形式で実施し、予習・復習のために随時、レポート課題を課し、最終試験を実施する。 								
キーワード	地盤環境, 廃棄物, 地盤災害, 地球環境問題								
教科書・教材・参考書	「地盤環境工学」嘉門 雅史・大嶺 聖・勝見 武, 共立出版, 2010年								
成績評価の方法 ・基準等	レポート課題, 最終試験による総合評価(評価配分: レポート課題 40%, 最終試験 60%)。総合評価点が60%以上を合格とする。								
受講要件(履修条件)	第1回講義時に受講要領(履修条件, 成績評価等)を配布・説明する。								
学習・教育到達目標 / JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)、(F)、(I)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)、(e)、(g)、(h)に対応する。								

年度	2026	学期	3Q	曜日・校時	木 3、金 2	必修選択	選択	単位数	43
授業科目	環境計画学				担当教員 (科目責任者)	石橋 知也			
(英語名)	Environmental Planning				E-mail アドレス	itomoya@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	2年	対象学生	社会		研究室	工学部 1号館 3F 教員・ゼミ室 304			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2611			
教室					オフィスアワー	木曜 5校時			
担当教員 (オムニバス等)	石橋 知也								
授業の概要 及び位置づけ	環境計画及び環境保全に係るまちづくりに関する基礎的知識を習得する。								
授業到達目標	環境問題、環境計画に係る制度、環境規制手法、環境の評価方法、環境アセスメント、環境保全に係るまちづくりの概念と手法について理解できるようになる。【コースの学習・教育到達目標】(D)に対応する								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	1 回目 環境と環境問題(日本における環境問題の歴史、都市地域型環境問題、地球環境問題を説明できる) 2 回目 環境マネジメントの基本(環境政策の原則、環境基本法、環境基本計画を説明できる) 3 回目 環境経済学の基礎(環境問題を経済学的視点で説明できる) 4 回目 環境規制の法制度(規制による環境問題解決を説明できる) 5 回目 経済的インセンティブ(1)(金銭的取引による環境問題解決を説明できる) 6 回目 経済的インセンティブ(2)(排出権取引による環境問題解決を説明できる) 7 回目 費用便益分析(費用便益分析と環境資源の効率的配分を説明できる) 8 回目 環境価値の経済的評価(環境価値の金銭的評価方法を説明できる) 9 回目 多基準分析(多基準分析の理論を説明できる) 10 回目 環境アセスメント(環境アセスメントの意義、手続き、手法を説明できる) 11 回目 自然環境と歴史的環境(日本における自然環境および歴史的環境の保護政策を説明できる) 12 回目 公園緑地計画(公園緑地の意義と計画の基本的考え方を説明できる) 13 回目 ランドスケープと都市デザイン(ランドスケープと都市デザインの関係性を説明できる) 14 回目 日本の伝統的空間構成(日本の風土や美意識と結びついた空間構成を説明できる) 15 回目 エコロジカルな都市(都市をエコロジカルな視点で説明できる) 16 回目 期末評価(試験も含む)と指導								
キーワード	環境問題／マイクロ経済学／アセスメント／公園／緑地／ランドスケープ								
教科書・教材・参考書	教科書:指定しない 教材:資料を適宜配布する 参考書:萩原清子編著「生活者からみた環境のマネジメント」昭和堂								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況 15 点満点、レポート課題 15 点満点、期末試験 70 点満点。ただし、レポート課題と期末試験が満点の 60%以上を合格とする。また、レポート課題を全て提出した者のみ、成績を評価する。								
受講要件(履修条件)	全回出席を原則とする。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(B)、(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(b)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	前期	曜日・校時	水 3	必修選択	選択	単位数	44
授業科目	空間情報処理学				担当教員 (科目責任者)	吉川 沙耶花			
(英語名)	Spatial Information Engineering				E-mail アドレス	sayaka_yoshikawa▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館 教員・ゼミ室 305			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL				
教室	[工学]1号館2F第4講義室				オフィスアワー	Eメールで質問を受け付けます。			
担当教員 (オムニバス等)	吉川 沙耶花								
授業の概要 及び位置づけ	社会環境システム工学コースの基礎科目								
授業到達目標	三次元空間を二次元に投影する地図の基礎的な理解ができるようになる。空間情報として持つべき性質と、その活用法が取得できる。地理情報システムを理解し活用することができるようになる。工学部のDP⑥-dに対応する。コースの学習・教育到達目標Dに対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第1回 GISの基礎①(地理情報システムの概要紹介、時刻、地球の表現法、地図投影法 (solar time、standard time、datum、geoid が理解でき、各種地図投影法の特徴が理解できる。)</p> <p>第2回 GISの基礎②(地理情報システムの概要紹介、時刻、地球の表現法、地図投影法 (solar time、standard time、datum、geoid が理解でき、各種地図投影法の特徴が理解できる。)</p> <p>第3回 ユーザーインターフェイス、レイアウト(地理情報システム入門:地理情報システムを実際に動かし、利用できるデータの特徴とその表示、解析法が理解できる)</p> <p>第4回 ベクターデータ(地理情報システム入門:地理情報システムを実際に動かし、利用できるデータの特徴とその表示、解析法が理解できる)</p> <p>第5回 ベクター属性データ(地理情報システム入門:地理情報システムを実際に動かし、利用できるデータの特徴とその表示、解析法が理解できる)</p> <p>第6回 バッファ解析(地理情報システム入門:地理情報システムを実際に動かし、利用できるデータの特徴とその表示、解析法が理解できる)</p> <p>第7回 ラスターデータ(地理情報システム入門:地理情報システムを実際に動かし、利用できるデータの特徴とその表示、解析法が理解できる)</p> <p>第8回 ラスターデータ操作、地形解析(地理情報システム入門:地理情報システムを実際に動かし、利用できるデータの特徴とその表示、解析法が理解できる、地理情報システム活用 :各種の主題図を作成できる)</p> <p>第9回 水文解析(地理情報システム活用 :各種の主題図を作成できる)</p> <p>第10回 適地分析(地理情報システム活用 :各種の主題図を作成できる)</p> <p>第11回 ネットワーク解析①(地理情報システム活用 :各種の主題図を作成できる)</p> <p>第12回 ネットワーク解析②(地理情報システム活用 :各種の主題図を作成できる)</p> <p>第13回 防災に役立つ地図作り①(地理情報システム活用 :各種の主題図を作成できる、地理情報システム活用 :地理情報システムへの導入と活用ができる)</p> <p>第14回 防災に役立つ地図作り②(地理情報システム活用 :各種の主題図を作成できる、地理情報システム活用 :地理情報システムへの導入と活用ができる)</p> <p>第15回 最終課題(地理情報システム活用 :地理情報システムへの導入と活用ができる)</p>								
キーワード	地理情報システム(GIS)、リモートセンシング								
教科書・教材・参考書	LACSより講義資料は配布する。また、Open document へのURLを適宜提示する。								
成績評価の方法・ 基準等	レポートがすべて期限までに受理された学生のうち、それらの成績が60%以上であれば合格とする。								
受講要件(履修条件)	特になし。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)、(E)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(c)、(d)、(e)、(g)に対応する。								

年度	2026	学期	3Q	曜日・校時	月4、水2	必修選択	選択	単位数	48
授業科目	建設マネジメント				担当教員 (科目責任者)	奥松 俊博			
(英語名)	Construction Management				E-mail アドレス	okumatsu@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3F302			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL				
教室					オフィスアワー	木曜日5校時			
担当教員 (オムニバス等)	奥松 俊博、勝田 哲史								
授業の概要 及び位置づけ	プロジェクトマネジメント(PM)および建設マネジメント(CM)に関する一般知識並びにCMの実践において重要な施計画と施工管理の知識を学習する。本講義は、一般的な技術者また土木技術者としての倫理観、また実務遂行のための基礎的能力を涵養するための、コース発展科目として位置付けられている。キャリア形成、就業に対する意識を高めるため、また建設業の将来像を認識することも本講義の目的の一つとしているため、非常勤講師(総合建設業)による講義(1回)を実施する。								
授業到達目標	本講義を通じて、PM および CM に必要な事項を理解することができる。また工程管理に必要な知識としてネットワーク工程表を作成し、「余裕」の考え方も重要性を理解できるようになる。「1級、2級土木施工管理技士」に関係する内容を提示する。将来の資格取得に必要な「管理」に関係する基礎知識の習得を到達目標とする。【工学部の DP】③【社会環境デザイン工学コースの学修到達目標】⑥-a、⑥-c、⑥-e【コースの学習・教育到達目標】...(B)、(D)、(H)を達成するための科目である。【JABEE 基準】...(b)、(d)								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 プロジェクトマネジメントの概要(PMについて理解する) 第2回 建設マネジメントの概要(CMについて理解する) 第3回 労働安全衛生管理(建設施工時の労働安全および衛生管理法について理解する) 第4回 工程管理(工程管理およびその方法について理解する) 第5回 ISO(品質管理・環境マネジメントに関する基準に関して理解する) 第6回 施工計画(施工計画とその手法について理解する) 第7回 原価管理1(原価管理の概要について理解する) 第8回 原価管理2(原価管理の概要について理解する) 第9回 ネットワーク工程表の作成1(クリティカルパスを理解する) 第10回 ネットワーク工程表の作成2(ネットワーク工程表を理解する) 第11回 PM/品質マネジメント(一般的な生産物に対する品質管理について理解する) 第12回 PM/バリューマネジメント(価値の考え方・管理手法を理解する) 第13回 建設業におけるCM/PM(プロジェクトマネジメント)事例および施工技術[非常勤講師] 第14回 PM/タイムマネジメント(基本的な時間管理について理解する) 第15回 DX事例・情報管理(I-Construction, CIM/BIM, 情報化施工, について理解する) 第16回 期末評価(試験も含む)と指導								
キーワード	プロジェクトマネジメント/建設マネジメント/工程管理/品質管理/施工計画/原価管理/リスク管理/ISO								
教科書・教材・参考書	教科書:別途指示する。配布資料を主とする。参考書:金子研一著「建設エンジニアの仕事術」(森北出版) よくわかる最新PMBOK第6版の基本 マンガでわかるプロジェクトマネジメント よりよくわかるプロジェクトマネジメント 担当になったら知っておきたい「プロジェクトマネジメント」実践講座								
成績評価の方法・ 基準等	授業への積極的参加状況(15点満点)、レポート課題(35点満点)、期末試験(50点満点)。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(B)、(D)、(H)を達成するための科目である。【JABEE 基準】...(b)、(d)、(h)、(i)に対応する。								

年度	2026	学期	3Q	曜日・校時	月3、水3	必修選択	選択	単位数	45
授業科目	景観デザイン				担当教員 (科目責任者)	石橋 知也			
(英語名)	Landscape Design				E-mail アドレス	itomoya@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3F 教員・ゼミ室304			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2611			
教室					オフィスアワー	火曜 5校時			
担当教員 (オムニバス等)	石橋 知也、鯖江 康裕								
授業の概要 及び位置づけ	公共空間を中心とした私たちの身の回りの環境を対象に、景観デザインのための基礎的知識の学習と演習を行う。								
授業到達目標	景観(風景)を構成する要素を理解し、景観をとらえるための基礎知識や景観デザインに関する法制度を説明できるようになる。また、現実の景観に対して、習得した知識をもとに、問題点を明確にし、対策についての提案を行うことができるようになる。【コースの学習・教育到達目標】(D)に対応する								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>1 回目 イントロダクション・風景について(景観デザインの意義について説明できる)</p> <p>2 回目 景観把握モデル・視覚と景観(景観把握モデルと視覚と景観の関係について説明できる)</p> <p>3 回目 モノのカタチ・空間のスケール(図と地、色彩、ヒューマンスケールについて説明できる)</p> <p>4 回目 風景の使い心地・体験する風景(アフォーダンス、シークエンス景観について説明できる)</p> <p>5 回目 風景とイメージ・住民参加の風景づくり・風景の規範(認知地図、コミュニティデザイン、規範風景について説明できる)</p> <p>6 回目 フィールドワーク(グループ設計の対象地の現場視察から風景をとらえることができる)</p> <p>7 回目 自然地理条件・地形と土地利用・地形の「つくり」(地形と風景の関係について説明できる)</p> <p>8 回目 景観まちづくり(景観法・景観条例の意義と内容について説明できる)</p> <p>9 回目 自然に則した暮らしの景・機能の読み解き・暮らしの「しつらえ」(暮らしに関わる風景の基本について説明できる)</p> <p>10 回目 景観と歴史(景観の成り立ちを歴史的な観点から説明できる)</p> <p>11 回目 近世城下町の都市計画・近代都市計画の導入(都市計画がもたらす風景形成への影響について説明できる)</p> <p>12 回目 景観計画グループ設計(1)(問題点を明らかにするためのグループ作業ができる)</p> <p>13 回目 景観計画グループ設計(2)(問題点への対策をまとめるためのグループ作業ができる)</p> <p>14 回目 景観計画グループ設計(3)(プレゼンテーションに向けたグループ作業ができる)</p> <p>15 回目 グループ発表(対象とする景観の問題点と対策をわかりやすく発表できる)、講義の振り返り</p>								
キーワード	風景／景観／まちづくり／文化的景観／都市計画／地域計画								
教科書・教材・参考書	教科書:小林一郎監修・風景デザイン研究会著「風景のとらえ方・つくり方」共立出版 教材:資料を適宜配布する 参考書:・内山久雄監修・佐々木葉著「ゼロから学ぶ土木の基本・景観とデザイン」オーム社・アレックス・カー「ニッポン景観論」集英社・篠原修編「景観用語事典・増補改訂第二版」彰国社								
成績評価の方法・ 基準等	授業への積極的参加状況 15 点満点、レポート課題 60 点満点、グループ発表 25 点満点。ただし、レポート課題、グループ発表の合計が 60%未満は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	全回出席を原則とする。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)、(F)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)、(e)、(h)に対応する。								

年度	2026	学期	後期	曜日・校時	火 1	必修選択	選択	単位数	66
授業科目	維持管理工学(社会)				担当教員 (科目責任者)	奥松 俊博			
(英語名)	Infrastructure Maintenance Engineering				E-mail アドレス	okumatsu@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3 年	対象学生	社会		研究室	工学部 1 号館 3F302			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL				
教室					オフィスアワー	木曜日5校時			
担当教員 (オムニバス等)	奥松 俊博、山口 浩平								
授業の概要 及び位置づけ	構造系の発展的科目として位置付けられる。社会基盤構造物の維持管理をテーマに、アセットマネジメント、構造物劣化現象およびメカニズム、補修・補強技術、損傷診断などについて修得する。								
授業到達目標	本講義を通して社会基盤の維持管理の重要性を認識することができる。コンクリート構造物・鋼構造物の損傷診断方法、損傷検出技術を、理論の習得と実用状況の理解を通じて修得できる。アセットマネジメントを、タックスペイヤーとユーザの関係、ライフサイクルコスト、維持管理に必要な技術的課題を通して総合的に理解することができる。【工学部の DP】③ 【社会環境デザイン工学コースの学修到達目標】⑥-c、⑥-e 【コースの学習・教育到達目標】...(D)、(I)を達成するための科目である。【JABEE 基準】...(d)、(g)に対応								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第 1 回 社会資本整備の歴史・維持管理の現状(維持管理の現状を理解する) 第 2 回 社会資本整備の歴史・維持管理の現状 第 3 回 アセットマネジメント(維持管理の考え方/パブリックアセットマネジメント) 第 4 回 ライフサイクルコスト(社会基盤構造物のライフサイクルコスト) 第 5 回 コンクリート構造物の劣化の要因と機構 第 6 回 鋼構造物の劣化の要因と機構 第 7 回 (中間試験) 第 8 回 現場におけるインフラ維持管理 [非常勤講師] 第 9 回 構造物の成立ちと壊れ方 第 10 回 構造物の地震などによる被害 第 11 回 橋梁のメンテナンスサイクル(点検・診断・措置・記録) その 1 第 12 回 橋梁のメンテナンスサイクル(点検・診断・措置・記録) その 2 第 13 回 橋梁における損傷を受けやすい部材および損傷の種類 第 14 回 道路橋の維持管理の実例 その 1 第 15 回 道路橋の維持管理の実例 その 2 第 16 回 期末評価(試験も含む)と指導								
キーワード	アセットマネジメント/鋼構造/コンクリート構造/健全度診断								
教科書・教材・参考書	教科書:別途支持予定、配布資料を主とする。参考書:「入門維持管理工学」(森北出版)								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(10%)、レポート課題(20%)、中間試験(35%)、期末試験(35%) ただし中間および期末試験の合計が 60%未満の学生は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	「構造力学Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであること。また「建設材料学」「コンクリート構造工学」を履修済みであることが望ましい。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)、(I)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)、(g)に対応する。								

年度	2026	学期	4Q	曜日・校時	火3、木3	必修選択	選択	単位数	50
授業科目	構造物設計工学				担当教員 (科目責任者)	中村 聖三			
(英語名)	Design of Structures				E-mail アドレス	shozo@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3階 教員・ゼミ室309			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2613			
教室					オフィスアワー	木曜日3校時。それ以外も対応しますが、できるだけ事前にメール等で連絡してください。			
担当教員 (オムニバス等)	中村 聖三								
授業の概要 及び位置づけ	構造物の破壊・損傷事例、構造設計の基本的な考え方、設計法の種類、作用と強度等について解説した後、プレートガーダー橋およびコンクリート橋台を対象に、モデル化、断面の仮定、断面力の決定法を解説するとともに、簡単な例で設計演習を行う。構造力学、コンクリート構造工学の学習内容を活用して、構造物がどのように設計できるかを理解する。								
授業到達目標	構造設計の概念を理解し、必要な資料を参照しながら、プレートガーダー橋やコンクリート橋台といった基本的な構造物の概略設計が各自で行えるようになること。【学科・コースの学習教育到達目標】(D)、(F)を達成するための科目である。【JABEE 基準】(c)、(d)、(e)、(g)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	1回 ガイダンス、構造設計とは、鋼橋の損傷・破壊事例 2回 構造物のライフサイクルと設計で考慮すべき事項 3回 設計法の種類と設計基準 4回 構造物に対する作用Ⅰ 5回 構造物に対する作用Ⅱ 6回 鋼部材の強度 1:柱および梁の強度 7回 鋼部材の強度 2:疲労強度 8回 中間試験 9回 鋼構造の設計 1:継手の設計 10回 鋼構造の設計 2:鋼桁の設計 11回 鋼構造の設計 3:合成桁の設計 12回 コンクリート構造の設計 1:コンクリート橋台に作用する外力の算定 13回 コンクリート構造の設計 2:許容応力度法による橋台躯体の設計 14回 コンクリート構造の設計 3:限界状態設計法による橋台躯体の安全性照査 15回 コンクリート構造の設計 4:限界状態設計法による橋台躯体の使用性照査 16回 定期試験								
キーワード	構造設計／鋼構造／コンクリート構造／許容応力度設計法／部分係数設計法								
教科書・教材・参考書	教材:必要に応じて、プリント資料を配布する。参考書:日本道路協会「道路橋示方書・同解説」(丸善)、構造力学・コンクリート構造工学のテキスト								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(10点満点)、レポート課題(20点満点)、試験(70点満点)。ただし、試験の正答率より低い評価を与えることはなく、総合評価が60点を超えても試験の正答率が60%未満の場合は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	「構造力学」、「コンクリート構造工学」の受講内容を復習しておくこと。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	2Q	曜日・校時	火 2、水 2	必修選択	選択	単位数	59
授業科目	数値構造解析				担当教員 (科目責任者)	西川 貴文			
(英語名)	Numerical Structure Analysis				E-mail アドレス	nishikawa@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	4 年	対象学生	社会		研究室	工学部 1 号館 3 階 教員・ゼミ室 311			
講義形態	演習	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2625			
教室	[工学]1号館2F第6講義室				オフィスアワー	月曜日 5 校時			
担当教員 (オムニバス等)	西川 貴文								
授業の概要 及び位置づけ	コンピュータを用いた構造解析・設計の現状を紹介した後、有限要素法の基礎理論を講義する。次いで、数値解析における主要な計算手法について、講義とプログラミング演習を行う。さらに、有限要素モデルの作成と解析演習を行う。構造力学、鋼構造設計法、コンクリート構造工学の学習内容とコンピュータを活用して、構造物の挙動をどのように解析できるかを理解する。								
授業到達目標	構造解析の基本的な考え方、有限要素法の基礎理論、主要な数値計算アルゴリズムを理解するとともに、代表的な構造物のモデル化と解析ができるようになること。(DP-6d)【学科・コースの学習教育到達目標】(D)を達成するための科目である。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第 1 回 ガイダンス／構造解析とは／コンピュータによる構造解析の現状(コンピュータを用いた構造解析の現状を説明できる)有限要素法の原理①(有限要素法の基本原理を説明できる) 第 2 回 有限要素法の原理②(有限要素法の理論を説明できる) 第 3 回 構造解析のための数値計算環境の利用①(数値計算ソフトウェアを利用できる) 第 4 回 構造解析のための数値計算環境の利用②(数値計算ソフトウェアを利用できる) 第 5 回 構造解析のための数値計算環境の利用③(数値計算ソフトウェアを利用できる) 第 6 回 構造解析のための数値計算環境の利用④(数値計算ソフトウェアを利用できる) 第 7 回 構造解析のための数値計算環境の利用⑤(数値計算ソフトウェアを利用できる) 第 8 回 構造解析のための数値計算手法①(主要な数値計算アルゴリズムを説明できる) 第 9 回 構造解析のための数値計算手法②(主要な数値計算アルゴリズムを説明できる) 第 10 回 有限要素法によるモデル化と解析①(基本的な構造物の有限要素解析ができる) 第 11 回 有限要素法によるモデル化と解析②(基本的な構造物の有限要素解析ができる) 第 12 回 有限要素法によるモデル化と解析③(基本的な構造物の有限要素解析ができる) 第 13 回 有限要素法によるモデル化と解析④(基本的な構造物の有限要素解析ができる) 第 14 回 有限要素法によるモデル化と解析⑤(基本的な構造物の有限要素解析ができる) 第 15 回 有限要素法によるモデル化と解析⑥(基本的な構造物の有限要素解析ができる) 第 16 回 評価(試験も含む)と指導								
キーワード	構造解析／コンピュータ／数値計算／有限要素解析								
教科書・教材・参考書	教材:必要に応じて、プリント資料を配布する。参考書:泉・酒井著「実践有限要素法シミュレーション」(森北出版)など								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況 15 点満点、レポート 40 点満点、最終課題 45 点満点。ただし、レポートと最終課題の合計が、満点の 60%以上を合格とする。								
受講要件(履修条件)	「構造力学」、「コンクリート構造工学」の受講内容を復習しておくこと。全回出席を前提とするが、やむをえず欠席した場合は個別指導等を行う。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】... (D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】(c)、(d)、(e)、(g)に対応する。								

年度	2026	学期	4Q	曜日・校時	火 2、木 2	必修選択	選択	単位数	46
授業科目	環境生態学				担当教員 (科目責任者)	田中 亘			
(英語名)	Environmental Ecology				E-mail アドレス	w.tanaka@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3 年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館 2階 202号室			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2624			
教室					オフィスアワー	別途指示する			
担当教員 (オムニバス等)	田中 亘								
授業の概要 及び位置づけ	人的活動が生態環境に与える影響を理解できる素養を培い、その上に立って土木工学の現場に保全生態学の考え方と方法をいかに適用するかを学ぶ。								
授業到達目標	生態系の構成要素、機能生物と環境の間の相互作用を理解するとともに、銃・病原菌・鉄の輪読を通して生態系と今日の人間社会の在り方に関して理解することを目標とする。【コースの学習・教育到達目標】主として(D)、付随的に(B)(C)に対応する。【JABEE 基準】(b)、(c)、(d)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 生態系とは 第2回 生態系の構成要素・生態系の機能 第3回 生物のつながり 第4回 生物と環境の相互作用 第5回 生態系のエネルギーフロー 第6回 生物間の相互作用 1 第7回 生物間の相互作用 2 第8回 生物保護、景観保全と法制度 第9回 銃・病原菌・鉄 1 第10回 銃・病原菌・鉄 2 第11回 銃・病原菌・鉄 3 第12回 銃・病原菌・鉄 4 第13回 銃・病原菌・鉄 5 第14回 銃・病原菌・鉄 6 第15回 銃・病原菌・鉄 7								
キーワード	生態系／環境／多自然川づくり								
教科書・教材・参考書	教科書：指定しない 教材：適宜、印刷資料を配布する。「銃・病原菌・鉄」は貸与する。参考書：指定しない								
成績評価の方法 ・基準等	レポート(50 点満点)と「銃・病原菌・鉄」の輪読プレゼンテーション(50 点満点)で評価する。合計評価が60%未満の場合は不合格とする。授業に 2/3 以上出席しなければ学習・教育到達目標を達成していないものと判断し単位を認めない。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(B)、(C)、(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(b)、(c)、(d)に対応する。								

年度	2026	学期	4Q	曜日・校時	水2、木1	必修選択	選択	単位数	51
授業科目	水環境工学				担当教員 (科目責任者)	板山 朋聡			
(英語名)	Water Environment Engineering				E-mail アドレス	itayama@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	国際水環境工学コース、生物処理・生態工学研究室			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2495			
教室					オフィスアワー	9時30分～18時30分			
担当教員 (オムニバス等)	板山 朋聡								
授業の概要 及び位置づけ	水環境工学は極めて幅の広く、様々な工学や科学の分野と関連しているが、人の生活ともっとも密接に関係した学問でもある。特に、上下水道は重要な社会基盤(インフラ)であり、これ無くしては社会は成立しない。従って、社会環境デザインコースで学ぶべき重要な科目である。水質汚染の問題、水処理技術や排水処理技術に関しては、生物や化学の知識も必要となり、本コースの他の講義で学ばないことが多い。本授業では、上下水処理技術の基礎に関する事項に加え、自然湖沼やダム湖や貯水池の水環境汚染と修復についても学習する。本授業では、高校レベルの数学や理科(物理、化学、生物)の知識に大学初年級の物理や数学の若干の知識は要求されるが、講義の中で必要な知識は整理して学び直しを行いたい。また、各資格試験とも関連するが、公害防止管理者(水質関連)等がある。自治体では水環境分野の専門職や研究機関を持っている場合も多い。そのような職種に従事する場合には、本授業から得られる基礎的事項の理解が実務能力の向上に役立つはずである。特に、適切な水環境保全は最大の行政課題でもあるが、その課題解決ためには水環境の正しい理解が必須である。さらに、このような課題は国内ばかりではないが、海外、特に開発途上国の水質や水環境改善は非常に重要であり、本講義の最後に取り上げることとした。								
授業到達目標	本授業を受講することにより、水環境や水処理に関する原理的な基礎および専門知識を修得し、上水処理や下水・排水処理、さらに湖沼やダム貯水池の浄化に関する基礎的解析と基本的な設計ができるようになります。これらに関する小問題や演習課題を解くことで、実践的な能力を身につけ、理解を深め、「社会基盤整備と管理」の能力を身につけることができます。本授業は【コースの学習・教育到達目標】(D)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第1回 水環境問題全般についての総合的な解説と到達目標を示す。</p> <p>第2回 水環境を学ぶための水質化学の基礎知識(高校の化学レベル)として化学反応、化学平衡、化学反応速度を中心に解説する。また、エクセルを用いた水質化学計算法についても解説する。授業内演習とレポート課題</p> <p>第3回 水環境を学ぶための生物、特に微生物の基礎知識(高校の生物レベル)として、生体分子と微生物の代謝、遺伝と分子生物学、微生物と生態系の基礎を学習する。授業内演習</p> <p>第4回 水処理や水環境の基礎となるプロセス工学の基礎を学ぶ物質保存則と化学反応速度を基礎として、上下水処理や湖沼水質に関係するプロセス工学の基礎を学習する。エクセルを用いた簡単なプロセスの数値解法を紹介する。授業内演習とレポート課題</p> <p>第5回 上水道工学についての概観を与える。次に、水源(河川と湖沼)の生態系と水質問題、水と病原微生物、消毒について学習する。授業内演習</p> <p>第6回 上水処理プロセスの基礎となる凝集沈殿と砂ろ過、吸着と膜濾過について学習する。授業内演習とレポート課題</p> <p>第7回 下水道と排水処理について活性汚泥法を概観し、標準活性汚泥法の微生物による有機物分解をCODとBODを基礎として理解する。排水中の有害物質や排水の水質基準と法律に関して解説する。授業内演習</p> <p>第8回 標準活性汚泥の設計に応用するための活性汚泥プロセスの基礎を学ぶ授業内演習</p> <p>第9回 標準活性汚泥による排水処理における有機物除去に基づく設計演習を行う。授業内演習とレポート課題</p> <p>第10回 高度処理型活性汚泥法で重要な硝化脱窒反応、またりん除去について学ぶ。授業内演習</p> <p>第11回 今後、日本独自の分散型排水処理技術である浄化槽や他の排水処理技術について学ぶ。授業内演習</p> <p>第12回 湖沼などの水圏生態系の富栄養化問題、さらに有毒アオコ、有害藻類に関し学習する。授業内演習</p> <p>第13回 アオコなどが発生した富栄養化湖沼や内湾の汚染などを学ぶ。授業内演習</p> <p>第14回 生態工学技術による水域浄化事例に関して学ぶ授業内演習とレポート課題</p> <p>第15回 アジアやアフリカの開発途上国における水環境問題と対策事例を解説する。</p> <p>第16回 試験これまでの小テストやレポート課題を基礎として出題する。</p>								
キーワード	上水道、下水道、浄水処理、下水処理、排水処理、水環境保全、水圏生態系、富栄養化問題、生態工学 開発途上国								
教科書・教材・参考書	教科書はありませんので、毎回配布する講義資料を用います。参考書をいくつかあげます。「上水道工学(第5版)」岩崎 恭士(著)、木村 慎一(著)、田原 功(著)、成田 岳人(著)、藤川 和久(著)、本山 智啓(監修)、森北出版「汚水・排水処理 基礎から現場まで」三好康彦著 オーム社「Excelで解く水処理技術」徳村雅弘、川瀬義矩 東京電機大学出版局 また、公害防止管理者「水質関係」、下水道3種の試験対策の教本や問題集が役立ちます。化学や生物の基礎知識は高校の学習参考書や受験参考書に要領よくまとまっています。								
成績評価の方法 ・基準等	本講義は授業内の理解度確認小レポート、最終レポート課題により総合的に評価します。								
受講要件(履修条件)	パソコンでエクセルなどの表計算ソフトをインストールしてあり使用したことがあること。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	1Q	曜日・校時	月2、木2	必修選択	選択	単位数	60
授業科目	数値流出解析				担当教員 (科目責任者)	瀬戸 心太			
(英語名)	Numerical Runoff Analysis				E-mail アドレス	seto@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	4年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館303			
講義形態	演習	科目分類	専門科目		TEL				
教室	[工学]1号館2F第6講義室				オフィスアワー	Eメールで質問を受け付けます。			
担当教員 (オムニバス等)	瀬戸 心太								
授業の概要 及び位置づけ	水文学、空間情報処理学を基礎として、数値流出解析に関する発展的内容を学ぶ								
授業到達目標	「地理空間情報を用いた防災・減災」についての発展的知識を身につけ、災害リスクに関する計算ができるようになる。工学部のDP⑥-dに対応する。コースの学習・教育到達目標(D)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 序論 第2回 Linux 入門①(Linux の基礎的な使い方が分かる) 第3回 Linux 入門②(Linux を使ったプログラミングの作成・実行ができる) 第4回 極値統計①(極値統計の理論を説明できる) 第5回 極値統計②(実際のデータから、確率年を計算できる) 第6回 タンクモデル①(タンクモデルについて説明できる) 第7回 タンクモデル②(タンクモデルを用いて土壌雨量指数・河川流量を計算できる) 第8回 流出解析①(実際の流出解析モデルの概略を説明することができる) 第9回 流出解析②(流出解析モデルに必要な入力データを用意することができる) 第10回 流出解析③(流出解析モデルを動かすことができる) 第11回 流出解析④(流出解析モデルの出力結果を分析することができる) 第12回 氾濫解析①(実際の氾濫解析モデルの概略を説明することができる) 第13回 氾濫解析②(氾濫解析モデルに必要な入力データを用意することができる) 第14回 氾濫解析③(氾濫解析モデルを動かすことができる) 第15回 氾濫解析④(氾濫解析モデルの出力結果を分析することができる)								
キーワード	数値流出解析／水循環／空間情報処理								
教科書・教材・参考書	教科書:指定しない 教材:印刷資料を適宜配布する 参考書:別途指示する								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(30 点満点)、レポート(70 点満点)で評価する。ただし、レポートの得点率が60%未満の場合は不可とする。								
受講要件(履修条件)	「水文学」を受講していることが望ましい。								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(B)、(D)、(E)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(b)、(c)、(d)、(e)、(g)に対応する。								

年度	2026	学期	3Q	曜日・校時	月2、木4	必修選択	選択	単位数	61
授業科目	環境修復学				担当教員 (科目責任者)	大嶺 聖			
(英語名)	Environmental Remediation				E-mail アドレス	omine@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3階教員・ゼミ室306			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2621			
教室					オフィスアワー	火曜日 5校時			
担当教員 (オムニバス等)	大嶺 聖								
授業の概要 及び位置づけ	都市域の社会基盤整備によって市民生活の安全性と快適性が確保されてきたが、その一方で、自然環境の質的劣化を生じてきている。地圏や水圏で発生している環境の劣化の現状を理解し、修復のための技術を理解することをねらいとする。								
授業到達目標	都市域やその周辺域の環境質の劣化メカニズムを理解し、水圏や地圏における環境浄化や改善技術の基礎を理解することを目標とする。【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。【JABEE 基準】...(d)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	<p>第1～3回 地球環境問題と地域環境問題について理解することができる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境問題と地域環境問題の概要 2. 地球環境問題(地球温暖化、砂漠化、途上国の環境や公害問題、有害廃棄物の越境移動、有害廃棄物の越境移動) 3. 地域環境問題(自然環境、大気環境、水・土壌環境、リサイクル、健康・化学物質問題) <p>第4～9回 生態系の保全と環境修復について理解することができる</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 生態系の修復(1) 生態系と地盤環境 5. 生態系の修復(2) 自然環境保全、森林の減少・劣化、土壌浸食および砂漠化 6. 生態系の修復(3) 環境影響評価 7. 生態系の修復(4) 水域・水際の環境と保全 8. 生態系の修復(5) 底質浄化と干潟の保全 9. 生態系の修復に関するグループ討議第 <p>第10～15回 土壌・地下水汚染と環境修復について理解することができる</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 地盤環境の修復(1) 地盤汚染に関する調査・試験／浄化・修復対策の概要 11. 地盤環境の修復(2) 汚染物質の移流・拡散の予測法 12. 地盤環境の修復(3) 汚染土に対する各種対策技術 13. 地盤環境の修復(4) 廃棄物の埋立処分 14. 地盤環境の修復(5) リスクコミュニケーション 15. 地盤環境の修復に関するグループ討議 <p>第16回 評価(グループ発表も含む)と指導</p>								
キーワード	生態系/環境修復・改善技術/水圏/地圏								
教科書・教材・参考書	教科書:「地盤環境工学」嘉門他, 共立出版 参考書:石井:環境工学, 森北 楠田編:自然の浄化機構の強化と制御, 技法堂, など								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(20点)、レポート(20点)、最終試験(60点)。ただし、試験の正解率が60点未満は不合格とする。試験時に教科書の持ち込みを可とする。								
受講要件(履修条件)	環境生態学、水環境工学を履修していることが望ましい。								
学習・教育到達目標 /JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(B)、(D)、(I)を達成するための科目である。【JABEE 基準】...(b)、(d)、(g)に対応する。								

年度	2026	学期	4Q	曜日・校時	月4、木4	必修選択	選択	単位数	47
授業科目	環境計量学				担当教員 (科目責任者)	大嶺 聖			
(英語名)	Environmental Measurement				E-mail アドレス	omine@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	3年	対象学生	社会		研究室	工学部1号館3階教員・ゼミ室306			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2612			
教室					オフィスアワー	水曜日5校時			
担当教員 (オムニバス等)	大嶺 聖、奥松 俊博								
授業の概要 及び位置づけ	環境質の計測理論の基礎を理解すること、また、環境アセスメント等における環境測定・分析技術また計量結果の管理手法を説明できることを目標とする。								
授業到達目標	水質・大気質および騒音・振動に関する計測理論の基礎を理解し、環境アセスメント等における環境測定・分析技術また計量結果の管理手法を説明できることを目標とする。【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。【JABEE基準】...(d)に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第1回 環境計量の概要と目的を理解することができる 1. 概論：環境計量の目的 第2～8回 騒音・振動の理論および計測法について理解することができる 2. 環境関係法規：騒音・振動に係る基準・規制 3. 音響の性質 4. 騒音の計量技術 5. 振動の性質(1) 6. 振動の性質(2) 7. 振動加速度レベルの計量技術 8. 音圧レベルの計量技術 第9～15回 化学分析・濃度・水質計測の理論および計測法について理解することができる 9. 環境関係法規：大気質・水質に係る基準・規制 10. 環境計量の基礎：計量の化学的基礎 11. 化学分析概論および濃度の計量 12. 水質計測の実習 13. 計量の不確定性、統計処理 14. 分析値の精度管理 15. 環境情報の計測とモニタリングの事例 第16回 期末評価(試験も含む)と指導								
キーワード	環境計量, 環境アセスメント, 環境測定, 分析技術								
教科書・教材・参考書	教科書：とくに指定しない。適宜、資料を配布する。参考書：(社)日本環境測定分析協会：環境計量士への近道、丸善 高谷、秦：環境分析における不確かさとその求め方、丸善、など								
成績評価の方法 ・基準等	授業への積極的参加状況(20点満点)、レポート(10点満点)、試験(70点満点)。ただし、試験の正答率が60%未満の場合と総合点が60点未満は不合格とする。								
受講要件(履修条件)	環境関連の専門科目を履修していることが望ましい。								
学習・教育到達目標 ／JABEE基準	【コースの学習・教育到達目標】...(B)、(D)、(I)を達成するための科目である。【JABEE基準】...(b)、(d)、(g)に対応する。								

年度	2026	学期	前期	曜日・校時	他	必修選択	選択	単位数	49
授業科目	工業爆薬学				担当教員 (科目責任者)	杉本 知史			
(英語名)	Explosive Engineering				E-mail アドレス	y17864aist@yahoo.co.jp			
対象年次	4年	対象学生	社会		研究室	工学部 1号館 3階 社会環境デザイン工学コース事務室			
講義形態	講義	科目分類	専門科目		TEL	095-819-2626(コース事務室)			
教室					オフィスアワー	別途指示する。			
担当教員 (オムニバス等)	杉本 知史、緒方 雄二								
授業の概要 及び位置づけ	現在、我が国で産業用途に使用されている火薬類の総量は年間 4 万トン以上です。この莫大な量は火薬類が建設産業のみならず多くの産業において使用されています。本講義では、建設産業等で火薬類を安全かつ効率的に使用するために、火薬類の爆轟特性と爆破および発破法に関する基礎知識を習得させることを目的としています。								
授業到達目標	1. 火薬類の諸特性と性能を的確に理解することができる。2. トンネル発破・ベンチ発破に関する発破設計の概念を理解できる。3. 発破災害および環境問題に対する防止策を講じることができる。【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。【JABEE 評価基準】(d)に対応する。(DP-3)								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	第 1 回 火薬学の基礎:産業用火薬の歴史と現状 第 2 回 火薬学の基礎:爆発現象、爆轟現象、酸素バランス、後ガスなど 第 3 回 火薬:硝酸塩、硝酸エステル系、その他の火薬 第 4 回 爆薬 1:起爆薬、硝酸塩を主とする爆薬 第 5 回 爆薬 2:硝酸エステル系、ニトロ化合物等 第 6 回 火工品 1:工業雷管、電気雷管、非電気式起爆法等 第 7 回 火工品 2:その他の火工品、煙火類 第 8 回 性能試験法 1:感度試験法と仕事効果、感度試験法等 第 9 回 性能試験法 2:破壊効果、検定爆薬等 第 10 回 発破の基礎:発破の基礎、発破式、各種発破法。岩石の破壊メカニズム 第 11 回 発破法:発破の技術基準、電気発破法、非電気式発破法 第 12 回 発破法と発破設計:トンネル発破、ベンチ発破などの各種発破法と発破設計法 第 13 回 発破の環境問題:発破騒音、振動、火薬の LCA 評価 第 14 回 火薬類の応用技術:爆発合成・整形・加工などの新たな利用法 第 15 回 発破に関する新技術:都市解体発破、農耕発破等への応用、テロ対策 第 16 回 評価(試験も含む)と指導								
キーワード	火薬／火薬の諸特性／火薬の用途／性能試験法／起爆法／発破法／発破設計								
教科書・教材・参考書	教科書:日本火薬工業会資料編集部「火薬学」								
成績評価の方法・ 基準等	授業への積極的参加状況(40%)及び試験(60%)。但し、試験で 60%以上を合格とする。								
受講要件(履修条件)									
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(D)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(d)に対応する。								

年度	2026	学期	前期	曜日・校時	他	必修選択	必修	単位数	62
授業科目	卒業研究				担当教員 (科目責任者)	杉本 知史			
(英語名)	Research Project				E-mail アドレス	nishikawa@nagasaki-u.ac.jp			
対象年次	4 年	対象学生	社会		研究室	工学部 1 号館 3 階 教員・ゼミ室			
講義形態	実験	科目分類	卒業研究		TEL	095-819-2626			
教室					オフィスアワー	別途指示します			
担当教員 (オムニバス等)	杉本 知史								
授業の概要 及び位置づけ	通常の学部講義は、担当教員から学生への知識伝達の色が極めて濃いものである。また、実験および演習についても、TA の指導の下で与えられた装置や手順に従って進められることが大半であり、受動的になりやすい。一方、本科目である「卒業研究」は、先端的な研究テーマに対して指導教員の下ではあるが、学生が主体的に取り組まなければ最終目標に到達することができない科目である。1 つの研究室当り学生 10～9 名を担当し、1 テーマ 1～2 名で研究を実施する。								
授業到達目標	ゼミや作業などを通して、研究に必要な知識や技術を修得する。さらに、対象とする研究テーマの課題・問題点を自ら発見し、能動的に解決していく能力を身に付ける。【コースの学習・教育到達目標】(F)(G)(I)を達成するための科目である。【JABEE 基準】...(c)、(d)、(e)、(f)、(g)、(h)に対応する。【社会環境デザイン工学コースの学修到達目標:DP】...⑥-d、⑥-e に対応する。								
各回の授業内容・ 授業方法 (学習指導方法)	1 つの研究室当り学生 10～9 名を担当し、1 テーマ 1～2 名で研究を実施する。								
キーワード	知識や技術の修得、問題発見能力、解決能力								
教科書・教材・参考書	各研究室において、必要に応じて資料を配布する。								
成績評価の方法 ・基準等	卒業研究の中間発表により卒業研究の進捗状況を確認し、「卒業研究」共通ゼミへの積極的参加状況 10 点満点、主論文の内容 30 点満点、卒論試問会での発表 30 点満点、研究態度 30 点満点で評価する。コースの学習・教育到達目標との関連は別途、規定する。								
受講要件(履修条件)	履修の手引きに示される卒業研究の着手要件を満たすこと								
学習・教育到達目標 ／JABEE 基準	【コースの学習・教育到達目標】...(E)、(F)、(G)、(I)を達成するための科目である。 【JABEE 基準】...(c)、(d)、(e)、(f)、(g)、(h)に対応する。								